令和２年３月31日

多賀城市長
菊地　健次郎　殿

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎＮＰＯセンター
代表理事　渡　邉　一　馬　印

多賀城市市民活動サポートセンター
平成31年度運営業務成果報告書

平成31年度多賀城市市民活動サポートセンターの運営業務については、以下の通り報告いたします。

特定非営利活動法人せんだい・みやぎＮＰＯセンター
担当理事：青木ユカリ
宮城県仙台市青葉区国分町1-8-10 大和ビル４階
TEL 022-264-1281　FAX 022-264-1209
E-mail minmin@minmin.org

平成31年度運営業務成果報告書　目次

数字で見た平成31年度 …… 1
平成31年度の主なトピック／出来事 …… 2

Ⅰ　平成31年度運営業務報告
1 方針
（1）3ヵ年（平成29～31年度）の施設運営方針 …… 9
（2）平成29～31年度ロードマップ …… 11
2 平成31年度成果・課題
（1）平成31年度成果・課題 …… 13
（2）平成31年度実施事業一覧 …… 16
3 運営状況
（1）利用状況集計
①総利用件数・貸室利用率 …… 18
②利用団体の活動分野 …… 19
③利用団体の属性 …… 20
（2）相談対応実績 …… 23
（3）情報提供
①団体情報ファイル …… 31
②ウェブサイト・ブログ・ツイッター …… 34
③たがさぽ文庫 …… 35
（4）場の提供
①共同事務室入居団体インキュベート相談/ワークスペース運用状況 …… 36
②フリースペース利用状況 …… 37
（5）他団体・他機関との連携
①各会議・実行委員会への参加 …… 40
②他部署・他機関との連携事例 …… 45
4 事業実施状況
（1）課題解決に向けた連携モデルづくり
①多様な主体で課題に向かう場づくり …… 48
②自治会・町内会運営支援 …… 61
（2）人材育成
①雑貨市 …… 65
②NPOきっかけ塾 …… 73
③TAGAJO Future Labo …… 78
（3）情報発信強化
①月刊フリーペーパー「tag」発行 …… 86
②市民の発信力強化 …… 92
（4）市職員研修 …… 97
（5）その他事業
NPOの絵本展 …… 101

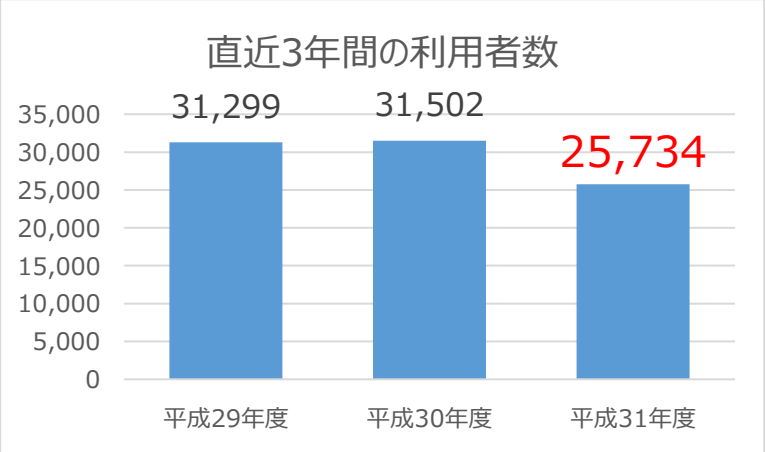
Ⅱ　令和2～4年度施設運営方針
1 令和2～4年度施設運営方針 …… 106
2 令和2～4年度ロードマップ …… 109

Ⅲ　添付資料 …… 110

数字で見た平成 31 年度

１．総利用者数　のべ 25,734 人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全額還付対象となった 2 月 20 日以降に 34 件の使用取消申出があり、うち還付 28 件。3 月 2 日～31 日の 26 日間の一部休館により 115 件 1,915 人の貸室利用分（見込数）が減少。2・3 月の利用数減に大きく影響した。



→詳細は 18 ページ「（１）利用状況集計」を参照

２．市民活動相談件数　のべ 414 件

→詳細は 23 ページ「（２）相談対応実績」を参照

３．配架情報総数　1,800 種類

→詳細は 22 ページ「参考：情報関連業務利用状況推移　情報掲示」を参照

４．36 本の企画を実施し、のべ 2,410 人、46 団体が参加（共催事業も含む）

→詳細は 47 ページ「I-4 事業実施状況」を参照

５．ＴＳＣの支援であわせて 7 団体が立ち上げ・法人化に至る

→詳細は 28 ページ「（２）相談対応実績　ステップ」を参照

６．団体情報は 60 団体が増えて 2,180 団体

二市三町では 19 団体が増えて 306 団体

→詳細は 31 ページ「（３）情報提供　①団体情報ファイル」を参照

平成 31 年度の主なトピック

多賀城市市民活動サポートセンター（以下、ＴＳＣ）は、平成 20 年 6 月の開館以来、地域づくりの拠点として、ＮＰＯや自治会・町内会、生涯学習団体等市民活動の力づけを行うとともに、市民・企業・行政等による協働の地域づくりをサポートし、開館より 11 年が経過した。

平成 29～31 年度 3 ヵ年の業務委託の 3 年目となる平成 31 年度を、主なトピックと出来事でふりかえる。

１．具体的な課題に多様な主体で協力して取り組む

平成 30 年度実施のＴＳＲ会議 Vol.2 のテーマ「だれも取り残さない社会」に向けた実践的な取り組みとして、ニーズとして挙がった日本で働く外国人と車いす利用者の視点でまちをあるく企画を実施した。当事者・企業・支援団体・地域の公共施設・相談機関等に協力・参加していただく中で、お互いの現状やできることを情報交換することができ、具体的・継続的な取り組みのきっかけとなった。外国人対象のまちあるきは、多賀城市国際交流協会主催の公開研修会実施につながり、その後、地域から技能実習生にイベント出演等の依頼が入ったり、外国人対象の日本語講座開催に向けた動きなど、市民活動団体・企業・市内公共施設等と連携した具体的・継続的な取り組みが生まれつつある。

２．アクションを起こす市民を生む

ＮＰＯいちから塾や TAGAJO Future Labo などの講座をきっかけに、自分の思いをかたちにし、行動を起こす市民を生むことができた。また、相談を通して新たな活動が立ち上がり、事業間の連携や、講座後のフォローアップ対応が効果を上げた。

３．市民活動やＴＳＣの認知が広がる

・市内外で開催された 8 つのイベントに、おでかけミニ雑貨市、たがさぽカフェ、ＮＰＯの絵本展で出展し、来館者以外にも身近な市民活動や社会課題、ＴＳＣを知る機会を設けた。
・クリスマス雑貨市では、来場者のうち 64.5%（アンケート集計による）が新規で来館し、新たに市民活動やＴＳＣを知る市民が増加した。
・事業告知や報告が、地元紙などのメディアに 17 回取り上げられた。

４．新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応に追われる

・2 月 19 日　3 月 13 日実施予定の TSR 会議を、感染リスクを考慮し中止を地域コミュニティ課に提案。→2 月 25 日　開催見合わせ決定。
・2 月 28 日　新型コロナウイルスを理由とした市内公共施設の 2 月 20 日～3 月 31 日分使用取り消し全額返還が決定。2・3 月受付件数　使用取消申出 34 件、うち還付 28 件。
・2 月 29 日　仙台市内で感染者の確認を受け、3 月 2 日～31 日市内公共施設の臨時休館決定。TSC も一部休館となり、貸室・フリースペース利用不可に。見込貸室利用人数 1,915 人。
・3 月 31 日　多賀城駐屯地に滞在していた陸上自衛隊員の感染確認を受け、の市内公共施設の臨時休館および全額還付期間が 4 月 21 日までとなった。

平成 31 年度の主な出来事

平成 31 年

4 月
5 日　視察　多賀城市新規採用職員研修「市民協働の取り組みについて」

令和元年

5 月
～6 日　施設管理　事務用ブース新規入居団体募集
～6 日　施設管理　事務用ロッカー・レターケース更新
16 日　施設管理　事務用ブース退去報告会
18 日　出展　鶴ヶ谷児童館こどもまつりＮＰＯ絵本展出展
20 日　掲載　河北新報夕刊　ＮＰＯの絵本展の紹介
24 日　掲載　河北新報朝刊　開館 10 周年記念誌の紹介

6 月
3 日　掲載　河北新報夕刊　ＮＰＯの絵本展告知
4 日　視察　岩沼市市民活動サポートセンター
7 日　掲載　朝日新聞　ＮＰＯいちから塾告知
9 日　事業　ＮＰＯいちから塾
16 日　事業　みんなにやさしいまちあるきツアーズ Vol.1
17 日　掲載　河北新報朝刊　みんなにやさしいまちあるきツアーズ報告
17 日　掲載　河北新報夕刊　TAGAJO Future Labo トークイベント告知
19 日　掲載　読売新聞　みんなにやさしいまちあるきツアーズ報告
29 日　出展　多賀城跡あやめまつりＮＰＯ絵本展出展
30 日　事業　みんなにやさしいまちあるきツアーズ Vol.2　※雨天中止

7 月
1 日　掲載　河北新報夕刊　おでかけミニ雑貨市告知
2 日　視察　秋田市市民交流サロン
7 日　事業　TAGAJO Future Labo1 回目公開スペシャルトーク
14 日　掲載　河北新報朝刊　TAGAJO Future Labo1 回目公開スペシャルトーク報告
15 日　事業　出前いちから塾
28 日　出展　おでかけミニ雑貨市／たがさぽカフェ＠ロビーステージ＆サークルフェア 2019
～30 日　施設管理　事務用ブース新規入居団体募集

8 月

2 日　視察　みやぎＮＰＯプラザ支援施設訪問事業
4 日　出展　シオーモ絵本まつり出前絵本展
4 日　事業　TAGAJO Future Labo2 回目
8 日　事業　サンノウスイッチ（山王地区公民館主催、共催事業）
19 日　視察　東北学院大学インターン受入
20 日　視察　東北学院大学インターン受入
24 日　出展　たがさぽカフェ＠史都多賀城環境グルーヴフェス
25 日　出展　たがさぽカフェ＠史都多賀城環境グルーヴフェス
25 日　事業　伝える名刺づくりのコツ

9 月

1 日　事業　TAGAJO Future Labo3 回目
7 日　事業　伝えたいコトを伝えたい人に伝えるプレゼン講座
13 日　事業　みんなにやさしいユニバーサルまちあるきツアーズ Vol.2
14 日　事業　伝えたいコトを伝えたい人に伝えるプレゼン講座（団体向け）
14 日　掲載　河北新報朝刊　みんなにやさしいユニバーサルまちあるきツアーズの報告
15 日　出展　おでかけミニ雑貨市＠たがマルシェ

10 月

6 日　出展　山王地区公民館まつり
6 日　事業　TAGAJO Future Labo4 回目
19 日　事業　多賀城のはたらく外国人（主催：多賀城市国際交流協会　共催：ＴＳＣ、ＭＩＡ）
24 日　視察　高崎中学校職場体験見学
25 日　事業　第二中学校 2 学年総合的な学習の時間
27 日　事業　情報発信強化事業　団体の個別相談会

11 月

1 日　事業　「すみだ」からみる多賀城の歴史（展示）
3 日　出展　たがさぽカフェ＠たがじょう食文化まつり
4 日　事業　TAGAJO Future Labo5 回目
7 日　視察　第二中学校職場体験見学
8 日　視察　松島高校職場体験見学
11 日　事業　出前いちから塾
21 日　施設管理　利用者アンケート実施（～12 月 10 日）
22 日　事業　町内会・自治会いいたい放談
27 日　掲載　河北新報朝刊　町内会・自治会いいたい放談の報告

12 月

2 日　掲載　河北新報夕刊　たがさぽのクリスマス雑貨市告知

7 日　事業　雑貨市ボランティア事前説明会
7 日　事業　雑貨市出展団体決起集会
9 日　事業　TAGAJO Future Labo 個別相談会
9 日　施設管理　事務用ブースインキュベート相談会
14 日　事業　TAGAJO Future Labo 個別相談会
16 日　事業　出前いちから塾@東北文化学園大学
17 日　出演　TBC ラジオ「エンボヤージュ」　雑貨市告知
17 日　施設管理　事務用ブースインキュベート相談会
20 日　出演　ミヤギテレビ「OH！バンデス」　雑貨市告知
22 日　事業　たがさぽのクリスマス雑貨市
23 日　事業　TAGAJO Future Labo 個別相談会
23 日　掲載　河北新報朝刊　たがさぽのクリスマス雑貨市報告
27 日　事業　TAGAJO Future Labo 個別相談会

令和 2 年

1 月
～5 日　施設管理　事務用ブース新規入居団体募集
6 日　掲載　河北新報夕刊　マイアプローチ発表会告知
15 日　事業　出前いちから塾@第二中学校 1 学年総合的な学習の時間
19 日　事業　TAGAJO Future Labo マイアプローチ発表会
25 日　掲載　河北新報朝刊　マイアプローチ発表会報告
26 日　掲載　河北まごころねっと　元隅田会会長の取り組みを紹介

2 月
26 日　施設管理　消防訓練

3 月
2 日～31 日　新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部休館
13 日　事業　TSR 会議 Vol.3　※新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施見合わせ
15 日　掲載　河北まごころねっと　サーラ文庫の取り組みを紹介
17 日　事業　市職員研修
31 日　施設管理　自動販売機撤収

新型コロナウイルスの対応経過

新型コロナウイルス感染症の影響に関する宮城県や多賀城市の動き、ＴＳＣの対応経過をまとめた。

日付	主体	内容
令和 2 年 1 月 27 日(月)	宮城県	新型コロナウイルス感染症対策本部設置
1 月 28 日(火)	ＴＳＣ	県発行のチラシを館内に掲示開始
2 月 5 日(水)	多賀城市	第 1 回感染症災害対策本部会議実施
2 月 19 日(水)	ＴＳＣ	市とのミーティングにて、感染リスクを考慮し 3 月 13 日(金)実施予定のＴＳＲ会議 Vol.3 の中止を提案
2 月 21 日(金)	ＴＳＣ	事業に関する問い合わせＦＡＱを作成し、スタッフ内で共有
2 月 25 日(火)	多賀城市	3 月 13 日(金)予定のＴＳＲ会議 Vol.3 実施見合わせ決定
2 月 27 日(木)	ＴＳＣ	ＴＳＲ Vol.3 会議実施見合わせの告知開始
同上	多賀城市	第 3 回感染症災害対策本部会議 市主催のイベント、会議の方針について決定
2 月 28 日(金)	多賀城市	第 4 回感染症災害対策本部会議 新型コロナウイルス感染拡大防止を理由とした市内公共施設の 2 月 20 日(木)～3 月 31 日(火)分は全額返還に決定
2 月 29 日(土)	多賀城市	第 5 回感染症災害対策本部会議 仙台市内で新型コロナウイルス感染者の確認を受け、3 月 2 日(月)～31 日(火)の市内公共施設の臨時休館が決定
3 月 2 日(月)～	ＴＳＣ	一部休館開始(貸室・フリースペース利用不可)
3 月 6 日(金)	多賀城市	開館時間は検討の結果、通常通りの時間に決定
3 月 19 日(木)	ＴＳＣ	フリースペース開放を地域コミュニティ課に提案
3 月 23 日(月)	多賀城市	第 7 回感染症災害対策本部会議 4 月 1 日(水)～15 日(水)の施設貸出再開が決定。同期間は全額還付対象。
3 月 27 日(金)	多賀城市	第 8・9 回感染症災害対策本部会議 近隣市町村で新型コロナウイルス感染者の確認を受け、施設貸出再開の期間が 4 月 1 日(水)～21 日(火)に変更。不特定多数が参加する行事の利用不可、3 つの密が重ならないよう対策徹底を求める
3 月 31 日(火)	多賀城市	第 10 回感染症災害対策本部会議 多賀城駐屯地に滞在していた陸上自衛隊隊員の感染確認を受け、4 月 1 日(水)～21 日(火)の市内公共施設の臨時休館が決定。(全額還付期間も同様)

・新型コロナウイルスを理由とした使用取消件数

使用取消 34 件　うち還付 28 件　(2・3 月受付分)

・3 月 2 日（月）～31 日（火）の一部休館期間に見込まれた貸室利用

見込件数 115 件　見込人数 1,915 人　（申請時の予定人数による）

Ⅰ

平成31年度運営業務報告

Ⅰ-1　方針

（１）3ヵ年（平成29～31年度）の施設運営方針（再掲）

平成 29～31 年度の 3 ヵ年の業務委託に際し、3 ヵ年（平成 29～31 年度）の施設運営方針を以下のように定めた。この方針に基づいて事業立案や運営を行っている。

ＴＳＣが目指す多賀城のまちの姿

市民・企業・学校・行政など地域のさまざまな主体が協力し合うことで、それぞれの暮らしの課題が解決されたり、暮らしがより充実したりし、笑顔があふれるまちになります。

ＴＳＣの役割

○まちの魅力や暮らしの課題に気づき、主体的に行動する市民が育まれる場。
○想いをかたちにできる場。想いをかたちにする伴走型サポーター。
○地域づくりに取り組むさまざまな主体のコーディネーター。

平成 29～31 年度でＴＳＣ運営において特に力を入れること

１）地域の課題を解決する、地域の価値を創造するためのさまざまな主体による連携の仕組みづくり

地域の課題を解決し、地域の価値を創造するためには、市民だけでなく地域のさまざまな主体が力を発揮し連携しながら取り組んでいく必要があります。

これまでの地域づくりに取り組む人・団体に加え、地元企業や高校・大学との関係づくりに重点的に取り組みます。

また、具体的な課題（例えば、高齢者の生活支援、空き地・空き家問題など）を設定し、さまざまな主体が参加して考え、実際に取り組む場をつくり、課題解決の取り組みモデルとして発信します。ＴＳＣに課題が持ち込まれ、ＴＳＣがコーディネート役となり、さまざまな主体が連携して解決する道筋をつくります。

２）地域づくりに関わる人材育成

少子高齢化が進む中で、地域づくりの新たな担い手を育成し、次世代につないでいくことが重要です。

例えば、以下のような視点で人材育成に取り組みます。

○想いをかたちにしている人たちの姿をみせ、「何かやりたい」という方へのアプローチを行う

相談や事業に参加する層をみると、20～40 代の現役層、60 代の退職後の方が多く、相談や事業

をきっかけに実際に活動を立ち上げています。「何かやりたい」という想いを持っている層にしぼった事業を行うことで、他の層への波及効果が期待できます。例えば、20～40 代であれば子育て世代でもあるので子ども世代に、60 代であればその下の年代である 50 代への波及効果をねらうことができます。

○文化交流拠点でＴＳＣは市民の稽古場・実験の場として

図書館や文化センターで行われるさまざまなイベント等を体験し、「何かやってみたい」という気持ちになった市民が、想いをかたちにしチャレンジできる場がＴＳＣです。ＴＳＣでの取り組みをきっかけに図書館・文化センターや地域で活躍するという循環をつくっていきます。

３）市民活動やＴＳＣを知る市民の増加

市民活動に関心のない方、「何かやりたい」と思っている方へさらなるアプローチを行うために、情報発信の強化に取り組む必要があります。

ウェブ・情報紙・館内展示などのＴＳＣの情報発信媒体の工夫、地域づくりを行う活動者の発信力の強化によって、市民がより地域づくりに関する情報にアクセスしやすい環境をつくります。

市民が地域づくりに関する情報にふれることによって、その中から市民活動に関心を持つ市民、実際に活動をはじめる市民を生み出していきます。

運営する上で大切にすること

○市民の力を信じ、市民とともに多賀城に新しい価値を創造します。
○多賀城の地域づくりが活発になるサポートをするという視点から行動します。
○多賀城の地域づくりを一緒に進めていく同志であるという視点から行動します。
○窓口対応は、相談につながる、ニーズを把握する大切なコミュニケーションです。
○正確な窓口対応を行います。

（２）平成 29～31 年度多賀城市市民活動サポートセンターロードマップ修正版（平成 31 年 4 月更新）

平成 30 年度の取り組みを踏まえ、平成 31 年度末にめざす姿へのステップを、平成 31 年度の具体的な取り組みとして加えた。

	現状と課題	平成 29 年度(2017)	平成 30 年度(2018)	平成 31 年度(2019)	3 年後の姿
重点的な 取り組み①	・下記事業を実施していくにあたり、企業、高校・大学と連携できる下地づくりが必要。	●企業との関係構築 ○地元企業の CSR 調査 ●高校・大学との関係構築 ○学生向けNPOきっかけ塾の実施 ○相談対応	○多様な主体で課題に向かう場づくり ○出前いちから塾 ○相談対応 ○学生向けNPOきっかけ塾の実施 ○相談対応	○多様な主体で課題に向かう場づくり ○出前いちから塾 ○相談対応 ○相談対応	・企業、高校・大学が地域づくりの主体として活躍している。
重点的な 取り組み② 開館 10 周年 記念事業	・多賀城のまちについて集まって話したり考えたりする場が少ない。	○プレイベントの実施 ・Vol.1「世代を超えて集う場」 Vol.2 「まちをもっとおもしろくするカギ」 →キーワードの収集	・ Vol.3 「だれもが暮らしやすい社会を考える」 ○記念イベントの実施 ○イベントの内容を元に 10 周年記念誌を発行 →この 10 年をふりかえるとともに、これからの地域づくりのヒントになるものを発信する。	→各事業に活かす。	・多賀城のまちについてさまざまな主体による対話の機会が増えている。
課題解決に向けた 取り組み	・課題解決のためにはさまざまな主体が力を発揮する必要がある。（協働から総働へ）	●課題の把握 ○地元企業のCSR調査 ○自治会・町内会の課題・取り組み事例調査	●多様な主体で課題に向かう場づくり ○多様な主体が集まる場 (TSR) ○企業の CSR の取り組みを発信 ○企業からの相談 ※自治会・町内会運営支援 解決に向けたアプローチと今後の支援の方向性の検討	●多様な主体で課題に向かう場づくり ○セクター同士の取り組み発表会 ○TSR 会議テーマで集まる場 ●連携の有効性と事例の発信 ○リーフレット作成 ※自治会・町内会運営支援 区長制度廃止に伴う支援	・TSC に課題が持ち込まれ、TSC がコーディネート役となり、さまざまな主体が連携して解決していく道筋ができる。
地域づくりに 関わる 人材の育成	・少子高齢化が進む中で、地域づくりの担い手育成が必要である。 ・既活動者が活動を継続していくために段階に応じた支援が必要である。	●地域づくりの新たな担い手育成 ○雑貨市 ○NPOきっかけ塾 ・NPOいちから塾 ・対象者別(学生、シニア、現役層) ・出前いちから塾 ○TAGAJO Future Labo ●既活動者の育成 ○伴走型相談対応をベースとする。	○雑貨市 ・ボランティア体験の場の提供 ○NPO きっかけ塾 ・NPO いちから塾 ・対象者別(学生対象、ごみ拾い) ・出前いちから塾 ○TAGAJO Future Labo ○相談対応	○雑貨市 ・ボランティア体験の場の提供 ○NPO きっかけ塾 ・NPO いちから塾 ・出前いちから塾 ・たがさぽカフェ ○TAGAJO Future Labo ○相談対応	・市民活動・地域活動への多様な関わり方をしている人が増えている。 ・市民による課題解決の取り組みが増えている。
情報発信強化	・上記の事業の成果を地域に広めていくためには情報発信強化は欠かすことができない。	●地域づくり活動の発信強化 ○「tag」の発行 ○ウェブサイトリニューアル ●市民の発信力強化 ○伝わる広報講座 （文章術、チラシデザイン、SNS） →既存団体がノウハウを得て発信力強化	○「tag」の発行 誌面のリニューアル ○情報発信ワークシートを作成し、相談対応に活用	○「tag」の発行 ○市民活動情報発信機会創出 →市民が情報発信できる場／市民活動の情報が得られる場が増える ○プレゼン講座の実施	・地域づくりに関する情報によりアクセスしやすくなっている。 ・市民による情報発信がより活発になっている。
市職員研修事業			○市職員研修	○市職員研修	

Ⅰ-2　平成 31 年度成果・課題

（１）平成 31 年度成果・課題

＜施設運営方針に沿った成果・課題＞

３ヵ年（平成 29～31 年度）の施設運営方針に沿って、事業実施（16 ページの「（２）平成 31 年度実施事業一覧」参照）も含めた平成 31 年度のＴＳＣ運営全体の成果・課題は以下のとおりである。

１）地域の課題を解決する、地域の価値を創造するためのさまざまな主体による連携の仕組みづくり

【成果】

●平成 30 年度実施のＴＳＲ会議 Vol.２のテーマ「だれも取り残さない社会」に向けた実践的な取り組みとして、ニーズとして挙がった日本で働く外国人と車いす利用者の視点でまちをあるく企画を実施した。当事者・企業・支援団体・地域の公共施設・相談機関等に協力・参加していただく中で、お互いの現状やできることを情報交換することができ、具体的・継続的な取り組みのきっかけをつくった。

外国人対象のまちあるきは、多賀城市国際交流協会主催の公開研修会実施につながった。その後、地域から技能実習生にイベント出演等の依頼があり、外国人対象の日本語講座開催に向けた動きなど、市民活動団体・企業・市内公共施設等と連携した具体的・継続的な取り組みが生まれつつある。

●平成 29 年度実施の地元企業のＣＳＲ調査・ＴＳＲ会議に協力・参加いただいた企業等との関係性を活かし、相談対応を通して企業とＮＰＯとの連携事例を生み出すことができた。

【課題】

●ＴＳＣと各セクターの関係づくり、個々の主体同士のコーディネートを引き続き行っていくとともに、各セクターが自ら課題を発信し、連携による課題解決のプロセスを描けるような支援も必要である。

２）地域づくりに関わる人材育成

【成果】

●ＮＰＯいちから塾を受講し、ＮＰＯの基礎知識を学んだ参加者７名のうち１名が「みんなにやさしいユニバーサルまちあるきツアーズ」の参加につながり、活動に向けた第一歩を踏み出した。

●市民の発信力強化事業では、実践的なポイントを学ぶ講座およびフォローアップの個別相談会を実施し、各団体の具体的な改善につながった。

●出前いちから塾では、学校からの依頼３件、他事業受講者からの依頼１件に対応し、それぞれの状況にあわせて市民活動の基礎を知る機会を提供した。

●TAGAJO Future Labo では、11 名の受講者のうち 9 名が市民の前でプランを発表し、活動を後押しすることができた。
●相談対応では、区長制度廃止後の自治会・町内会運営や、新型コロナウイルス感染拡大の中でのイベント運営など、新たな課題に対応できるよう支援を行った。

【課題】
●区長制度廃止に伴う自治組織の変化に対し、課題解決に向けた支援に注力するとともに、新たな手法の提案を行う必要がある。
●市内施設・機関と連携し、地域の担い手育成や連携による課題解決を広めていく必要がある。

３）市民活動やＴＳＣを知る市民の増加

●市内外で開催された 8 つのイベントに、おでかけミニ雑貨市、たがさぽカフェ、ＮＰＯの絵本展で出展し、来館者以外にも身近な市民活動や社会課題、ＴＳＣを知る機会を設けた。
●クリスマス雑貨市では、来場者のうち 64.5%（アンケート集計による）が新規で来館し、新たに市民活動やＴＳＣを知る市民が増加した。

【課題】
●特に「今後市民活動に参加してみたい」と考えている層に対し、身近な市民活動や社会課題、ＴＳＣを知る機会を提供し、活動に一歩踏み出す働きかけが必要である。

＜各属性への支援＞

ＴＳＣと各属性への支援は以下のとおりである。

【市民活動団体】

・各事業において、市民活動団体が講師となる、出展する、tag やたがさぽ press に情報を掲載する等によって、活動や取り組んでいる地域課題の普及啓発につながった。
・団体立ち上げに関して、相談対応を通して立ち上げ支援に取り組んだ。
平成 31 年度は立ち上げ支援によって 6 団体が活動を開始した。

【自治会・町内会】

・印刷機利用等で来館した区長・役員とのコミュニケーションや相談対応を通して、地域や自治会に関する情報収集を行い、支援情報として活用した。
・自治会の情報発信を取り上げ、展示やトークイベントを行うことで、自治会活動をしている方同士の情報交換の場になった。

【企業】

・社会貢献に関する相談対応を行い、他セクターとつないだ。
・「外国人技能実習生」をテーマとしたセクターを超えて課題について考える場を設けた。

【学校・学生】

・雑貨市ボランティア等、学生が地域やＮＰＯに関わる機会を設けた。
・出前いちから塾では、学校からの依頼 3 件に対応し、地域の活動を紹介した。

【行政】

・行政各課が実施するネットワーク型会議や実行委員会に参加し、各課、市内活動者、企業といった各主体と連携して地域課題について考えることができた。
・市職員を対象とした研修を実施し、社会の変化、公務員の仕事の変化を学び、協働について考える機会を提供した。

【生涯学習団体】

・運営に関する相談、地域貢献に取り組みたいという相談に応じた。

（2）平成31年度実施事業一覧

2020/3/31

大事業	大事業目的		小事業	主な目的	概要	主な対象	当年度の到達目標	成果目標	実施目標	成果目標・実施目標に基づく4～3月期実績	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開館10周年記念事業																						
課題解決に向けた連携モデルづくり	地域内の多様な資源をつなぎ直し、包括的な課題解決のネットワークを構築する。	1	多様な主体で課題に向かう場づくり	●セクター間の関係構築の深化 →各セクターが互いの取り組みを知る機会をつくり、関係深化のキッカケとする。 ●『身近な地域の課題』に目を向ける環境をつくる。 →地域課題の解決のためセクターが連携していくことで互いが望む未来の姿につながることを体感する。 ●更なる自主性の促進 →TSRVol.2で取り上げたテーマ「だれも取り残さない社会」について、社会的弱者の状況を知り、自発的に考え、取り組む状況を生む。	●各セクターの様々な団体が互いの取り組みを知り、関係を深める場の設定（TSR会議vol.3(仮)） ●『だれも取り残さない社会』に向けた実践的な取り組み。 →障がい者、外国人労働者を想定する。 ●課題解決モデル構築のスタートアップ指針となる発行物の作成。 →平成29年度から平成31年度までの本事業の取り組みをまとめ、セクターを超えた連携構築のプロセスとして参考となる内容を目指す。 ●企業セクターの貢献活動を支援する取り組みの継続	企業 NPO 自治会・町内会 市民 など	セクター間の関係構築の深化	①各取り組みについて、当初計画した通りの参加者が集まる。 ②取り組み実施後、参加者から継続的な実施の希望が上がる。 ③取り組み実施後、参加者から継続的な実施希望が上がり、それを参加者自らが中心となり、企画・実施しようとする動きが見られる。 ※最低限の目標として①の到達を目指す。	●各セクターの様々な団体が互いの取り組みを知り、関係を深める場の設定（TSR会議Vol.3(仮)） ●社会的マイノリティが遭遇する障壁を考えるまち歩き（ユニバーサルまちあるきツアーズVol.1(外国人)、Vol.車イス）） ●課題解決モデル構築のスタートアップ指針となる発行物の作成 ●企業セクターの貢献活動を支援する取り組みの実施	●6/16 ユニバーサルまちあるきツアーズ あやめまつりをコースに設定していたが雨により変更。参加者21名(外国人12名、ほか9名)。 まつりでステージ発表予定の外国人技能実習生13名と引率者3名(計16名)も合流し交流した。 ●8/25 環境グルーヴフェスでの清掃活動調査 市民が自主的に行っている清掃活動や企業の貢献活動としての取り組みも含めて情報収集実施。30件の情報提供あり。 ●9/13 ユニバーサルまちあるきツアーズ 6月に予定し雨天のため中止したVol.2(車イス)。参加者10名(車イスユーザー1名、その他9名) ●10/19 多賀城のはたらく外国人（外国人技能実習生を知る勉強会） 多賀城市国際交流協会が主催し、TSCは共催で協力。主に市民参加者を募る広報を担当。 ●3/31 TSRvol.2 多賀城から持続可能な関係性を探る冊子 発行 TRS会議Vol.3の開催見合わせにともない、連携ガイドブック案を見直し、これまで行った連携モデル事業の取り組みを紹介し、今後につなげる。26ページ、1500部を作製。			● 16 ツアー 外国人 （雨天 対応）		● 25 環境グルーヴフェスで多賀城市内の清掃活動調査	● 13 ツアー 車いす	● 19 多賀城のはたらく外国人（主催：多賀城市国際交流協会 共催：TSC、MIA）						× 13 TSR3（コロナウイルスの感染拡大防止ため開催見合わせ） ● 31 冊子発行
		※	自治会・町内会運営支援	区長制度の廃止に伴い、自治会・町内会の役割に変化が生じる。その変化に対応し、よりよく自治会・町内会が機能する。	地域コミュニティ課と協力して支援していく。具体的な方法は地域コミュニティ課と検討する。	自治会・町内会	設定なし	設定なし	設定なし	●11/2～30 展示「すみだ」からみる多賀城の歴史 ●11/22 町内会・自治会いいたい放談 参加者：15人								● 2～30 展示 ● 22 トーク				
人材育成	新たな人材の発掘・地域づくりの担い手育成	2	雑貨市	●市民活動や、雑貨市出展団体の活動について知る市民を増やす。 ●団体の商品購入やワークショップ参加が、「団体への貢献」につながるという事に気づいてもらう。	●おでかけミニ雑貨市（7月・9月・11月） ●クリスマス雑貨市（12月） ●ボランティア体験できる場を提供する。	無関心層 潜在的活動者	市民活動や、雑貨市出展団体の活動について知っている市民が増えている。	●雑貨の購入やワークショップ、展示を通して、市民活動団体や活動、地域・社会課題を初めて知る人を3割以上獲得する。（アンケートで集計） ●これからも支援につながる買い物をしたいという人を7割以上獲得する。（アンケートで集計） ●TSCへの新規来館者（冬開催時に集計）100人以上獲得する。	●おでかけミニ雑貨市3回 ●クリスマス雑貨市1回	●おでかけミニ雑貨市 ・1回目…7/28 文化センターのサークルフェア 来場者：346名 （大人249名/子ども97名） ・2回目…9/15 たがマルシェ 出展団体およびワークショップ： ①家庭文庫ちいさいおうち→読み聞かせ（参加：17名） ②本格遠赤焙煎珈琲豆挽き&ウクレレミニワークショップ（参加：8名） ●クリスマス雑貨市 ・出展団体：34団体 （販売・ワークショップ28団体/展示6団体） ・ボランティア申込26名 （1名事前キャンセル、1名当日欠席） ・来場者数集計 →延べ人数：1,062名（30分毎カウント） →アンケート回収：207枚 →新規来館者：141（窓口調査） 91（アンケート調査） →支援につながる買い物をしたい人 170名（8割獲得：アンケート集計）				● 28 おでかけミニ雑貨市 サークルフェアにて		● 15 おでかけミニ雑貨市 たがマルシェにて	● 1 クリスマス雑貨市ボランティア募集開始		● 7 ボランティア説明会 出展団体決起集会 ● 22 クリスマス雑貨市			
		3	きっかけ塾	多様な市民にそれぞれに合った形で市民活動にふれる機会をつくることで、市民活動に対する理解を促進させ、活動に関わるきっかけを創出する。	●NPOいちから塾 ●出前いちから塾 ●たがさぼカフェ ●他事業で人材育成の場のつくり方を実践する。	潜在的活動者	●市民活動やNPO、その活動について知っている市民が増えている。 ●活動の一歩を踏み出す市民が増えている。	事業への参加を通して5件以上の市民が何らかのアクションを起こす。	●通常いちから塾 1回 ●出前いちから塾 随時 ●たがさぼカフェ 4～5回	●通常いちから塾 1回実施 参加者7名 →参加者の中から2名が他の事業に参加申込をし、内1名は実際に参加した。 ●出前いちから塾 ・7/15 「Precious one」 参加者5名 →いちから塾のほか、運営に関する相談に対応した。 ・10/25 第二中学校2学年総合的な学習の時間「社会人講師によるキャリアセミナー」 参加生徒41名 ・11/11 TFL受講者2名 →NPOについてのほか今後の活動についての相談対応 ・12/16日東北文化学園大学 参加学生41名 ●たがさぼカフェ ・7/28 サークルフェア ※お出かけミニ雑貨市来場者（大人249名子ども97名）計346名 ・8/24・25 環境グルーヴフェス 来場者約90名 ・11/3 たがしょ食文化まつり 来場者約120名 ※消費期限・賞味期限に関する調査：61名が参加 ●出前いちから塾 ・1/15 第二中学校1学年総合的な学習の時間「ミライづくりプロジェクト、導入での街づくりに関する講話＆ワークショップ 参加生徒152名			● 9 いちから塾 ● 15 出前いちから塾	● 28 たがさぼカフェ サークルフェアにて	● 24・25 たがさぼカフェ 環境イベントにて		● 25 出前いちから塾	● 3 たがさぼカフェ たがしょう食文化まつりにて ● 11 出前いちから塾	● 16 出前いちから塾	● 15 出前いちから塾		
		4	TAGAJO Future Labo	●「何かしたい！」という想いを持つ受講生が、それを実現するための道筋やプランを考える。 ●自分の想いや考えをかたちにし、市民が主体となった地域づくりに取り組む人材を育む。	●自分の想いの棚卸、実践者の話を聞く、想いを持ったもの同士の対話を通して、想いをかたちにする。 ・1回目を公開講座とし、すでに活動している人の活動を聞く機会を設ける。 ●既活動者の活動場所を見学・体験できるエクスカーション（体験型見学会）を実施する。	潜在的活動者 既活動者	●「何かしたい！」という想いを持つ受講生が、それを実現するための道筋やプランを考える。	●受講生の半数が発表会で地域の人たちに想いを発信する。 ●受講生の中の1割が自分の想いを達成するため、活動を始める。 ●講座終了後も何らかの形で受講生同士及びOB、ゲスト講師・プログラムアドバイザーとのつながりが続いている。	●連続講座（6回）の実施 ●適宜、受講者のフォローを行う。 ●一般参加も募集するイベントの実施 スペシャルトーク（TFL1回目） 発表会（TFL6回目）	・1回目7月7日（日） 公開トークイベント 参加者数28名 ・2回目8月4日（日） 棚卸しワークショップ 参加者数10名 ・3回目9月1日（日） あつまりどころ虹にてエクスカーション 参加者数10名 ・4回目10月6日（日） さくらビレッジにてエクスカーション 参加者数7名 ・5回目11月4日（日） 発表会に向けて 参加者数6名 ・12月9日（月）、12月9日（土） 発表内容の相談会 参加者数9名 ・6回目1月19日（日） マイアプローチ発表会 発表者数10名 参加者数38名 ●受講者：11名				● 7 1回目 公開 トーク イベント	● 4 2回目 棚卸し ワーク ショップ	● 1 3回目 エクス カーション	● 6 4回目 エクス カーション	● 4 5回目 発表会 に向けて	● 9 14 相談会	● 19 6回目 発表会		
情報発信強化	ローカルグッドの発信	5	月刊フリーペーパー「tag」発行	市民が市民活動に関する情報を得られる機会を増やす。	●A4・月1回 2,000部 ●「tag」の配架先を開拓するとともに、団体の情報が発信できる機会も増やす。	無関心層 潜在的活動者 企業 自治会 学校	多くの人の目にふれる場に情報がある。	「tag」を通して、活動に参加する・自身で活動を起こす・TSC事業への参加・TSCへの市民活動相談といった何らかのアクションを起こす市民（あるいは団体）、または団体同士の連携例を計12件生み出す。【随時聞き取りで把握】	●年12回発行	● 10 発行	● 5 発行	● 5 発行	● 5 発行	● 5 発行	● 5 発行	● 5 発行	● 5 発行	● 5 発行	● 5 発行	● 10 発行	● 10 発行 ● 31 テーマ別冊子発行
	市民の発信力強化	6	市民の発信力強化	市民の情報発信力が強化され、必要とする人の元に情報が届く。	●相手に伝えるためのノウハウ講座の実施。ターゲットを定め、相手に伝わるプレゼンを考える内容とし、さまざまな媒体での発信の基盤を整える。	既活動者	市民の情報発信力が強化されている。	市民の情報発信力が強化されている。成果については、ほかの事業などでの実践活用を目標とし、講座後ヒアリングする。	講座3回実施	●1回目「伝える名刺づくりのコツ」を8月25日（日）に開催。参加：15名 ●2回目「伝えたいコトを伝えたい人に伝えるプレゼン講座」を9月7日（土）に開催。参加：8名 ＊同じ内容で9月14日（土）に団体Precious One向けにプレゼン講座を行い、参加：5名 ●3回目「団体の個別相談会」を10月27日（日）開催。5団体の申し込みがあり、4団体6人が参加。団体の具体的な課題に取り組む会となった＊1団体は台風被害のため欠席。 TSC利用団体のほか、既活動者や講座参加者、町内会、新しく活動の準備をしている人などが、総勢32名参加した。これまでの活動のブラッシュアップの機会となり、具体的に情報発信のアクションをおこした団体や個人がいた。					● 25 名刺づくり	● 7 プレゼン ● 14 プレゼン （団体向け）	● 27 個別相談会					
市職員研修		7	市職員研修	市民協働の必要性の理解を深め、市民協働の基盤をつくる。	※地域コミュニティ課と協議の上決定する。 市民活動、市民協働に関する講義、実践に向けたワークショップの実施を想定。	市職員	・市民と課題解決を図るという市職員の意識が向上している。 ・協働の視点で地の職員への助言や仕組みづくりを行う市職員が増えている。	・参加した市職員の内の90%以上が、地域・社会課題について考え、その解決策としての協働の有用性を見出す。 ・参加した市職員の内の30%以上が、協働の実践に向けてアクションを起こす。	講座1回実施	●7月5日（金）、26日（金）、8月9日（金） 地域コミュニティ課と方向性や内容の打ち合わせを行った。 ●3月17日（火）「市民参画と協働に関する職員研修」 テーマ：令和時代の行政と社会の変化・働き方の変化について 参加：21名 ●アンケートによる理解度平均は4.0（5段階評価）												● 17 市職員研修

Ⅰ-3　運営状況

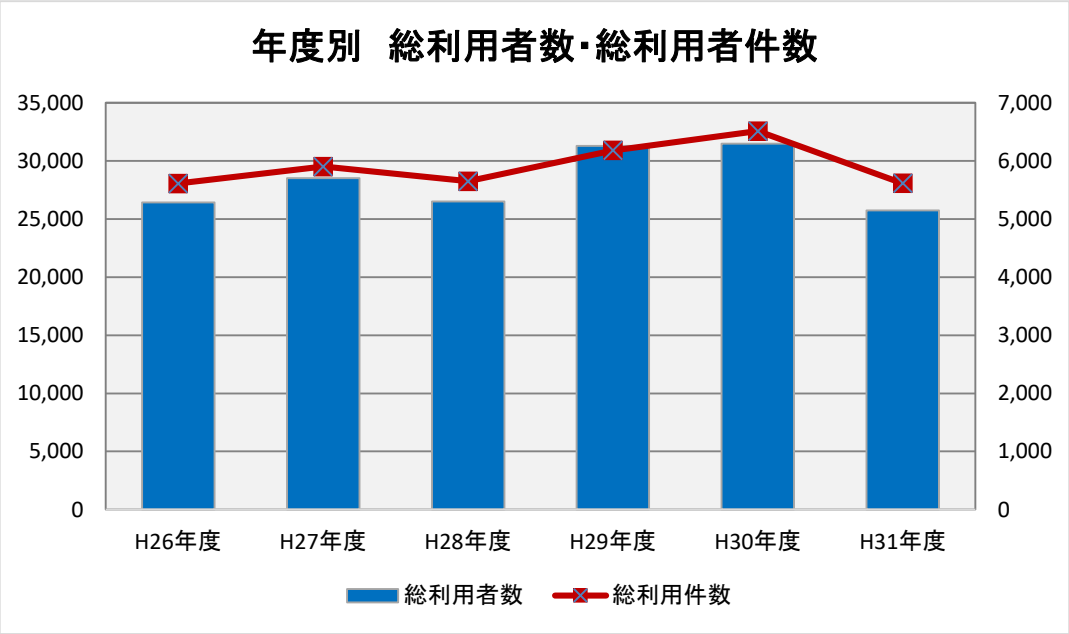
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のために3月2日(月)～31日(火)の期間、一部休館となった。

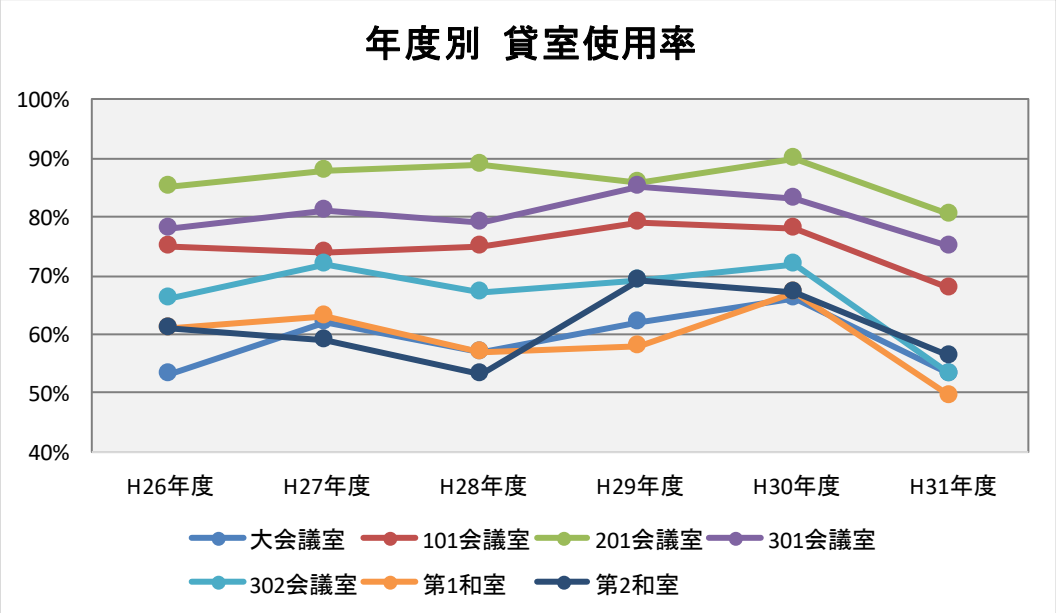
（１）利用状況集計

①総利用件数・貸室利用率

平成 31 年度は総利用者数 25,734 人（前年度比 81.7%）、総利用件数 5,614 人（前年度比 86.2%）となっており、ともに前年度を下回った。その原因として、3 月に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部休館（3 月 2 日～31 日）となったことが挙げられる。また、定期的に利用している団体の活動場所が変わったことも減少の要因となっている。2 月までは、前年度・前々年度には及ばないものの、当センター主催事業、リニューアル工事後の利便性向上などにより新規および継続の利用も多くあった。

貸室の使用率は、前述のように 3 月に一部休館期間があったこと、定期利用の団体が利用しなくなったことで、すべての貸室で 8%～19%使用率が下がった。





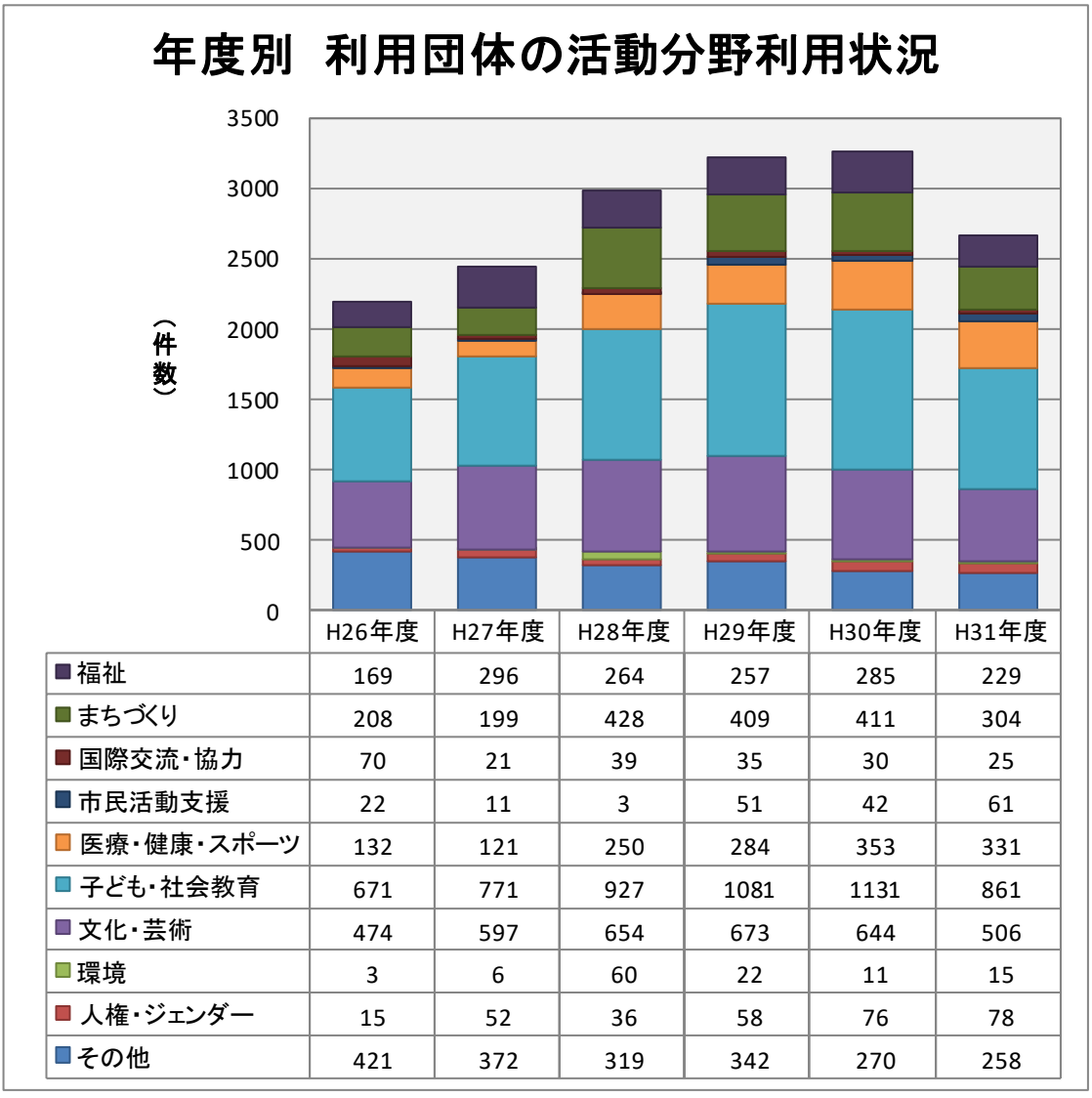
※午前･午後･夜間の貸出区分のうち、1 日 1 区分以上使用している場合を使用率 100%としています。
※3 月分の集計は、貸室利用を可とした 3 月 1 日のみで使用率を計算しています。

②利用団体の活動分野

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー
事務用ブース利用者の利用票提出および印刷機利用に基づく利用団体の活動分野

平成 31 年度は全体件数が 2,668 件と過去最高を記録した前年度よりは減少した（前年比－585 件）。利用が多い分野は順に『子ども・社会教育』、『文化・芸術』、『医療・健康・スポーツ』、『まちづくり』となっている。『社会教育』には生涯学習やサークル活動の多くが含まれるため、当センターの分野利用の中で多くなる傾向があり、『文化・芸術』についても同様の状況が認められる。

利用が少ない分野としては『環境』が挙げられるが、前年度よりは増加している。その理由としては、従来利用していた団体に加え、食育の活動に取り組む団体や、化学物質過敏症に関する啓発を行う団体がＴＳＣで活動を行っていることが挙げられる。環境の分野に挙げられる活動としては、環境保護のほかにも動物愛護や清掃なども含まれ、特に清掃活動は自治会や学校、企業などでも活発に行われていることから、当センターの利用団体の分野としては多くないものの、多賀城市内では実際には多くの活動が行われていると推察される。



	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
福祉	169	296	264	257	285	229
まちづくり	208	199	428	409	411	304
国際交流･協力	70	21	39	35	30	25
市民活動支援	22	11	3	51	42	61
医療･健康･スポーツ	132	121	250	284	353	331
子ども･社会教育	671	771	927	1081	1131	861
文化･芸術	474	597	654	673	644	506
環境	3	6	60	22	11	15
人権･ジェンダー	15	52	36	58	76	78
その他	421	372	319	342	270	258

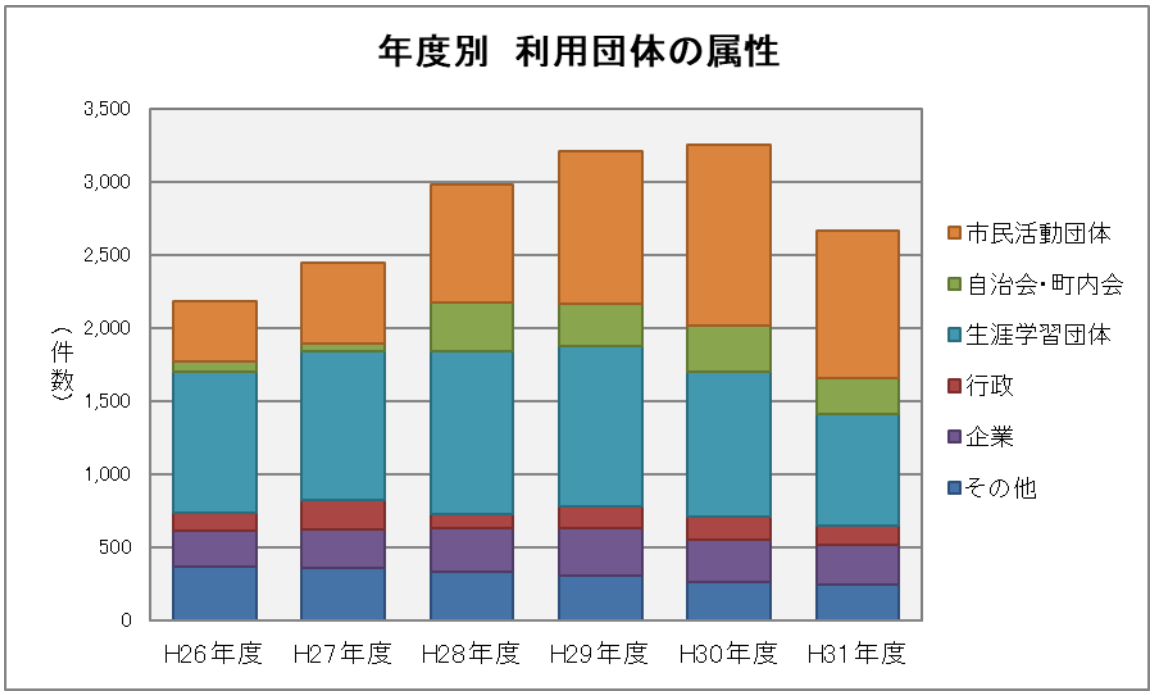
③利用団体の属性

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー、共同事務室の利用票及び印刷機利用に基づく利用団体属性

市民活動団体	：1,010 件	生涯学習団体：	769 件	企　業	：276 件
自治会・町内会：	243 件	行　政	： 126 件	その他（個人など）	：244 件

利用団体の全件数は前年度より減少して 2,668 件（前年度比 －585 件）であった。その内訳は、前年度に続いて『市民活動団体』が最も多く全体の約 40%を占め、次いで『生涯学習団体』（全体の約 30%）の順となっている。

『生涯学習団体』は昨年度に続いて件数が減少しており、前年度比で約 200 件の減である。その理由として、3 月の一部休館で貸室が利用できなかったことが大きく影響していると思われる。この傾向が今後も継続するものか引き続き注視していきたい。



■年度別利用団体の属性（単位：件）

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	合　計
市民活動団体	418	550	802	1,047	1,240	1,010	5,067
自治会・町内会	70	53	339	292	317	243	1,314
生涯学習団体	961	1,016	1,112	1,091	989	769	5,938
行　政	127	209	99	152	157	126	870
企　業	244	259	295	326	285	276	1,685
その他	365	359	333	304	265	244	1,870
合　計	2,185	2,446	2,980	3,212	3,253	2,668	

参考：主な項目の利用状況推移（平成20～31年度）

		貸室		フリースペース			印刷機	情報掲示	パソコン	相談対応		レターケース	総利用	
		利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	カウント数	利用件数	受付件数	利用件数	件数	人数	取扱数	件数	総数
		件	人	件	人	人	件	件	件	件	人	件	件	人
平成20年度		972	13,170	125	404	959	378	878	190	297	346	189	3,065	14,001
平成21年度		1,366	18,992	90	220	1,337	551	1,031	356	309	374	437	4,162	19,641
平成22年度		1,242	16,229	87	251	1,168	619	1,267	168	354	397	195	3,944	16,951
平成23年度		1,971	26,769	149	539	1,596	801	1,186	195	527	647	260	5,100	28,015
平成24年度		1,889	22,922	229	597	1,646	918	1,385	288	287	375	537	5,543	23,951
平成25年度		1,442	16,488	143	410	1,137	807	1,587	114	226	306	701	5,032	17,236
平成26年度		2,069	24,170	113	591	1,921	814	1,861	34	340	412	363	5,612	26,420
平成27年度		2,213	26,178	228	794	2,273	838	1,856	21	315	364	417	5,903	28,524
平成28年度		2,044	24,209	310	930	2,409	625	1,871	40	320	421	432	5,651	26,507
平成29年度		2,260	28,674	349	1,278	3,293	603	2,033	89	328	401	511	6,182	31,299
平成30年度		2,256	28,583	371	1,368	3,169	626	2,070	126	465	536	594	6,515	31,502
平成31年度	4月	174	1,891	33	131	203	73	159	18	37	47	29	524	2,231
	5月	172	1,908	31	173	302	59	150	14	31	35	70	528	2,213
	6月	174	2,190	25	87	203	57	142	14	20	25	106	539	2,394
	7月	181	2,207	22	72	329	50	193	7	59	73	33	530	2,422
	8月	161	2,083	17	61	196	47	159	4	44	45	25	458	2,248
	9月	166	2,147	42	131	281	52	163	8	36	39	20	487	2,392
	10月	146	1,580	21	62	189	36	161	14	22	29	110	511	1,736
	11月	190	2,230	34	119	293	32	165	12	51	64	12	496	2,460
	12月	168	2,957	25	71	302	20	109	11	29	33	5	367	3,096
	1月	138	1,615	13	40	146	27	164	6	33	39	52	434	1,738
	2月	178	2,498	26	79	265	35	137	21	35	47	114	556	2,698
	3月	1	8	2	4	33	39	98	18	17	28	9	184	106
平成31年度計		1,849	23,314	291	1,030	2,742	527	1,800	147	414	504	585	5,614	25,734
前年度比		82%	82%	78%	75%	87%	84%	87%	117%	89%	94%	98%	86%	82%
総計		21,573	269,698	2,485	8,412	23,650	8,107	18,825	1,768	4,182	5,083	5,221	62,323	289,781
平均		1,798	22,475	207	701	1,971	676	1,569	147	349	424	435	5,194	24,148

※フリースペースの利用件数・人数は利用票提出分

※フリースペースのカウント数はスタッフによる定時見回り時ののべ人数

※平成29年度より、TSC事業分も貸室・フリースペースの利用件数・人数として集計

※平成26年度より、印刷機・パソコンの利用人数も集計

平成31年度の総利用件数は5,614件、総利用人数は25,734件となり、前年度の8割強であった。パソコンの利用件数のみ、前年度より増加している。
※3月2日（月）～31日（火）の期間、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために一部休館となり、貸室・フリースペースの貸し出しができなかった。

参考：情報関連業務利用状況推移（平成20～31年度）

		印刷機		コピー機	パソコン	情報掲示					貸出図書		
		利用件数	枚数	利用枚数	利用件数	チラシ	団体パンフレット	ポスター	ニューズレター	計	登録者数	貸出件数	貸出冊数
		件	枚	枚	件	件	件	件	件	件	人	件	冊
平成20年度		378	218,318	4,767	190	496		105	277	878			
平成21年度		551	342,248	5,708	356	544		103	384	1,031	37	100	132
平成22年度		619	361,553	4,689	168	649		140	478	1,267	19	132	109
平成23年度		801	479,306	5,355	195	572		118	496	1,186	24	76	116
平成24年度		918	603,693	7,677	288	549	106	167	563	1,385	29	122	158
平成25年度		807	576,452	4,830	114	697	109	136	645	1,587	18	98	137
平成26年度		814	566,837	5,331	34	843	112	214	692	1,861	20	89	127
平成27年度		838	722,674	7,813	21	857	142	222	635	1,856	13	151	215
平成28年度		625	509,592	7,538	40	869	131	215	656	1,871	7	138	209
平成29年度		602	435,167	9,520	89	953	147	286	647	2,033	11	60	87
平成30年度		626	452,528	9,634	126	1,024	114	281	651	2,070	10	75	102
平成31年度	4月	73	75,982	1,067	18	80	15	18	46	159	2	3	6
	5月	59	39,833	934	14	86	9	18	37	150	1	11	13
	6月	57	47,413	524	14	73	9	27	33	142	2	12	20
	7月	50	46,066	491	7	104	10	27	52	193	0	7	10
	8月	47	34,184	316	4	83	8	19	49	159	0	6	8
	9月	52	46,865	677	8	84	9	23	47	163	3	7	10
	10月	36	22,600	206	14	79	14	26	42	161	2	6	11
	11月	32	15,915	448	12	79	11	19	56	165	0	4	6
	12月	20	33,161	275	11	47	6	10	46	109	0	0	0
	1月	27	13,326	210	6	68	11	18	67	164	0	3	5
	2月	35	27,400	576	21	69	11	17	40	137	0	2	2
	3月	39	58,091	75	18	27	6	4	61	98	0	2	4
平成31年度計		527	460,836	5,799	147	879	119	226	576	1,800	10	63	95
前年度比		84%	102%	60%	117%	86%	104%	80%	88%	87%	100%	84%	93%
総計		8,106	5,729,204	78,661	1,768	8,932	980	2,213	6,700	18,825	198	1,104	1,487
平均		676	477,434	6,555	147	744	123	184	558	1,569	18	100	135

※平成24年度から、パソコンの利用件数は「作業」「インターネット」を分けずに集計する。
※平成24年度から、情報掲示の利用件数は新たに「団体パンフレット」を加える。
※平成21年6月開設

・パソコン利用件数の増加は、事務用ブース入居団体や新規で会議室を利用するようになった団体の定期利用が多くなったため。

（２）相談対応実績

＜相談対応の流れ＞

●相談対応

市民活動に関する相談は、開館時間中にいつでも対応できるような体制を整備している。

↓

●記録

・相談対応票に記録

・相談を分類

支援対象について：主に初めて利用する方に対して、団体の目的や活動内容を確認し、施設の設置趣旨と照らした上で、支援対象か否かを判断している。

施 設 利 用 相 談：施設の利用方法などの問い合わせに対するもの

市 民 活 動 相 談：ホ ッ プ…ボランティア相談、市民活動団体の情報提供
ステップ…任意団体立ち上げやＮＰＯ法人化に関する相談
ジャンプ…資金調達、広報など団体運営に関する相談

受益者からの相談：ＮＰＯなどのサービスを求めている方からの相談

そ　　の　　他：ＴＳＣの運営についての問い合わせなど

↓

●共有

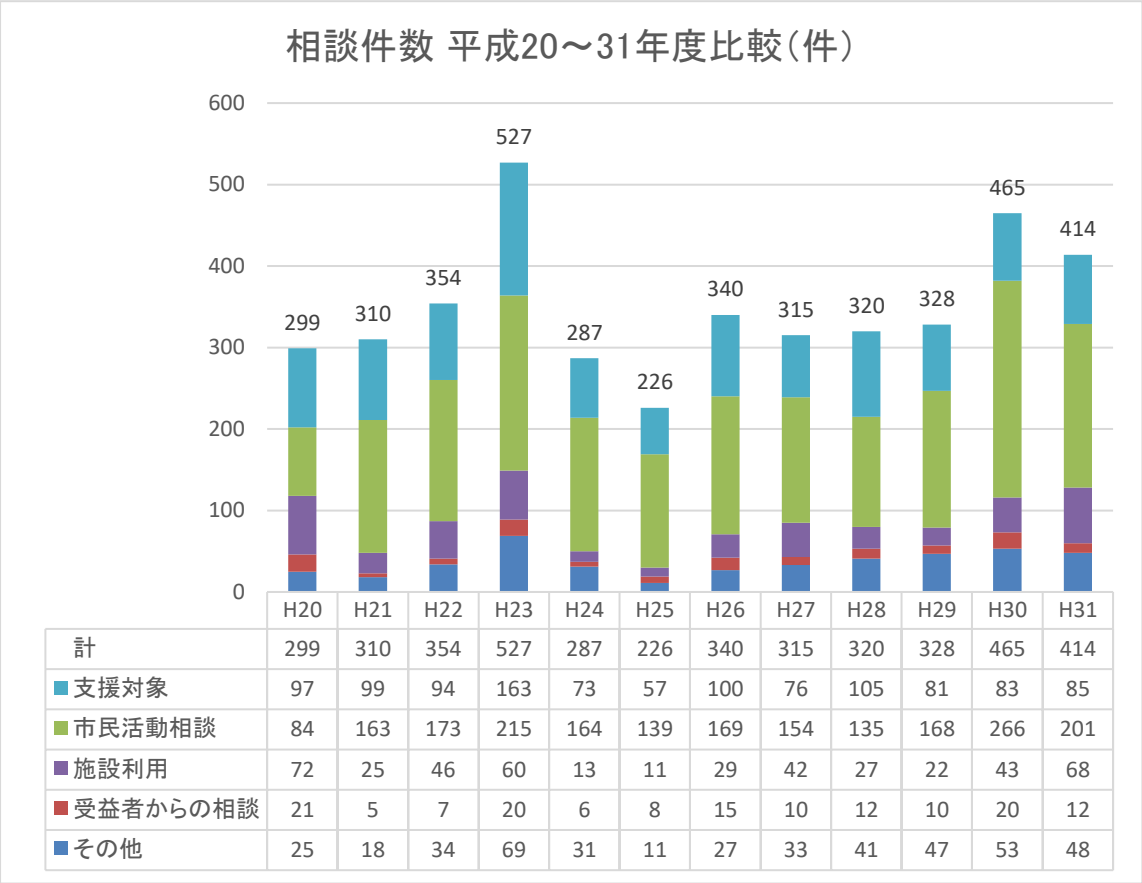
・継続対応が必要なものは、1 日 2 回の申し送りの時間にスタッフ間で共有

・月 2 回（1 回あたり 1 時間程度）ケースミーティングの開催
すべての相談対応をスタッフで共有し、各相談対応の経過確認を行い、継続事案にあっては以後の対応方針の決定、相談対応研修、業務改善などにつなげている。

・相談対応記録を担当理事および地域コミュニティ課に報告し、適宜情報提供・助言などをもらっている。

＜相談件数　年度比較＞

総 件 数　　414 件（月平均 34.5 件）
対応時間　9,334 分（月平均 778 分＝12 時間 58 分、1 件平均 23 分）



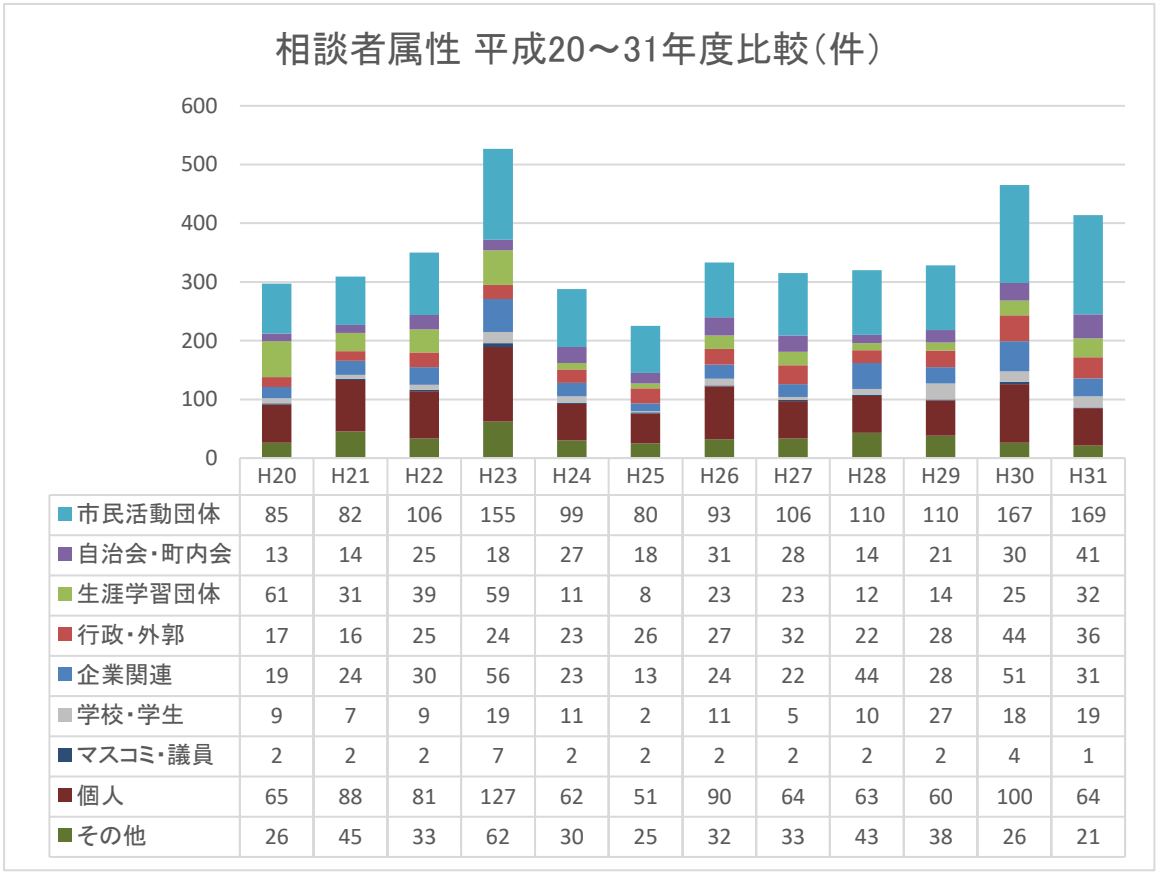
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
計	299	310	354	527	287	226	340	315	320	328	465	414
支援対象	97	99	94	163	73	57	100	76	105	81	83	85
市民活動相談	84	163	173	215	164	139	169	154	135	168	266	201
施設利用	72	25	46	60	13	11	29	42	27	22	43	68
受益者からの相談	21	5	7	20	6	8	15	10	12	10	20	12
その他	25	18	34	69	31	11	27	33	41	47	53	48

今年度は、年間の相談件数は前年度より 51 件減少しているが、これは 3 月に新型コロナウイルス感染症拡大防止のために一部休館としたことで、来館者が極めて少なかったことも一因である。実際、前年度の月平均件数（39 件）と今年度 4～2 月の月平均件数（36 件）で比較してもほとんど変わりはない。その理由として、同一団体からの継続相談が多かったことや、企業からの地域貢献に関する相談・個人からのボランティアを含めた「何かはじめたい」という相談が今年度も一定数あったことなどが挙げられる。

市民活動相談は全体の 48.6％で、その内容は、団体運営やイベント実施に関するものが約 65％を占め、また約 30％が団体の活動についての問い合わせやこれから何か活動したいといった相談であり、その傾向は前年度と同様である。今年度は特に台風 19 号に関する寄付先やボランティア先の問い合わせ、区長制度廃止に伴う自治会からの相談が特徴的だった。

その他の相談としては、中学校の「総合的な学習」の授業のサポートや、企業からのＣＳＲや地域貢献活動についての相談が多く、学校や企業と連携しての取り組みや団体同士をつなぐことを通してＴＳＣが認知されてきていると言える。

次年度以降も事業のアフターフォローや情報発信によってＴＳＣおよび相談事業の認知向上を図り、まだ活動に至っていない市民から活動中の市民・団体まで広く相談による支援を行う。

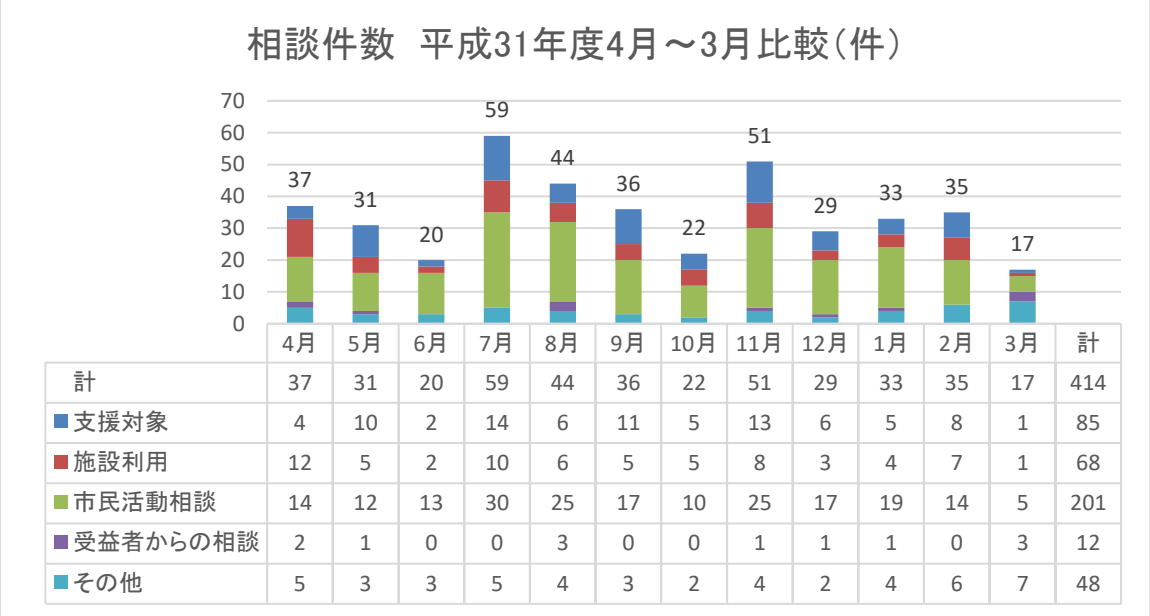


	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
市民活動団体	85	82	106	155	99	80	93	106	110	110	167	169
自治会・町内会	13	14	25	18	27	18	31	28	14	21	30	41
生涯学習団体	61	31	39	59	11	8	23	23	12	14	25	32
行政・外郭	17	16	25	24	23	26	27	32	22	28	44	36
企業関連	19	24	30	56	23	13	24	22	44	28	51	31
学校・学生	9	7	9	19	11	2	11	5	10	27	18	19
マスコミ・議員	2	2	2	7	2	2	2	2	2	2	4	1
個人	65	88	81	127	62	51	90	64	63	60	100	64
その他	26	45	33	62	30	25	32	33	43	38	26	21

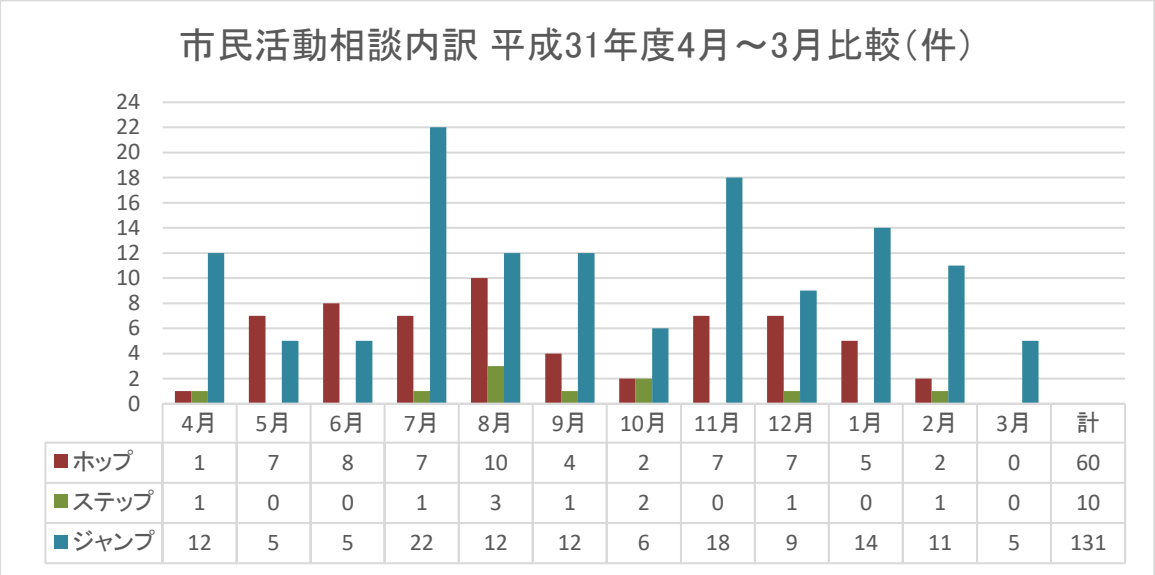
相談者属性は、市民活動団体が最も多く、ついで個人である。個人からの相談としては、サークル活動に参加したい、ボランティアに取り組みたいと考えての団体に関する問い合わせや、何か活動をはじめたいといった内容が多い。

今年度の特徴としては、前年度より相談件数の総数が減少しているが、市民活動団体と自治会・町内会からの相談の割合が増加していることである。特に自治会・町内会に関しては、利用頻度の多い印刷作業室の備品に関することに加えて、イベント開催や、次年度からの区長制度廃止に伴う今後のことも含めた運営に関する相談もあった。各自治会・町内会で 4 月からの新たな運営方法を模索していくことが考えられるので、この傾向は次年度以降も続くと推察される。

＜相談件数　月別比較＞



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計	37	31	20	59	44	36	22	51	29	33	35	17	414
支援対象	4	10	2	14	6	11	5	13	6	5	8	1	85
施設利用	12	5	2	10	6	5	5	8	3	4	7	1	68
市民活動相談	14	12	13	30	25	17	10	25	17	19	14	5	201
受益者からの相談	2	1	0	0	3	0	0	1	1	1	0	3	12
その他	5	3	3	5	4	3	2	4	2	4	6	7	48

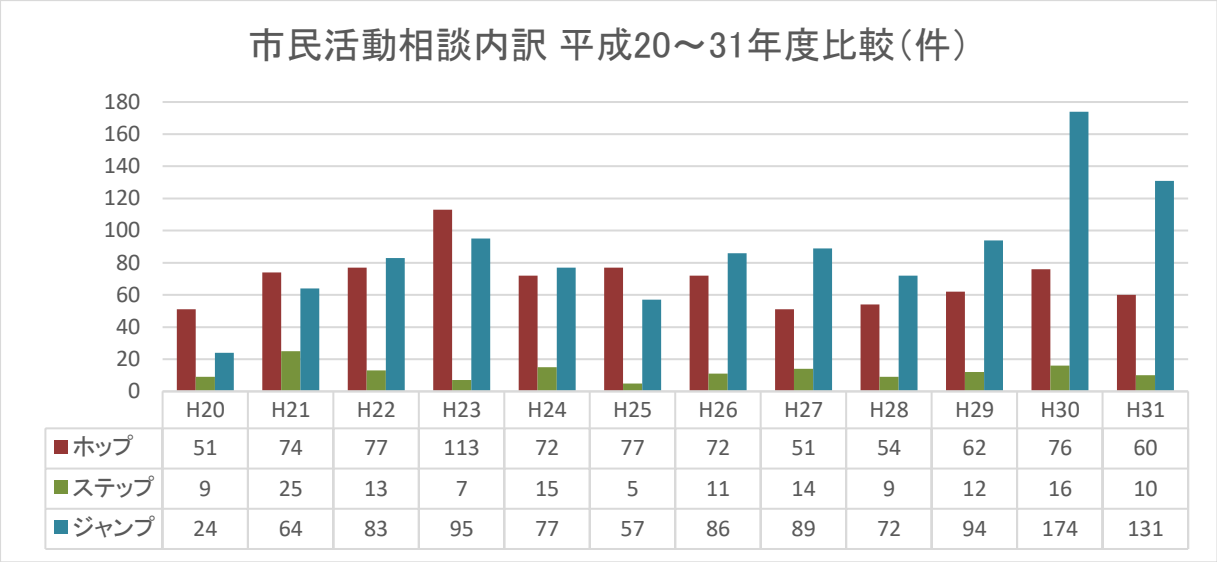


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ホップ	1	7	8	7	10	4	2	7	7	5	2	0	60
ステップ	1	0	0	1	3	1	2	0	1	0	1	0	10
ジャンプ	12	5	5	22	12	12	6	18	9	14	11	5	131

月ごとに見ると、今年度は 7 月の相談件数が最も多く、次いで 11 月・8 月が多かった。7 月は、同一団体からの継続相談があったことに加え、開催するイベントや団体運営に関する相談対応や団体対象の「出前いちから塾」なども行った。

市民活動相談に関しては、年度の前半は団体情報の問い合わせが多くあった。その理由としては、自分が団体に入って活動したい、また自治会・町内会からは夏祭りや敬老会に出演してもらえそうな団体を知りたいなどが挙がっていた。年度後半には、「団体を立ち上げたい」「何かはじめたい」という相談や、ボランティア募集や助成金に関する相談が見られた。特に 2 月には、次年度以降の運営に関して自治会・町内会からの相談があった。また、団体ＰＲやイベントの企画・実施など、団体運営に関する相談は年間通して一定数あった。

＜市民活動相談の内訳＞



	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
ホップ	51	74	77	113	72	77	72	51	54	62	76	60
ステップ	9	25	13	7	15	5	11	14	9	12	16	10
ジャンプ	24	64	83	95	77	57	86	89	72	94	174	131

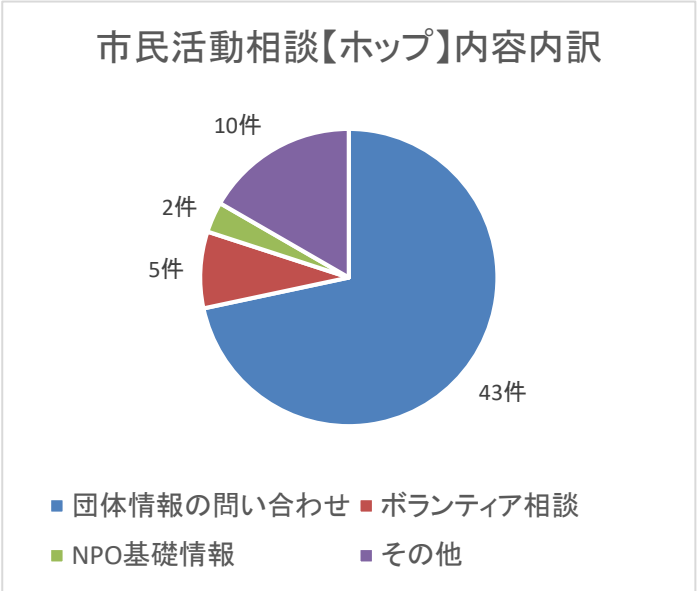
今年度の市民活動相談の中で一番件数が多かったのはジャンプ段階の相談で、平成 26 年度以来ホップ段階の相談の件数を上回っているが、今年度もホップ段階の 2 倍以上の件数になった。団体の組織運営やイベント実施に関する相談が日常的に多い表れといえる。また前年度同様、事務用ブース入居団体をはじめとしてＴＳＣをよく利用している団体から運営相談が多く寄せられている。

以下、市民活動相談のホップ・ステップ・ジャンプの各々の相談内容について記載する。

●ホップ

…ＮＰＯ基礎情報、ボランティア相談、市民活動団体の情報提供など

市民活動相談 201 件の内、ホップ 60 件（28．6%）



団体情報の問い合わせが 43 件と最も多く、活動先や連携先となる団体情報を求めて来館される方が多い。具体的には、団体のメンバーとして活動したい、町内会などの行事に呼ぶ団体を探している、逆に団体主催の行事で特技を披露したいなどの相談が寄せられた。

団体情報の問い合わせに関しては、団体情報ファイルや団体紹介シートを活用しながら情報を提供している。今後も町内会からの出演団体の問い合わせや行政からの連携先の問い合わせが寄せられる可能性が高い。相談に適切に対応できるよう、情報収集と整理は継続して進めていく必要がある。

その他に該当するものとしては、個人で何か活動をはじめたいという相談が多くを占めている。

●ステップ

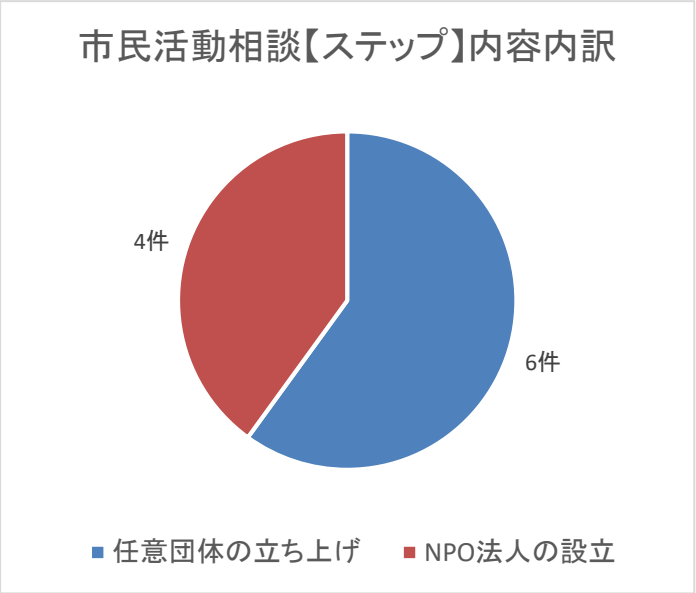
…任意団体立ち上げやＮＰＯ法人化に関する相談

市民活動相談 201 件の内、ステップ 10 件（5.0%）

地域・社会課題への気づきから、相談窓口や課題に関する啓発活動を行う団体、当事者団体を立ち上げたいという相談があった。また、特技や経験を活かしたいという相談も多く、下記に記したほかに構想中・準備中も数件ある。

今年度もＴＳＣ事業に参加し、想いやできることを整理した上で活動が立ち上がった事例があった。

立ち上げ相談に対しては、すぐにノウハウを提供するのではなく、立ち上げる理由や想いを聞いたり、同種の活動をしている団体につないで話をしたりと、相談者の想いに寄り添った支援をした上で、立ち上げの支援に移行する。



平成 31 年度　立ち上げ支援を行った団体・活動（6 団体／活動）

団体・活動名	活動内容	立ち上げのきっかけ
Precious One	ＤＶ・虐待を受けている方への支援、防止のための啓蒙活動	来館しての相談 TAGAJO Future Labo 受講
ココロサポート	地域で子どもを見守るための心理学講座、子育て相談会の実施 また、ここから派生して、「子どもアドボカシー」に関する啓蒙などを行う『Tagajo「子どもの声を聴く」プロジェクト』が生まれた	来館しての相談 TAGAJO Future Labo 受講
聴覚障がいへの理解を広げるためのヒーロープロジェクト	聴覚障がいのある子どもも楽しめるヒーローショーの実施	スタッフへのＳＮＳ経由での相談
コトリフレンズ	化学物質過敏症の当事者および支援者による啓蒙活動	来館しての相談
コトリじかん。	化学物質過敏症の当事者・家族・予備軍のための居場所づくりや情報共有の場づくり	来館しての相談
スクラム会	城南地区「となりぐみ」での話し合いを経てできた団体。地域住民同士の交流などが目的	介護福祉課経由での相談

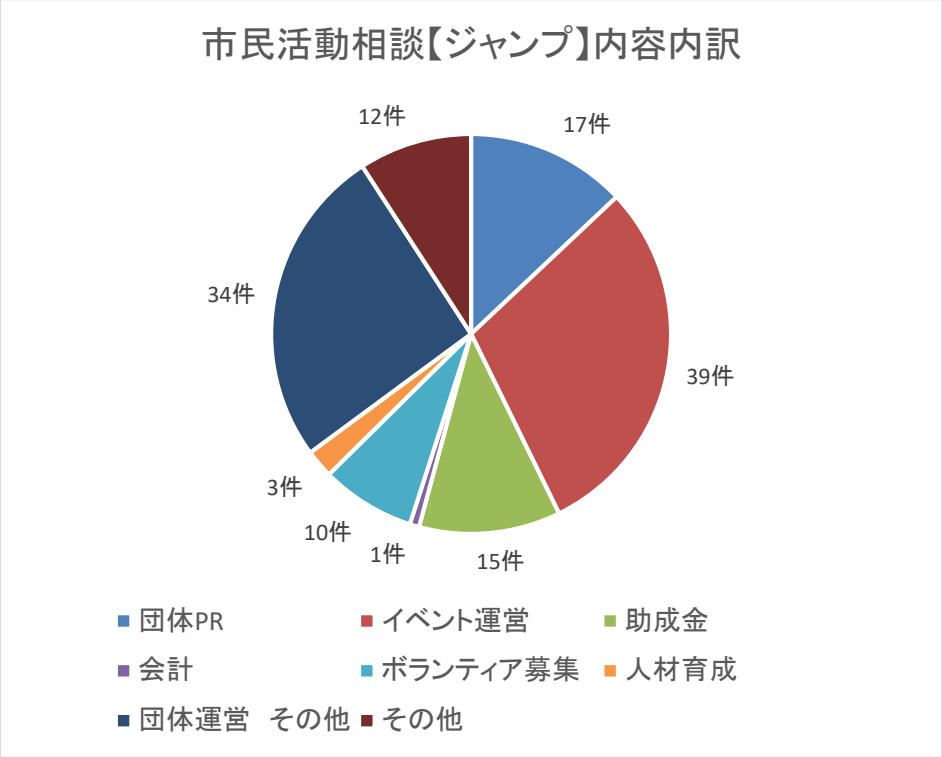
平成 31 年度　団体の法人化のサポート（1 団体）

団体・活動名	活動内容	備考
宮城ユーストラブルライン	青少年のさまざまな悩みに乗る相談窓口設置	一般社団法人化の相談

●ジャンプ

…資金調達、広報など団体運営に関する相談

市民活動相談 201 件の内、ジャンプ 131 件（65.1%）



今年度は、イベント運営に関する相談が 39 件あり、ジャンプの 30%を占める。企画・計画から準備・当日実施などさまざまな段階での相談があった。団体やイベントの内容によっては、資金調達、広報、ボランティア募集、資材の調達など多くの工程が絡むものもあり、その時々で適切な情報提供や必要事項の整理を行ってきた。また、ＴＳＣのフリースペースを活用してのイベント開催に関する相談も多くあった。

団体ＰＲに関する相談では、前年度より継続している団体ウェブページに関するものや、例年一定数あるチラシやパンフレットの作成に関する相談があった。また、今年度実施した「情報発信力強化講座」を受講した団体・個人から継続的な相談があった。その他、複数の自治会・町内会から会報の作成についての相談もあった。

また助成金相談では、資金調達も含めた相談だけでなく、申請書類の推薦文の記載依頼が今年度もあり、ＴＳＣと団体とが普段からコミュニケーションを取っていることから依頼があったと考える。また、助成金のみに頼らない持続可能な運営に向けたサポートも行う必要のある団体も出てきている。

「団体運営その他」に該当する相談としては、広報、資金、団体内の人材育成・役割分担など複数の内容が含まれた運営に関する相談等があった。運営全般に関する相談では、目の前の課題を解決するだけでなく、話を聞く中で根本的な課題の発見や整理も行い、そこから洗い出された本質的な課題にもスポットを当てて支援を行っていく必要がある。

その他に該当する相談としては、自治会で感じている地域課題について相談、現在の活動状況についての団体からの報告、連携先や連携の仕方の相談などがあった。

参考:相談対応推移

1. 件数、人数、属性など

			H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31												
			計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	総計
相談件数(件)			299	310	354	527	287	226	340	315	320	328	465	37	31	20	59	44	36	22	51	29	33	35	17	414	4,185
開館日(日/月)			253	305	289	306	306	304	306	306	307	305	306	26	26	26	26	27	26	26	26	23	23	25	27	307	3,600
件数平均(件/日)			1.2	1.0	1.2	1.7	0.9	0.7	1.1	1.0	1.0	1.1	1.5	1.4	1.2	0.8	2.3	1.6	1.4	0.8	2.0	1.3	1.4	1.4	0.6	1.3	1.2
人数(人)			348	374	386	645	375	307	377	357	421	401	536	47	35	25	73	45	39	29	64	33	39	47	28	504	5,031
対応時間月計(分)			5,558	6,345	7,434	10,476	7,664	5,412	7,593	7,182	8,209	8,499	11,110	885	615	495	1,575	925	535	480	1,225	630	570	967	432	9,334	94,816
対応時間平均(分/日)			22.0	20.8	25.7	34.2	25.0	17.8	24.8	23.5	26.7	27.9	36.3	34.0	23.7	19.0	60.6	34.3	20.6	18.5	47.1	27.4	24.8	38.7	16.0	30.4	26.3
対応時間平均(分/件)			18.7	20.5	21.0	19.9	26.7	22.5	22.1	23.1	25.5	25.9	23.9	23.9	19.8	24.8	26.7	21.0	14.9	21.8	24.0	21.7	17.3	27.6	25.4	22.5	22.7
対面	件数(件)		235	235	267	322	187	152	213	224	224	211	303	24	26	13	42	24	21	18	37	17	23	18	12	275	2,848
	対応時間月計(分)		4,858	5,789	6,572	8,463	6,481	4,585	6,295	6,165	5,984	7,279	9,055	565	555	435	1,315	680	360	430	1,080	500	450	790	375	7,535	79,061
	対応時間平均(分/件)		20.7	24.6	24.6	26.3	34.7	30.2	29.6	27.5	26.7	34.5	29.9	23.5	21.3	33.5	31.3	28.3	17.1	23.9	29.2	29.4	19.6	43.9	31.3	27.4	27.8
電話	件数(件)		58	67	81	195	87	72	119	99	88	105	137	7	5	6	15	16	12	2	13	10	9	15	5	115	1,223
	対応時間月計(分)		605	501	656	1,944	1,008	812	1,262	1,007	2,050	1,076	1,875	60	60	50	250	205	145	40	140	120	105	167	57	1,399	14,195
	対応時間平均(分/件)		10.4	7.5	8.1	10.0	11.6	11.3	10.6	10.2	23.3	10.2	13.7	8.6	12.0	8.3	16.7	12.8	12.1	20.0	10.8	12.0	11.7	11.1	11.4	12.2	11.6
その他		件数(件)	4	7	6	9	13	2	8	2	8	12	25	6	0	1	2	4	3	2	1	2	1	2	0	24	120
		対応時間月計(分)	95	55	206	39	175	15	36	10	175	133	180	260	0	10	10	40	30	10	5	10	15	10	0	400	1,519
相談者属性	市民活動団体(件)		85	82	106	155	99	80	93	106	110	110	167	9	9	7	30	22	18	7	23	9	12	17	6	169	1,362
	自治会・町内会(件)		13	14	25	18	27	18	31	28	14	21	30	9	5	0	3	4	0	2	2	4	5	4	3	41	280
	生涯学習団体(件)		61	31	39	59	11	8	23	23	12	14	25	6	4	0	3	2	2	7	2	3	2	1	0	32	338
	行政・外郭(件)		17	16	25	24	23	26	27	32	22	28	44	5	0	4	7	3	2	1	3	2	4	2	3	36	320
	企業関連(件)		19	24	30	56	23	13	24	22	44	28	51	0	1	0	3	3	5	0	10	2	2	4	1	31	365
	学校・学生(件)		9	7	9	19	11	2	11	5	10	27	18	2	2	0	2	4	2	1	2	3	1	0	0	19	147
	マスコミ・議員(件)		2	2	2	7	2	2	2	2	2	2	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	30
	個人(件)		65	88	81	127	62	51	90	64	63	60	100	5	8	7	10	5	3	3	3	4	6	6	4	64	915
	その他(件)		26	45	33	62	30	25	32	33	43	38	26	1	2	2	0	1	4	1	6	2	1	1	0	21	414
初来館	初来館者(人)		126	97	99	165	88	79	96	64	88	70	76	4	14	4	12	10	5	4	8	7	3	4	1	76	1,124
	どこで知ったか	公共施設(人)	37	23	34	46	16	23	24	16	12	17	15	1	4	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	13	276
		口コミ(人)	14	15	8	24	18	14	25	9	18	27	22	1	3	1	3	3	0	2	4	1	2	0	0	20	214
		SCホームページ(人)	11	15	24	29	21	19	25	16	24	6	9	1	0	0	3	2	1	0	1	0	0	0	0	8	207
		その他(人)	64	44	33	66	33	23	22	23	34	20	30	1	7	3	5	4	3	1	2	5	0	3	1	35	427

2. 相談内容の内訳

(1)支援対象について

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31												
		計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	総計
相談件数(件)		97	99	94	163	73	57	100	76	105	81	83	4	10	2	14	6	11	5	13	6	5	8	1	85	1,113
対応時間(分)		1,217	1,185	1,003	1,857	855	727	1,221	860	1,354	1,113	1,065	45	115	10	170	55	115	100	155	85	85	152	10	1,097	13,554
対応時間平均(分/件)		12.5	12.0	10.7	11.4	11.7	12.8	12.2	11.3	12.9	13.7	12.8	11.3	11.5	5.0	12.1	9.2	10.5	20.0	11.9	14.2	17.0	19.0	10.0	12.9	12.2
利用目的	貸室(件)	77	69	62	116	59	37	71	56	81	62	53	3	6	2	10	3	6	2	9	6	4	6	1	58	801
	印刷室(件)	9	16	27	19	5	10	15	6	9	6	5	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3	130
	チラシ(件)	6	10	4	9	6	6	10	11	14	5	21	1	3	0	4	1	5	2	3	0	1	1	0	21	123
	ポスター(件)	2	0	1	4	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	11
	その他(件)	3	4	0	5	3	4	2	3	2	8	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	39

(2)施設利用相談

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31												
		計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	総計
「施設利用相談」(件)		72	25	46	60	13	11	29	42	27	22	43	12	5	2	10	6	5	5	8	3	4	7	1	68	458
対応時間(分)		866	270	599	643	136	170	296	655	415	270	545	120	60	20	155	125	40	45	80	45	40	180	10	920	5,785
対応時間平均(分/件)		12.0	10.8	13.0	10.7	10.5	15.5	10.2	15.6	15.4	12.3	12.7	10.0	12.0	10.0	15.5	20.8	8.0	9.0	10	15.0	10	25.7	10.0	13.5	12.6
場の提供	貸室(件)	46	11	19	34	2	3	10	19	16	7	15	5	0	0	0	1	0	1	1	0	1	3	1	13	195
	フリースペース(件)	2	1	1	1	2	1	5	7	1	1	3	0	1	0	6	2	0	0	0	0	2	2	0	13	38
	ロッカー(件)	3	2	1	0	0	0	2	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
	レターケース(件)	3	1	2	1	1	1	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	14
	共同事務室(件)	2	4	1	6	2	0	1	4	5	3	3	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	4	35
	展示スペース(件)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	駐車場(件)	0	0	3	3	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	1	0	0	6	15
	備品(件)	2	0	2	3	1	0	3	0	0	2	5	0	0	0	1	1	0	3	1	1	0	2	0	9	27
	その他(件)	3	2	6	9	2	1	2	4	1	0	4	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	37
情報関係	PC(件)	2	1	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	インターネット(件)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	コピー機・印刷機(件)	6	2	7	2	0	1	1	1	1	2	0	3	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	6	29
	チラシ・ポスター(件)	13	2	4	0	1	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	26
	サポートセンターHP(件)	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	4
	サポートセンター情報誌(件)	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	その他(件)	2	3	1	1	1	0	1	3	1	3	6	3	0	2	1	2	0	0	1	1	0	0	0	10	32

(3)市民活動相談

			H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31												
			計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	総計
「市民活動相談」(件)			84	163	173	215	164	139	169	154	135	168	266	14	12	13	30	25	17	10	25	17	19	14	5	201	2,031
対応時間(分)			2,500	4,083	5,267	5,527	5,708	3,835	4,676	4,790	5,360	4,670	7,375	600	340	335	1,040	630	290	285	920	465	370	410	72	5,757	59,548
対応時間平均(分/件)			29.8	25.0	30.4	25.7	34.8	27.6	27.7	31.1	39.7	27.8	27.7	42.9	28.3	25.8	34.7	25.2	17.1	28.5	36.8	27.4	19.5	29.3	14.4	28.6	29.3
ホップ	団体情報の問い合わせ(件)		21	47	41	56	46	53	40	44	33	47	55	0	6	4	6	9	2	2	3	6	4	1	0	43	526
	ボランティア相談(件)		6	16	24	35	10	13	15	4	7	7	17	1	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	5	159
	NPO基礎情報(件)		10	3	3	2	3	1	6	0	3	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	35
	その他(件)		14	8	9	20	13	10	11	3	11	7	3	0	1	3	1	0	1	0	1	1	1	1	0	10	119
ホップ計			51	74	77	113	72	77	72	51	54	62	76	1	7	8	7	10	4	2	7	7	5	2	0	60	839
ステップ	任意団体の立ち上げ(件)		7	23	12	5	7	1	7	12	8	10	10	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0	1	0	6	108
	NPO法人の設立(件)		2	2	1	2	8	4	4	2	1	2	6	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	4	38
ステップ計			9	25	13	7	15	5	11	14	9	12	16	1	0	0	1	3	1	2	0	1	0	1	0	10	146
ジャンプ	団体運営	団体PR(件)	4	10	31	12	3	9	15	9	10	11	33	0	2	0	2	1	2	0	5	1	1	2	1	17	164
		イベント運営(件)	9	25	18	38	17	18	43	19	20	28	52	5	1	3	8	2	1	5	4	3	3	3	1	39	326
		助成金(件)	0	2	2	9	14	7	5	10	7	9	14	3	0	0	1	2	2	0	2	0	4	1	0	15	94
		会計(件)	0	3	2	0	1	2	2	3	0	4	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	21
		ボランティア募集(件)	0	2	1	1	0	3	2	3	0	7	10	1	0	0	0	2	5	0	1	0	1	0	0	10	39
		人材育成(件)	1	3	0	0	0	0	1	1	1	4	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	3	16
		その他(件)	7	16	27	18	32	13	13	32	21	19	39	1	2	1	10	0	2	1	6	3	4	2	2	34	271
	その他(件)		3	3	2	17	10	5	5	12	13	12	21	2	0	1	0	4	0	0	0	2	0	2	1	12	115
ジャンプ計			24	64	83	95	77	57	86	89	72	94	174	12	5	5	22	12	12	6	18	9	14	11	5	131	1,046

(4)受益者からの相談

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31												
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	総計
「受益者からの相談」(件)	21	5	7	20	6	8	15	10	12	10	20	2	1	0	0	3	0	0	1	1	1	0	3	12	146
対応時間(分)	520	40	110	365	130	310	255	170	200	205	690	25	60	0	0	35	0	0	10	20	5	0	55	210	3,205
対応時間平均(分/件)	24.8	8.0	15.7	18.3	21.7	38.8	17.0	17.0	16.7	20.5	34.5	12.5	60	0	0	11.7	0.0	0.0	10.0	20.0	5.0	0	18.3	17.5	22.0

(5)その他

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31												
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	総計
「その他」(件)	25	18	34	69	31	11	27	33	41	47	53	5	3	3	5	4	3	2	4	2	4	6	7	48	437
対応時間(分)	490	461	455	2,084	835	370	1,145	707	880	2,241	1,435	95	40	130	210	80	80	50	60	15	70	225	285	1,340	12,443
対応時間平均(分/件)	19.6	25.6	13.4	30.2	26.9	33.6	42.4	21.4	21.5	47.7	27.1	19.0	13.3	43.3	42.0	20.0	26.7	25.0	15.0	7.5	17.5	37.5	40.7	27.9	28.5

（３）情報提供

①団体情報ファイル

団体情報ファイルには、団体ごとに団体紹介シート（※)、パンフレット、チラシ、定款・会則、予算書、決算書、事業計画書・報告書などをファイリングしている。

このファイルは、団体の運営・事業の参考となる情報源であり、新規団体立ち上げの先行事例としても紹介できるものである。また、受益者がサービスを受ける場合や、市民がボランティアとして活動に参加する場合にも活用することができる。

今年度、ファイル数は 2,180 団体（前年度比 103%）に増加した。これまで同様、ＴＳＣスタッフが会議や研修会、各種イベントに参加した際に、各種団体との情報交換の機会を積極的に行って団体の情報を入手することができた。

二市三町の団体情報ファイル数は、306 団体（前年度比 107%）に増加した。相談対応を経て新たに取り組みを始めたり、拠点をＴＳＣや多賀城に移した団体、以前より活動していたものの情報のストックがなかった団体が新たに加わったため、情報の増加につながった。

分野別の増加の特徴としては、従来から多かった子育て支援の団体に加え、ＴＳＣのターゲットの一つでもある青少年（おおよそ中学～大学世代）の活動への支援を行う団体の情報を積極的に収集したことから、「子どもの育成・支援」分野が 252 団体（前年度比 104%）となった。また前年度同様、新たにチラシ類の配架依頼が多くあった「文化・芸術」分野の団体が 265 団体（前年度比 106%）となった。

次年度以降も、より多賀城の課題に合わせた団体の情報収集に力を入れるとともに、収集した情報を市民が活用しやすいよう編集・発信し、情報の価値を高めていく。

※団体紹介シート

市民活動団体の情報発信を支援するＴＳＣ独自のツール。団体の連絡先、設立経緯、目的、活動内容、アピールポイントなどを記入するもの。提出された団体紹介シートは団体情報ファイルにファイリングされるとともに、ＴＳＣのウェブサイト上で公開している。平成 31 年度末現在、117 団体の団体紹介シートを公開している。

■団体情報ファイル数（単位：団体）

※二市三町：多賀城市・塩釜市・松島町・七ヶ浜町・利府町

	二市三町	県内	県外	合計	キーワード
福祉	21	143	62	226	障がい者支援、高齢者支援、移送サービス、配食サービス、地域福祉
医療・保健・健康	13	57	92	162	健康、医療、難病支援、カウンセリング、自殺予防、保健、依存症
スポーツ	24	53	51	112	スポーツ振興
人権・ジェンダー	8	117	87	252	平和、ホームレス支援、貧困支援、労働問題、人権、男女共同参画、DV、マイノリティ、ジェンダー、ひきこもり
子どもの育成・支援	48	17	22	55	子育て、青少年健全育成、障がい児支援、学習支援、児童虐待、不登校、母子・父子家庭支援
社会教育	16	106	93	209	生涯学習
環境	10	167	121	340	自然保護、環境保全、リサイクル、農業・林業・漁業・食育、動物・ペット、エネルギー
まちづくり	52	25	28	57	まちづくり、地域づくり、コミュニティ形成、地域おこし、観光
災害救援・地域安全	4	36	62	106	災害救援、被災者支援、地域防災・安全
国際交流・協力	8	139	53	265	国際交流、国際協力、在日外国人支援、フェアトレード
文化・芸術	73	22	4	50	文化振興、文学、音楽、映画、演劇、アート、歴史、伝統文化、ミニコミ出版、芸術、工芸
シニア	2	13	5	20	団塊世代、セカンドライフ
市民活動支援	2	27	196	225	市民活動団体支援、助成活動
その他	2	30	36	68	オンブズマン（行政監視）、政策提案、消費者保護、科学技術、職能開発、コミュニティビジネス、その他
地域組織	23	7	3	33	自治会、町内会、地域自主組織、まちづくり協議会、老人クラブ、子ども会
合 計	306	959	915	2,180	

■分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

分野＼年度	H20	H26	H27	H28	H29	H30	H31	
福祉	52	180	192	199	214	221	226	
医療・保健・健康	34	160	168	171	160	161	162	
スポーツ					49	49	50	※平成 29 年度より分離
人権・ジェンダー	20	85	87	88	106	108	112	
子どもの育成・支援	57	232	245	257	211	242	252	
社会教育					49	54	55	※平成 29 年度より分離
環境	32	168	178	183	193	203	209	
まちづくり	47	312	338	354	309	331	340	
災害救援・地域安全					54	55	57	※平成 29 年度より分離
国際交流・協力	19	101	102	104	103	105	106	
文化・芸術	22	164	179	190	226	251	265	
シニア	8	21	21	21	20	20	20	
市民活動支援	47	185	206	209	210	222	225	
その他	19	59	60	60	58	68	68	
地域組織		9	11	11	25	30	33	※平成 22 年度より集計開始

■二市三町分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

分野＼年度	H20	H26	H27	H28	H29	H30	H31	
福祉	4	15	17	16	18	19	21	
医療･保健･健康	3	17	21	22	14	13	13	
スポーツ					25	24	24	※平成 29 年度より分離
人権･ジェンダー	0	2	3	4	6	7	8	
子どもの育成･支援	6	37	43	46	38	43	48	
社会教育					13	15	16	※平成 29 年度より分離
環境	6	10	11	12	10	10	10	
まちづくり	8	34	39	43	44	48	52	
災害救援･地域安全					4	4	4	※平成 29 年度より分離
国際交流･協力	5	8	8	8	7	8	8	
文化･芸術	1	37	44	50	59	70	73	
シニア	0	1	1	1	2	2	2	
市民活動支援	1	2	2	2	2	2	2	
その他	0	0	0	0	1	2	2	
地域組織		9	11	11	16	20	23	※平成 22 年度より集計開始

■エリア別団体情報ファイル経年変化（前年度比）（単位：団体）

エリア＼年度	H20	H26	H27	H28	H29	H30	H31
二市三町	34	172	200	215	259	287	306(7%↑)
県内	177	752	794	826	879	926	959(4%↑)
県外	127	752	793	806	849	907	915(1%↑)
合 計	338	1,676	1,787	1,847	1,987	2,120	2,180(3%↑)

②ウェブサイト・ブログ・ツイッター

■ウェブサイト・ブログについて

ウェブサイト：平成 21 年 12 月 25 日開設　ブログ：平成 20 年 7 月 19 日開設

		ｳｪﾌﾞｻｲﾄ	ブログ	
		訪問者数	訪問者数	記事数
平成 21 年度		9,777	15,889	74
平成 22 年度		98,038	42,105	147
平成 23 年度		196,154	76,607	279
平成 24 年度		58,685	20,056	314
平成 25 年度		64,654	24,957	302
平成 26 年度		73,837	24,749	254
平成 27 年度		70,953	25,150	261
平成 28 年度		14,328	23,906	236
平成 29 年度		8,758	28,869	225
平成 30 年度		13,　920	35,412	261
平成 31 年度	4 月	1,015	4,036	18
	5 月	1,094	3,408	17
	6 月	1,265	3,770	23
	7 月	1,399	6,072	20
	8 月	1,220	3,944	19
	9 月	1,113	3,861	19
	10 月	1,505	4,717	20
	11 月	1,261	3,439	20
	12 月	1,198	3,482	22
	1 月	1,074	3,333	15
	2 月	1,202	2,554	16
	3 月	1,316	3,045	28
平成 31 年度計		14,662	45,661	237

ウェブサイトは主にＴＳＣの機能や事業を、ブログは主に市内外の市民活動に関わる取り組みやノウハウ、地域イベント等を発信している。

ブログ 1 記事あたりの平均訪問者数は以下の通り。

平成 31 年度　193 件
参考：平成 29 年度　128 件
平成 30 年度　136 件

記事・平均訪問者数ともに増加している。ブログ訪問者の 8～9 割はブックマークをする人であり、ＴＳＣ事業に対して関心を持つ市民、ブログを通じて市民活動や地域の情報を得ようとしている市民が増えたと考えられる。特に平均訪問者数は 193 件と、近年の中では突出傾向が見られる。

4 月は「データで見る宮城県」、7 月は「多賀城ビアサミット」、10 月は「台風 19 号」に関する記事の閲覧が特に多かった。

※平成 28 年 5 月にセキュリティ対策としてウェブサイト」の訪問者数測定ソフトを変更。同一人が重複してカウントされない方法となった。
※平成 30 年 4 月、ウェブサイトリニューアルに伴い訪問者測定ソフト・方法を変更。これまでは同一人が 1 ヵ月に何度訪問しても 1 件とカウントされていたが、同一人が訪問した回数だけカウントされるようになった。
※平成 22、23 年度は東日本大震災関連の情報を発信したため、ウェブサイト・ブログともに訪問者数が急増した。

■ツイッターについて　平成 23 年 9 月 1 日開設

今年度もブログ更新やＴＳＣ事業の告知を行い、フォロワーに対して広く、ＴＳＣの情報を届けることができた。今後も継続して各事業とも連携し、講座やイベントの様子を発信など、多様な地域の情報の発信に努める。

③たがさぽ文庫

たがさぽ文庫は、情報サロン内にある市民活動、ＮＰＯ、地域活動などに関する書籍を集めた図書貸出コーナーとして平成 21 年 6 月 1 日より開始した。

広報、会計、労務など団体マネジメントに関する書籍、市民活動の入門となる書籍、各分野（福祉・まちづくり・子ども等）の専門書、活動の参考になるハウツー書籍をそろえている。また、震災関連の資料やＮＰＯに関する絵本なども収集している。

＜蔵書数＞

・1,251 冊（令和 2 年 3 月現在）　登録者数計 198 人

＜概要＞　・事前登録により、貸出カードを発行

・1 人 2 冊まで、貸出期間は 2 週間

平成 31 年度書籍貸出件数（平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月）

		貸出図書		
		登録者数	貸出件数	貸出冊数
		人	件	冊
平成 20 年度				
平成 21 年度		37	100	132
平成 22 年度		19	132	109
平成 23 年度		24	76	116
平成 24 年度		29	122	158
平成 25 年度		18	98	137
平成 26 年度		20	89	127
平成 27 年度		13	151	215
平成 28 年度		7	138	209
平成 29 年度		11	60	87
平成 30 年度		10	75	102
平成 31 年度	4 月	2	3	6
	5 月	1	11	13
	6 月	2	12	20
	7 月	0	7	10
	8 月	0	6	8
	9 月	3	7	10
	10 月	2	6	11
	11 月	0	4	6
	12 月	0	0	0
	1 月	0	3	5
	2 月	0	2	2
	3 月	0	2	4
平成 31 年度計		10	63	95

平成 31 年度は前年度と比較し、登録者数はほぼ横ばいだが、貸出件数・冊数は増加した。

新規登録者数は平成 24 年度をピークに減少傾向にあるが、イベントや講座で来館した際に活動に関連した図書を借りるために登録する利用者の姿が見られた。さらに講座後も継続してＴＳＣを利用し図書を借りる傾向にあったため、貸出件数・冊数は増加した。

さらに今年度は、隅田区情報紙「すみだ」を展示すると同時に町内会の書籍をフリースペースに設置しＴＳＣの機能をより発信していくことに努めた。

ＴＳＣが主催した講座・講師に関する図書の展示や、活動の相談を受ける際に積極的に図書の活用や本の紹介を行った時期の図書の貸出しや新規登録者は増加した。

今年度は、ＮＰＯの基礎や場づくり、地域コミュニティや町内会関連の本、多様性の理解につながる本などの貸出しが多かった。

また、企業との協働に関する書籍やＳＤＧｓ関連、まちづくりなど、事業と連携し市や世の中の動きに合わせて本を増やした。

ほかにも、幅広い分野を網羅できるようジェンダー・人権、環境全般に関する本を追加した。

次年度も地域・社会課題の解決のヒントとなる資料を揃え、より市民に活用を促したい。

（４）場の提供

①共同事務室入居団体インキュベート相談／ワークスペース運用状況

●インキュベート相談会について

事務用ブースに入居 6 ヵ月後に、団体の代表者や事務局を担うスタッフとＴＳＣスタッフで個別相談会を実施している。相談は 1 団体あたり約 1 時間程度で、団体の活動の現状把握、団体の運営課題の整理、課題解決に向けた情報提供やアドバイスを行った。

相談内容は、事業展開の方法や広報の仕方、組織の人材育成や合意形成、運営資金の調達、会員・メンバーの増やし方、活動に必要な備品の保管場所やワークスペースの確保についてなど、今後の団体運営に関する内容が多かった。

また、平成 30 年 6 月より 3 年間の入居期間満期を迎えた団体の再入居を可能としており、現在 1 団体が再入居中である。

事務用ブース

日　時：令和元年 12 月 9 日（月）14:00～15:00
会　場：302 会議室
団体名：てんでん宮城（平成 30 年 6 月入居／2 年目）

日　時：令和元年 12 月 17 日（火）15:00～14:00
会　場：301 会議室
団体名：多賀城イングリッシュ・サポーターズ（平成 29 年 6 月入居／2 年目）

●開催予定の相談会延期

新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するために、多賀城市市民活動サポートセンターが一部休館になったことに伴い、令和 2 年 3 月に実施を予定していた相談会を延期とした。

実施予定の団体は、次の 3 団体。

・生涯学習 100 年構想実践委員会
・宮城県学童保育連絡協議会
・ミタケオアシン

なお、サポートセンターの開館が決定しだい、相談会の実施を検討する。

②フリースペース利用状況

●フリースペース概要

○通常の利用

地域づくりに関わる方の交流を深めるための場として、予約不要・無料で利用できる。平成 27 年 5 月から、2 階ギャラリーに Wi-Fi が設置され、利用者が自身のスマートフォンやノートパソコンなどでインターネットをすることができ、情報収集・発信が可能となった。

（利用人数などは「運営状況-利用状況集計」を参照）

2 階 ギャラリー

○企画の利用

ＮＰＯ、自治会・町内会、子ども会、生涯学習団体、個人、企業（社会貢献活動での利用）を対象に、展示、ワークショップ、交流会など、下記の目的のもと利用ができる。

【利用目的】

・団体の活動を多くの人に知ってもらう
・企画づくりを通して団体運営のパワーアップを図る
・市民が集い新たなつながりを生む
・市民が自分たちの住む社会・地域について知り、考える
・市民が地域・社会のためにアクションを起こす

3 階 交流サロン

○ＴＳＣ事業での利用

来館者にＴＳＣの取り組みやＮＰＯのことを知ってもらう場合やオープンな空間づくりを行う場合は、ＴＳＣ事業の会場としてフリースペースを活用している。

フリースペース利用風景

○フリースペースの利用の傾向

今年度は 10 団体計 12 回の利用があり、新規で 4 団体がフリースペースでのアクションをおこした。

※参考：前年度は 7 団体計 9 回の利用

●企画利用内容

	企画タイトル	利用団体	期間	実施目的	実施内容	フロア	参加人数
1	狐の窓	【新規】 狐の窓	5/3～ 5/5	中学生などを対象に美術の良さを知ってもらう	油絵、日本が、デジタル絵等の展示と体験型ワークショップ	3F 交流サロン	84 人（WS 19 人）
2	IDAHO メッセージ展	たがじょう IDAHO 実行委員会	5/10 ～ 5/31	5/17 は「多様な性に YES の日」である。誰もが多様な性の当事者であることの理解促進を図る	「IDAHO メッセージ展」、スクランブルエッグ（青森県）制作の展示、東北の LGBT 関連団体のチラシ設置	2 階 ギャラリー	―

	企画タイトル	利用団体	期間	実施目的	実施内容	フロア	参加人数
3	マルシェ Bridal Veil ～同じ空の下～	大山佳子	6/7	・ハンディキャップのある方・保護者の交流 ・社会と広くつながる	・マルシェ(14 店) ・出展者同士、来場者との交流	2 階 ギャラリー 3 階 交流サロン	70 人
4	「花」と「筆文字」と「多賀城」・・・。	【新規】 佐藤敏充	6/10 ～ 6/30	多賀城を花と筆文字で表現し、魅力を発信する	筆文字の書 20 点と小作品。トモキノコの言葉のコラボとしろのむらさきの作品	2 階 ギャラリー	―
5	第 3 回西から魔女がやってきた Peace をつくろう～平和を語るものがたり～	長崎の語り部から学ぶ会	7/13 ～ 7/15	長崎の原爆、昭和の復興、平和の問いかけ	・長崎の原爆に関するパネル展示、DVD 上映、語りの会	2 階 ギャラリー	55 人
6	多賀城中学校 美術部作品展	多賀城市立多賀城中学校美術部	7/26 ～8/5	地域の方々に美術部の作品を鑑賞してもらう。成果を発表する場	美術部の作品展示	2 階 ギャラリー 3 階 交流サロン	150 人
7	七夕涼風「おはなし会」	【新規】 サーラ文庫	8/8	絵本を通じて集いつながりを生む	七夕小物作り、絵本の読みきかせ、ゆかた着付け	3 階 交流サロン	8 人
8	たのしい絵本の読み聞かせといやしのハンドマッサージ	サーラ文庫	8/27	絵本を通じて集いつながりを生む	絵本の読み聞かせとハンドマッサージ	2 階 ギャラリー	6 人
9	学生主催！トークイベント@たがさぽ	iRIS	9/22	学生を中心にした若者で、地域のことを話す	多賀城・利府のまちづくりなど、ワークショップ形式で地域の違いのことを話す	3 階 交流サロン	5 人
10	会員写真展	写真クラブ集団多賀城	10/1 ～ 10/29	写真を通じて地域文化の交流をはかる	写真クラブ会員の額装写真 26 点を展示	2 階 ギャラリー 3 階 交流サロン	―
11	冬～春「おはなし会」	サーラ文庫	2/15	絵本を通じて集いつながりを生む	絵本の読みきかせ、折り紙、ハンドケア	2 階 ギャラリー	16 人
12	プログラミング ミニ体験会	【新規】 ソーズエイトプログラミングクラブ	2/27 2/28	プログラミング普及のため	いろいろなプログラミング環境を紹介する	3 階 交流サロン	20 人
※	手作り小物と絵本のおはなし会	サーラ文庫	3/7	絵本を通じて集いつながりを生む	手作り小物(編み物、袋物)と絵本の読み聞かせ	3 階 交流サロン	―
※	さをり体験＆作品展	さをりひろば余暇よか	3/28 ～ 3/30	さをり織り体験や作品鑑賞を通じて、さをり折りの良さを普及する	会員の作品展示、さをり織りワークショップ、小物作品の一部販売	3 階 交流サロン	―

※3 月に予定していた 2 つのイベントは、コロナウイルス感染症の拡大防止のため TSC が一部休館になったことに伴い中止となった。

●企画利用の様子

4.「花」と「筆文字」と「多賀城」…。

（佐藤敏充とトモキノコ）

7. 七夕涼風「おはなし会」

（サーラ文庫）

9. 学生主催！トークイベント@たがさぽ

（iRIS）

12. プログラミングミニ体験会

（ソーズエイトプログラミングクラブ）

●ＴＳＣ事業での利用の様子

町内会「すみだ」の展示（2 階）

（11/1～11/30 開催）

たがさぽのクリスマス雑貨市　団体紹介掲示（2 階）

（12/1～12/24 開催）

（５）他団体・他機関との連携

①各会議・実行委員会への参加

地域課題を解決していくためには多様な主体で連携して取り組んでいく必要がある。今年度、ＴＳＣでは多賀城市の課を横断した情報交換や取り組みの場に参加した。

１）平成 31 年度災害公営住宅関係課ミーティング

災害公営住宅に現状について、多賀城市各課・各関連機関の垣根を超えて共有し、連携して課題解決を図ることを目的に実施された。ＴＳＣは平成 29 年度より参加。

【参加団体・機関】

地域コミュニティ課（主管）、都市計画課、介護福祉課、生活支援課
社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会、社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会復興支えあいセンター、一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム、一般社団法人パーソナルサポートセンター、社会福祉法人宮城県社会福祉協議会震災復興支援室、宮城県サポートセンター支援事務所、一般社団法人みやぎ連携復興センター

【ＴＳＣの役割】

・市民によるコミュニティ形成や課題解決に関する取り組み事例の提供
・自治会運営に関する相談対応

【実施状況】

	実施日	内容
第 1 回	4 月 19 日(金)	多賀城市災害公営住宅の支援のあり方検討会
第 2 回	6 月 21 日(金)	コミュニティ形成支援シートの説明と作成依頼について、各住宅の情報共有、他
第 3 回	8 月 23 日(金)	コミュニティ形成支援シートについて、各住宅の情報共有他
第 4 回	10 月 18 日(金)	自治会及び住民相互の見守りについて、各住宅の情報共有他
第 5 回	12 月 20 日(金)	復興支え合いセンターの閉鎖について、各住宅の情報共有他
	2 月 5 日（水）	地域支援員研修「災害公営住宅」と「地域コミュニティ」の関係強化及び一般施策との接続について ※ＴＳＣスタッフは参加せず
第 6 回	2 月 21 日(金)	今後の住宅内施設管理方法について、各住宅の情報共有他

【成果】
・災害公営住宅の支援者へ、災害公営住宅以外の自治会の課題や取り組み事例の情報を提供することができた。
・災害公営住宅住民の課題を把握できる時間となったとともに、必要な支援について考えることができた。

【課題】
・支援者に向けて、地域課題等に関する情報を次年度も提供していく。
・被災者支援やコミュニティ形成にかかる事例等の情報を収集し、住宅自治会や地域で活動する住民にその情報を提供する。

2）平成 31 年度住民主体の地域づくりを広げる事業実行委員会

地域の自然な支えあいの取り組みに価値を見出し、事例として地域に発信していくことを目的に実施された。ＴＳＣは平成 29 年度より参加。

【参加団体・機関】
介護福祉課（主管）、社会福祉課、生活支援課、健康課、生涯学習課、地域コミュニティ課
社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会、多賀城市社協復興支えあいセンター、多賀城市地域包括支援センター（中央・西部・東部）、多賀城市自立相談支援窓口（ＰＳＣ）、ＮＰＯ法人全国コミュニティライフサポートセンター

【ＴＳＣの役割】
・自治会・町内会をはじめとした住民同士の支えあい事例の情報を提供する。
・各分野で活動する市民活動の情報を提供する。
・自治会・町内会の会長や役員、若い世代の活動者が実行委員の企画する講座に参加するよう促し、すでに地域づくりに関わっている人に対して地域で支え合う意義を知ってもらう。

【実施状況】

	実施日	内容
第 1 回	6 月 24 日(月)	実行委員自己紹介、これまでの取り組みと地域資源の紹介 ※ＴＳＣスタッフは参加せず
第 2 回	7 月 25 日(木)	お互いの活動を知り合う。新たな活動の発見
第 3 回	8 月 21 日(水)	講座の役割分担など確認 ※ＴＳＣスタッフは参加せず

第 1 回 企画	9 月 24 日(火)	企画名：ご近所デビュー！地域支え合い講座 第 1 回「地域の支え合いとは」 内　容：広く市民を対象に、支えあいについての講義と身近な取り組みを出し合うワークショップを実施。
第 4 回	10 月 7 日（月）	第 1 回企画のふりかえり、第 2 回の企画内容の検討
第 2 回 企画	10 月 28 日(月)	企画名：　ご近所デビュー！地域支え合い講座 第 2 回「身近な事例から学んでみましょう」 内　容：第１回企画の振り返りとこれまでお宝発表会で取り上げた事例の現在の様子を紹介。グループワークで地域の支え合いについて意識を深める。 ※ＴＳＣスタッフは参加せず
第 5 回	11 月 14 日(木)	第 2 回企画のふりかえり 地域資源取材分担等
第 6 回	12 月 5 日(木)	発表会役割分担等
第 3 回 企画	1 月 17 日(金)	発表会リハーサル
第 3 回 企画	1 月 18 日(土)	企画名：お宝事例発表会 内　容：2 回の講座で発掘したお宝を紹介し、地域の支え合いの輪を広げる
第 7 回	1 月 28 日(火)	年間事業評価、課題等の振り返り

【成果】

・ＴＳＣメンバーも取材に出向くことで、単なる情報だけではない実際の支え合いの事例を知ることができた。
・実行委員会での学びやネットワークを活かし、ＴＳＣ事業「連携モデルづくり事業」への参加にもつながった。

【課題】

・今年度は多世代の支え合いの事例もあったが、どちらかというと高齢者の支え合いの事例が多かった。来年度は実行委員会に子育て世代も加わってもらうことを提案し、さらに年代を超えた支え合いの事例発掘を目指す。

３）施設情報交換会

市内の施設がより連携して事業を実施したり、各種対応について意見交換できるよう情報交換の場を設けている。平成 30 年度より始まった。

【参加団体・機関】

多賀城市文化センター、中央公民館、山王地区公民館、大代地区公民館、多賀城市総合体育館、市民文化創造局、市立図書館、蔦屋書店、PUBLIC HOUSE

【ＴＳＣの役割】

・ＴＳＣの取り組みや視点を各施設へ共有する。

【実施状況】

	実施日	内容
第 1 回	5 月 24 日（金）	本年度事業の共有 宮城県「芸術銀河」について
第 2 回	8 月 22 日(木)	今後の施設情報交換会について 今後実施される市内のイベントの共有
第 3 回	10 月 10 日（木）	各施設今後の予定の共有 台風 19 号における各施設の対応について
第 4 回	12 月 3 日（火）	各施設今後の予定の共有 お正月関連の企画の共有 大規模イベント時の駐車場対応について 次年度及びオリンピック関連事業の共有
第 5 回	2 月 18 日（火）	各施設今後の予定の共有 託児ボランティアについての情報交換 各施設のコロナウィルス対策 視覚障がい者の予約システム利用について

【成果】

・各施設の取り組みを共有することができた。
・連携した事業を 2 件実施することができた。
・ＴＳＣの持つ市民活動や課題解決の視点から問題提起や情報共有することができた。

【課題】

・来年度以降も情報交換にとどまらず、互いに連携して事業を進めたり、課題解決に取り組んだりしていく場としていく。

４）第六次総合計画策定ワークショップ

第六次総合計画策定に向けて、多様な視点を盛り込むためのタウンミーティング。

【参加団体・機関】

市長公室（主管)、サポート市職員、各回の対象となる市民

【ＴＳＣの役割】

・ＴＳＣ運営に市民の意見を取り入れる。

【実施状況】

名称	実施日	内容
サポート職員ワークショップ	4 月 22 日（月）	タウンミーティング実施に向けて、市職員の担当チームが学びを深める研修
第 1 回魅力発見ミーティング in-tagajo	5 月 11 日（土）	多賀城市の魅力や大切にしたいことを共有するワークショップ
第 2 回魅力発見ミーティング in-tagajo	5 月 26 日（日）	同上
たが Mama-Map 地図をつくるワークショップ	6 月 6 日（木）	子育て中の方を対象とした、くらしを豊かにすることにスポットをあてた地図づくり ※たがさぽスタッフは参加せず
たがみらい会議～発信 私たちの未来～	7 月 7 日（日）	市内に通う高校生を主な対象とした、多賀城市の魅力や大切にしたいことを共有するワークショップ
魅力発見 in-tagajo～夜～カフェ	7 月 11 日（木）	仕事・学校帰りの市民、市に関わりのある方を対象とした、多賀城市の魅力や大切にしたいことを共有するワークショップ
VisionDiary～みらい日記多賀城	10 月 19 日（土）	これまでのタウンミーティングをもとに、多賀城市で改めて大切にしたいことを考えるワークショップ

【成果】

・市民が各立場で考える多賀城市の魅力や大切にしたいことを取り入れる機会となった。

【課題】

・総合計画をはじめとした行政の各計画等へ市民が参画する重要性やプロセスをＴＳＣとしても今後市や市民へ提案し、市民が政策提言できる環境を整えていく必要がある。

②他部署・他機関との連携事例

１）サンノウスイッチ

【企画について】

日　時：8 月 8 日（日）10:00～16:00

会　場：山王地区公民館

参加者：16 人

主　催：山王地区公民館

内　容：子どもを対象に、公民館にあるものを組み合わせてボールをゴールまで運ぶ装置をつくる企画。

【連携について】

概　要：山王地区公民館の呼びかけでＴＳＣは企画立案と当日スタッフとして関わった。

連　携：山王地区公民館

成　果：公共施設の多様な使い方を参加者、公民館スタッフと見出すことができた。

２）多賀城のはたらく外国人～外国人技能実習生を知ろう～

【企画について】

期　間：10 月 19 日（土）13:30～15:30

会　場：多賀城市市民活動サポートセンター大会議室

参加者：39 名

主　催：多賀城市国際交流協会

内　容：技能実習生についての講座、企業の受け入れ事例、技能実習生の日常

【連携について】

概　要：各々の主体が持つ情報や事例を発信した。ＴＳＣは主催団体と企業をつなぐとともに、運営のサポートを行った。

連　携：多賀城市国際交流協会、（公財）宮城県国際化協会、多賀城イングリッシュ・サポーターズ、ユニベール株式会社、株式会社武蔵野、株式会社斎藤工務店

成　果：多賀城市内の各主体が外国人技能実習生に関わる現状を学び合うことができた。

３）多賀城市立第二中学校　総合的な学習の時間

【企画について】

日　時：①10 月 25 日（金）13:40～15:10
　　② 1 月 15 日（水）14:05～14:50
　　③ 2 月 17 日（月）14:15～15:00

会　場：多賀城市立第二中学校

参加者：①2 年生 41 名
　　②1 年生 152 名
　　③1 年生 集計なし

主　催：多賀城市立第二中学校

内　容：①キャリアセミナーの一環としての社会人講話。
　　②③生徒が地域資源について調べて発表する「ミライ」づくりプロジェクト。

【連携について】

概　要：ＴＳＣの役割として、①はキャリアセミナーとしてＮＰＯの仕事、②はＮＰＯやＴＳＣを紹介、③は発表会の聴講と講評を行った。

※3 月 4 日（水）、3 月 11 日（水）、3 月 18 日（水）も発表会を実施予定だったがコロナウイルス感染防止のため中止となった。

連　携：多賀城市立第二中学校

成　果：中学生が学習の中で地域資源や市民活動団体に触れることができた。

４）我が事！まるごと！地域づくりと介護予防展

【企画について】

期　間：11 月 11 日（月）～11 月 15 日（金）

会　場：多賀城市役所ロビー

参加者：集計なし

主　催：介護福祉課

内　容：介護予防全般、多賀城市の人口構成、地域のサークルに関する展示。

【連携について】

概　要：各課で持っている地域のサークル事例を持ち寄って企画を検討した。サークルの協力も得て、普段の活動の成果物も展示した。

連　携：介護福祉課、地域コミュニティ課、地域のサークル

成　果：来庁者が医療の観点のみならず、地域活動に参加することの効果や具体の活動事例を知る機会となった。

各課が地域情報を持ち寄り、多様な視点・テーマでの展示をすることができた。

Ⅰ-4　事業実施状況

（１）課題解決に向けた連携モデルづくり ①多様な主体で課題に向かう場づくり

目　的	●企業の地域・社会貢献活動、市民活動団体の課題解決に向けた活動など、それぞれがどのような活動をしているかを知ることで、セクター間の関係構築を深化する。 ●地域の身近な課題を知り、その解決に向け様々な主体が連携していくことで、互いが望む未来の姿につながることに実体験を通して体感する。 ●平成 30 年度に実施したＴＳＲ会議 Vol.2 後に、ＴＳＣへ同じテーマで更なる取り組みを求める声をいただいているが、このような『次の取り組み』に対し様々な主体が自主的に集まり、何らかの行動を起こしていくような風土を作り上げる。
背　景	●平成 29 年度から 3 年計画で進めている本事業の中で、地域・社会貢献活動に取り組む企業から「自分たちと同じような取り組みや、想いを持つ市民活動団体の情報を知りたい」という声があった。 ●ＴＳＲ会議 Vol.2(平成 30 年度開催)でテーマに取り上げた『だれも取り残さない社会を目指して』は、参加された方々から「引き続き考えたいテーマである」との声をいただき、興味・関心を惹く内容であったと判断した。 ●本事業などを通じてＴＳＣとつながりが生まれた企業の地域・社会貢献活動相談に対応することや、企業や市民活動団体をつなげる役割を継続する。
対　象	企業、ＮＰＯ（市民活動団体)、自治会・町内会、行政など
成果目標	●実施するイベントや講座などにおいて、当初計画した通りの参加者が集まる。 →設定したテーマや内容について、一定程度の関心を得られた状況である。 ●イベントや講座などの企画実施後、参加者から継続的な取り組みへの希望が上がる。 →設定したテーマや内容に興味を抱いたと考えられ、継続することでさらに多く方が興味・関心を得ることが期待できる。 ●イベントや講座などのテーマに対する取り組みを参加者が中心となり、実施しようとする動きが見られる。 →参加者の自主性促進につながる動きで、連携のモデルになり得る成果である。 ●イベントや講座などの企画実施後、上記の 3 項目いずれかを満たす動きが見られる。
成　果	●『だれも取り残さない社会を目指して』当事者の日常を体験する取り組み。 ・テーマ①「地域で暮らす外国人」参加者：外国人 25 名、市民 12 名 ・テーマ②「障害者(車いす)」参加者：10 名 ●環境グルーヴフェスでの地域清掃活動調査：30 件の情報提供あり。 ●イベントや講座の参加者が行った取り組み：1 件 ●企業や市民活動団体などが、互いの取り組みや地域・社会の課題知る場を開く。 →2020 年 3 月開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催見合わせ。代替として、【課題解決に向けた連携モデル事業】の取り組みをまとめた冊子(26 ページ、1,500 部)を作成した。
次年度に向けた課題	●企業や市民活動団体はじめとする様々な組織・団体が集う場の開催は見送りとなった。この取り組みをこれからも継続的に行っていくとともに、連携のためには地縁組織・市民活動団体の運営や情報発信の力づけ支援が必要である。

実施概況（１）課題解決に向けた連携モデルづくり　①多様な主体で課題に向かう場づくり

【みんなにやさしいユニバーサルまちあるきツアーズ】

（実施日を別に 2 テーマで実施）

●目　　的

障害者や外国人など社会的少数の方々の日常を体験し『だれも取り残さない社会』について、何ができるかを参加者全員で考える。

・テーマ①：外国人とあやめまつりに行って、日本文化を体験するツアー

・対　　象：外国人と市民、外国人支援団体、外国人技能実習生を受け入れている企業など

・日　　時：令和元年 6 月 16 日（日）10:00～13:30

・参加者　：37 人（内訳：外国人 25 人、市民：12 人）

●企画内容

ツアーを通して参加外国人と市民の交流を図る。また外国人参加者でご協力いただいた外国人技能実習生を受け入れている企業の担当者や、外国人の支援活動を行っている団体の方などが集まり、話し合いをする場を設けたり、外国人の方の日ごろの暮らしについての話を聞く時間をつくり、日本で暮らす外国人の現状について考えた。

●実施項目

（※当日は雨天のため、当初の内容を変更して実施）

・多賀城駅前に集合し、展示中のあやめの花を観賞しながらあやめについての解説

・多賀城市立図書館の見学

・多賀城市文化センターの中庭散歩

・多賀城市史遊館での勾玉づくり体験

・万葉衣装着付け体験

・ランチ交流会

・外国人受け入れに関する企業と支援団体の情報交換会

・外国人の日頃の暮らしや困りごとを聞いて、何かできることを考える話し合いの時間

●協力団体／企業（順不同、敬称略）

ユニベール株式会社、株式会社武蔵野、ぜんぎょれん食品株式会社、多賀城市国際交流協会、生涯学習 100 年構想実践委員会、史都多賀城万葉まつり実行委員会衣装部、多賀城史遊館ボランティアのメンバー、多賀城イングリッシュ・サポーターズ(TES)

図書館体験での集合写真

万葉衣装を着る体験

外国人の日常や困りごとなどを聞いた

・テーマ②：車いすでバスに乗って、菖蒲田浜へ行って、フェスを見学するツアー
・対　　象：車いすユーザー、市民、支援団体、企業など
・日　　時：令和元年 9 月 13 日(金) 14:00～17:30
（※当初計画の 6 月 30 日が雨天のため 9 月へ延期、それに伴い実施内容も変更した）
・参加者　：10 人（内訳：企業 4 人、団体：4 人、個人 2 人(うち、車いすユーザー1 人)）

●企画内容

買い物や移動など、暮らしの行いを車いすで体験したり、車いすユーザーの方と一緒に行動をしたりすることで、設備は障害のある方に使いやすい(バリアフリー)か、どんなことに障壁(バリア)を感じているか、障害のある人の立場になって考えた。

●実施項目

（※6月実施の時点では砂浜を車いすで走行できる専用のビーチマットの使用を計画していたが、その内容は取り止めて実施）
・コンビニでの買い物体験
・公共交通機関(電車とタクシー、路線バス)での移動体験
・菖蒲田浜の移動体験
・セブンビーチライトアップフェス 2019 を観賞
・イベントの主催者と情報交換
・ツアーでの気づきを参加者で共有

●協力団体（順不同、敬称略）

障害者の移動と社会参加を広げる会、SEVEN ビーチフェスティバル実行委員会、ＮＰＯ法人レスキューストックヤード（みんなの家きずなハウス）

ツアー出発前の様子

車いすでバスに乗る体験

ツアーの目的地で開催中のイベント主催者とイベントを車いすでも楽しむための情報交換

【地域清掃活動調査】

教えてください！多賀城市内の清掃（ゴミ拾い）活動の情報を！

●目　　的

企業や自治会・町内会、市民活動団体などでも進んで取り組んでいる活動であることから、改めてその実態を知り、連携のテーマとしての可能性を探る。

・対　　象：環境グルーヴフェスの来場者
・日　　時：令和元年 8 月 24 日(土)・25 日(日)
・場　　所：環境グルーヴフェス(多賀城市文化センター)
・情報収集：33 件（ＴＳＣスタッフが収集した情報も含む）

期間中はマップ形式で情報を収集

●企画内容

環境グルーヴフェスの来場者を対象に、ＴＳＣの出展ブースで多賀城市内の清掃活動の情報を集める。情報収集の方法は多賀城市の大きな地図を用意し、活動場所をマッピングし、さらにその情報を具体的に付せんに書き込んでもらうというもの。書き込む内容は実施団体や組織、活動内容・実施日など知っている範囲とした。情報は、連携の場におけるテーマ設定や事例などに活用する。

●収集した情報

多賀城市建設災害防止協議会がお盆前に駅前を清掃している。
多賀城第二中学校と地域住民の共同でゴミ拾いを行っている。
第 4 土曜日ローテーション（9 件）※自治会活動
第 2 土曜日ローテーション　※自治会活動
早朝、年配の男性がゴミ拾いをしながら散歩している。(2 件)
愛好会の方が何人かで公園を清掃しています。
城南自治会役員さんたちが登校見守りとゴミ拾いを行っている。
ヒーローが昔ゴミひろいをしていた。
通学路のごみ拾いをしている方がいる。(2 件)
昔、スポーツ団体が川沿いのゴミひろいをしていた。
育英高校野球部が清掃活動をしている。(3 件)
育成高校陸上部が清掃活動をしている。
育英高校の生徒がランニングしながらゴミ拾いしている。
長年ご夫婦でゴミ拾いしている方がいる。
山王小の児童と保護者による通学時のゴミ拾い運動。
年 4 回道路清掃を実施している。
早朝、ボランティアでごみをひろっている方がいる。
高橋南区、七十七銀行、仙台銀行が一緒に清掃活動している。
自転車でおじさんが駅周辺のゴミ拾いをしている。
近くの事業協同組合の方が月 1～2 回ゴミ拾いをしている。
多賀城工業地帯連絡協議会の方々がゴミ拾いをしている。

【多賀城のはたらく外国人 ～外国人技能実習生について知ろう～】

●概要

多賀城市国際交流協会主催の市民向け研修会。内容は外国人技能実習生についての学びで、団体内の研修会を市民公開講座として開催した。ＴＳＣは開催にあたり市内で技能実習生を受け入れている企業と主催団体のつなぎ役や運営のサポートを行った。この企画は、みんなにやさしいユニバーサルまちあるきツアーズの外国人の回に、多賀城市国際交流協会と他の支援団体や、技能実習生を受け入れている企業が一堂に会したことがきっかけである。

・対　象：多賀城市国際交流協会会員、市民、企業など

・日　時：令和元年 10 月 19 日(土) 13:30～15:30

・場　所：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室

・参加者：39 人（内訳：協会員 16 人、市民 23 人）

●実施内容

・ミニ講座「外国人技能実習制度について」

・多賀城の企業の先進事例（3 社より）

・外国人技能実習生の日常を聞いてみよう！(実習生 5 名)

●参加団体／企業（順不同、敬称略）

・主催：多賀城市国際交流協会

・共催：公益財団法人 宮城県国際化協会(ＭＩＡ)

多賀城市市民活動サポートセンター

・協力：多賀城イングリッシュ・サポーターズ

・企業：ユニベール株式会社、株式会社武蔵野

株式会社斎藤工務店

外国人技能実習生の日常をインタビュー形式で尋ねた

交流の時間の様子

（画像中央の 2 人の女性は技能実習生）

【全員参加型会議：Tagajo Sustainable Relationship Vol.3】

（以下、ＴＳＲVol.3）

●目　的：5 つのテーマ(課題)にスポットを当て、さまざまな主体が集まり、関係性を構築しながら課題解決に向けて考える場をつくる。

・テーマ：ユニバーサルなまち

貧困・孤立・フードロス

外国人労働者

ゴミ・環境

障害者の仕事

・会　場：多賀城市文化センター展示室

・日　時：令和 2 年 3 月 13 日(金) 13:00～16:30

・ゲスト：タキザワケイタ 氏

（一般社団法人 PLAYEERS 主催、「&HAND」プロジェクトリーダー）

・来場者：60 名程度を想定

TSR 会議 Vol.3 の広報用に作成したポスター

●実施について

ゲストトークや 5 つのテーマをもとに、4～5 名を 1 グループとしたワークショップなどを行うことを企画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、ＴＳＲ Vol.3 の開催は見合わせた。

【Tagajo Sustainable Relationship 報告書】

●目　的：課題解決の手段の一つとして有効である、さまざまな主体の関係性構築に向けた過程を記載する。報告書を読んだ方々がこの関係性に興味を持ち加わることで、一緒に地域づくりを目指すことを期待するものである。

・仕　様：全 26 ページ(表紙などを含む)、カラー

・部　数：1,500 部

・発行日：令和 2 年 3 月

●内　容

・課題解決に向けた連携モデルづくり事業のプロセス紹介

・平成 30 年度実施のＴＳＲ Vol.2 の議事録

・平成 31 年度実施のみんなにやさしいユニバーサルまちあるきツアーズの実施内容紹介

・「多賀城のはたらく外国人」の実施内容紹介

・多賀城市などにおける企業の地域・社会貢献活動の取り組み紹介

Tagajo Sustainable Relationship Vol.2

4．多賀城から、持続可能な関係性を探る会議 議事録

TSR（多賀城から、持続可能な関係性を探る）会議 Vol.2

4

冊子には平成 31 年 1 月に開催した TSR 会議 Vol.2 の議事録も掲載

アンケート集計結果

●みんなにやさしいユニバーサルまちあるきツアーズ Vol.1

～外国人とあやめまつりに行って、日本文化を体験するツアー～　アンケート結果（全集計数：18 名）

※アンケート項目は外国人と日本人で別の設問を設定。

（1）外国人向けアンケート（10 名）

①参加してどうでしたか？

評価	GOOD	SO　SO	BAD	無回答
件数	10 件	0 件	0 件	0 件

※外国人への質問のため、回答項目は比較的ニュアンスが伝わりやすい英語で表記した。今回報告書への記載に当たっても、英語表記のままにしている。

○評価の理由（自由記述）

・日本に来て初めてこのようなツアーに参加しました。

・お弁当がおいしかったし勾玉作りも面白かった。今後このような活動にもっと参加したいと思いました。

・食べ物が良かった。日本の衣装（万葉衣装）が良かった。図書館が良かった。(初めて行った)。勾玉作りが良かった。

・このツアーのお陰で私は新しい友達が出来ました。いろいろな外国人に会って他の人と経験を交換してみんなは困ることを話しました。このツアーは私によく教えてくれてありがとうございます。今度時間があったらもう一度あやめまつりへ行きたいです。ですけれどもその時は天気が悪かったです（※今回天気が悪かったのでまた機会があればあやめまつりに行きたいです)。

・2019 年 6 月 16 日多賀城へ行きました。良かったこといっぱいあるんです。例えば、いろいろな役に立つことを教えてくれた。図書館の中にいっぱい説明をもらいました。雨が降ったけど私の気持ちが悪くなかったです。

・その行事に参加したお陰で私はいろいろな経験をもらってくれました。いっぱい外国人に会っています。今度その行事があったらまた参加したいです。

・とても楽しかったです。いろいろな経験をもらって新しい友達ができて新しいやることをやりました。そしたら日本の図書館で日本の文化を勉強しました。一番面白かったことは石からネックレス（勾玉）を作りました。

・良かったです。いろいろな経験をいっぱいもらいました。本当に楽しかったです。雨が降っても見学は終わりまで上手くいきました。ベトナム人とミャンマー人と大学の人（留学生）と一緒に勉強しました。例えば、多賀城文化センターにいる時、私たちは石を作りました。(勾玉つくり）そしたら持って帰りました。あとは私たちは昔の着物(万葉衣装)を着ました。みんな綺麗になりました。そのあとみんなで一緒にお昼ご飯を食べました。

・いろいろな事を勉強しました。勉強するだけでなくて新しい友達もできて勉強しながら遊びました。

②ツアーの中で楽しかったこと（主なものを抜粋）

・初めて日本の昔の着物(万葉衣装)を着られて嬉しかったです。

・雨であやめまつりに行けなかったけど、図書館であやめが見られました。あそこで私たちは一緒に写真を撮りました。一番面白かったのは石(勾玉)を一生懸命作ってできたときはとても嬉しかったです。あやめまつりにはまた今度行きたいです。いっぱい写真を撮りたいです。ありがとうございました。本当にうれしかったです。

・着物(万葉衣装)を着ました。実は全部楽しかったですから忘れられません。本当にありがとうございます。

・着物(万葉衣装)を着たのが一番楽しいと思いました。日本に住むうちに全然着物を着る機会はありませんでしたから。

・新しい友達が出来ました。いろいろな経験をいっぱいもらいました。新しい友達と Instagram（インスタグラム）を交換しました。

・あやめまつりへ行けなかったけど私は新しい友達ができて多賀城のスープを食べて日本の文化を勉強しました。それは楽しかったです。

・このような活動に初めて参加していろいろな国の人と交流して楽しかったです。パフォーマンス（ミャンマーの方々の踊り）も素晴らしかった。今日一日いろいろありがとうございました。

※外国人のアンケートにおける“理由”や“自由記述”は日本語の学習も兼ねていることから、外国人から見た日本語の難しさが少しでも伝わると考え、文章をほぼ修正をせず記載している。

（2）日本人向けアンケート（8名）

①ご所属

個人	企業	団体	無回答
3名	2名	2名	1名

②所在地・お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	無回答
2名	1名	0名	1名	0名	4名	0名

③年代

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1名	2名	0名	1名	3名	0名	1名

④このツアーを何で知りましたか？（複数回答可）

たがさぽスタッフ	6名
HP・ブログ・ツイッター	0名
チラシ・ポスター	0名
友人・知人	0名
ラジオ	0名
新聞	0名
情報誌「tag」	0名
その他	2名
無回答	1名

⑤満足度(5 段階評価)と理由

満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1	無回答
3 名	2 名	2 名	1 名	0 名	0 名

○評価の理由

【満足度 5】

・参加させていただきありがとうございました。勾玉づくり体験など外国人実習生の楽しそうな表情が見られました。天気がよかったらと思います。少し残念でございます。

・普段は接点の無い技能実習生と市民との良い交流の機会となったと思う。

【満足度 4】

・歩きながらお話ができてうれしかった。史遊館の方に勾玉を作りながら個人的な悩みを聞いてもらって嬉しかった。外国の方は友達と一緒に住んでいるみたいで助けあっていて、困ったことはあまりなさそうということで、すごいと思った。

【満足度 3】

・技能実習生の受け入れ先や関係機関が多く参加されており、意見交換等ができて有意義だった。

・雨の為の予定変更で設けた企画もあったのか、事前にスケジュール・参加者の情報・案内があれば参加する企業側の意識も違ってくると思います。

⑥『外国人にもやさしいまち』はどのようなまちだと思いますか？また、そのようなまちにする為に自分ができることややってみたいことはありますか。(自由記述)

・今後、就労等を目的に入国する外国人（技能実習生特定 1 号）の増加がますます見込まれる中、単に外国人就労者である前に一市民として地域で日本人と一緒に日常生活を送ることになります。一介の外国人観光客を迎える場合とは違う対応が必要になると思います。彼らを阻害したり孤立させたりしないよう、市民ひとり一人がサポートできて、交流が図れるような社会（地域）になれば良いと思います。

・困っている事は？とスタッフの方が聞いた時「特にない」ということで、友達と協力し合って乗り越えているという感じで聞けなかった。その為、困っている事が何かわからなかった。

・あいにくの雨でしたが楽しい一日でした。皆様お疲れ様でした。

・誠にありがとうございました。やかもち鍋大変珍しく美味しかったです。ごちそうさまでした。

・外国人が特別な人ではなく、生活を共にするパートナーであってもらいたい。少しでも自会社の実習生の交流の場があれば良いと思っています。

・少しずつ外国語を覚えたい。

・困っている外国人がいたら話しかけたいです。

●みんなにやさしいユニバーサルまちあるきツアーズ Vol.2

～車いすでバスに乗って、菖蒲田浜へ行って、フェスを見学するツアー～　アンケート結果（集計数：10 件）

①所属

個人	企業	団体	無回答
2 名	4 名	4 名	0 名

②所在地・お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	無回答
3 名	0 名	2 名	0 名	0 名	4 名	1 名

③年代

30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	無回答
1 名	2 名	3 名	0 名	1 名	3 名

④このツアーを何で知りましたか？（複数回答可）

たがさぽスタッフ	4 名
HP・ブログ・ツイッター	1 名
チラシ・ポスター	0 名
友人・知人	3 名
ラジオ	0 名
新聞	0 名
情報誌「tag」	0 名
その他	0 名
無回答	2 名

⑤満足度(5 段階評価)と理由

満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1	無回答
6 名	2 名	1 名	0 名	0 名	1 名

○評価の理由

【満足度 5】

・実際に現地に足を運んでみないと分からないことがあると実感しました。菖蒲海岸は来られる、楽しいことが分かりました。

・普段出来ない貴重な体験だったと思います。私がさせていただいた体験はどちらかというと快適なところだけだったと思うので、あえて問題がありそうなところも体験してみたいです。

・車イスの講習のためや整備確認のために乗ったりはしますが、店舗や交通機関などのある程度遠くに行くようなことは無かったので、それを複数のパターンで同時に行えたのがよいと思います。

【満足度 3】

・車イスでの街中移動や、公共交通を利用するという経験は初めてだったので、車いす利用者の方の大変さ、不便さを知る気づきになったことはとても良かった。

【その他の理由】

・菖蒲田浜からの参加でしたが、菖蒲田浜にスロープがあることを初めて知り恥ずかしい限りです。車いすの方々の不便さを意識することなく日常を送っている私にとって、考えるきっかけになりました。特に最近知り合いが病気で車いすユーザーになったことを知り、何か手伝えないか考えていたところです。

⑥『ユニバーサルなまち』に必要なことは何？（自由記述）

・ハードの整備はもちろんですが、当事者の体験、当事者に関わること自体なかなか機会がないので、こういうツアーは貴重だと思います。

・道路事情などの環境面も大事ですが限度があると思いますので、人の意識かと思います。道ですれ違う時は子供や高齢者だけでなく、大人同士もお互いに少しずつ体を避けあうと思います。特に車いすだからではなく、その程度の自然な感覚で対応し合う気持ちが大切かと思います。そして、その気持ちを持つためには車いすを必要としない感覚と、必要とする感覚の両方を知ることが重要だと思いますので、今回のツアーのようなことを多くの人に体験してもらう事が大切と感じます。

・人としての思いやりと相手の立場になって物事を考える力、共感力、想像力が必要。ただ、無関心とかではなくとも、実際にその立場にならないと分からない・気がつかないということが多分にあると思うので、それを補うのは教育や、今回のように気づきにつながる体験と機会だと思う。今回のような体験がもっとあればいいと思うし、一番は学校の授業として体験し考える機会があると、社会全体の理解がもっと進むと思う。

・車いすの方はそもそも、あまり公共交通を利用しないと聞いたが、それは時間がかかる、人手が必要、対応の設備になっていないなどの理由で諦めている部分もあるのではないかと感じたが、ぜひあきらめないで発信して欲しいと思う。

・この機会にユニバーサルについて調べてみましたが、まだまだ宮城県はユニバーサルについて後進県だと思います。経済中心かな？人口減少がないので後回して事かな？現に福祉分野では 47 都道府県で最下位だったと思います。そこに予算をつけないのでは？人口減少が続いて初めて気付く、意識改革啓蒙活動か？予算が無い事には山は動かないと思います。行政のトップが動かないと官民の賛同者は集まらないと思う。

⑦『ユニバーサルなまち』に近づくため、今、自分にできることや、これからやってみたいことは？ （自由記述）

・車いすどんどん街に出て行って気づいたことを伝えていきたい。

・バリア体験、当事者体験、介護が体験できる機会を作って行きたい。福祉分野の人間として。

・目線を替えてこれまで気が付かないことが見えたことは、今後の自分の役に立つと思います。

・ツアーの締めくくりにお楽しみも用意されているというところが嬉しかったです。『きれいなものを見たい』という気持ちはみんな一緒！

・今までも車いすの人がいたら、できる範囲で協力したりはしてきたが、より一層心配りをしたり協力することかなと思う。あとは自分の身近な人からでも今回の気づきを話していくこと。

・ユニバーサルとは意味が広くて、まずは、啓蒙活動かな？身近なユニバーサルデザインからかな？推進する側が知らないと、住民は分からない。震災がいい経験だったと思う！正直、日々の忙しさで忘れてしまって、でも七ヶ浜町では、世界から述べ 5 万人が集まって助けてくださった。人との出会いに感謝して、今度は我々の番、人生、仕事を大切にしつつ心温まる人との出会いに感謝したい。

《※参考》

●「多賀城のはたらく外国人」～外国人技能実習生について知ろう～　アンケート結果（集計数：26 件）

【主催・資料提供：多賀城市国際交流協会】

①年代

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
0 名	1 名	2 名	5 名	3 名	4 名	9 名	2 名

②お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
11 名	5 名	1 名	1 名	1 名	7 名	0 名

③この講座をどこで知りましたか？(複数回答可)

多賀城市国際交流協会メンバー	15 名
知人・友人	3 名
チラシ	4 名
たがさぽブログ・ツイッター	2 名
たがさぽのスタッフ	4 名
多賀城市 Facebook ページ	0 名
広報多賀城	4 名
新聞	1 名
その他	1 名

※チラシ（場所：塩釜の技能実習生との交流会、市役所、たがさぽ、観光案内所）

※新聞（新聞名：河北）

※その他（公益財団法人 宮城県国際化協会(MIA)）

④研修の満足度を教えてください

満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1	無回答
12 名	8 名	2 名	0 名	0 名	4 名

○評価の理由

【満足度 5】

・身近に外国人の方を見かけていながら、お話を伺う機会がなかったため大変勉強になりました。

・制度から企業、実習生の方まで様々なお話をうかがえたため。

・今後の日本の人口減少時代に対応しなければばらない課題にいち早く対応したテーマでタイムリーでした。

・外国人技能実習生の皆さんがとても真面目ですごいなと思いました。知らない国で大変だと思いますが、がんばってもらいたい。

・事業所、働いている方(外国人技能実習生)、それぞれ生の話を聞くことができて楽しかった。

・若い方々(外国人技能実習生)と交流できたのがよかったです。

【満足度 4】
・外国人の事を知るきっかけが無くこの様な機会は大変勉強になりました。
・多賀城市で働いている外国人の職種や人数がわかりました。
・外国人技能実習生の現状を企業さんに聞けて良かった。
・初めて外国人技能実習生のみなさんと接することが出来て、大変よかったと思っています。七ヶ浜でもゴミ出し等のトラブルの話を聞く事がありますが、その方達と近づく事もないので、この様な会を開いていただき感謝します。今後さらに増える外国人にどの様に対応するかを考えておく事が必要だと思いました。
・研修のチャンスがあっただけでも Contonte(仏語：幸せ)。
・今まで外国人技能実習生の事がよく分からなかったのですが、少し理解出来ました。
【満足度 3】
・声がききとりにくかったので理解しづらい部分があった。
(3 人の企業の方にもうすこしマイクを近づけてみると良かったかも)
・実習生との交流の時間がもっとあるとよい。
【満足度 未記入】
・支援する側、受け入れ企業、実際に働いている皆さんの話が聞けて勉強になりました。

⑤その他、今回の研修で学んだことや質問、感想、今後期待することなどをお書きください。(自由記述)
・企業の方々が脱走などの本音トークをしてくれたことが良かった。
・市民との交流するチャンスがもっとあったら良いと思う。
・外国人技能実習生の方の話が直接聞けて良かったです。日本の生活も楽しんでもらえているようで良かった。
・言葉だけ知っていても実際を知ることは 1 人では難しく、今後もぜひこのような場を設けていただきたいです。ありがとうございました。
・外国の方が困った時、助けになる場や様々な交流の場がもっと知られるようになると良いなと思います。
・もう少し地元の人と外国の人のコミュニケーションを取りたい。
・来日して 1 年目の外国人技能実習生が多く日本語の理解が出来ずにいたので、2 年目、3 年目の実習生だともっと良く交流できた様な気がします。
・多賀城市国際交流協会、(公財)宮城県国際化協会（ＭＩＡ)、多賀城市市民活動サポートセンターの協力体制、すばらしい!!
・多賀城市内の企業で受け入れている外国人技能実習生の取り組みを知り勉強になりました。
・今、日本の企業が海外の皆さんにも支えられている事がわかり、近所にも外国技能実習生らしき人も住んでいるので、色々と学ぶ事が多くてよかったです。
・日常的に交流できる機会をつくりたいです。お手伝いできることがあれば教えて欲しい。
・外国人技能実習制度に問題があるのでは。人手不足と安い人件費の為にあるのでは。国際交流とはなんですか？都合の良い言いわけではないか。
・外国人技能実習生の方々の日常生活についてもっと話を聞きたい。機会を持って貰ったら良いと思います。

＊添付資料　　□チラシ　□当日配布資料　□報告冊子

（１）課題解決に向けた連携モデルづくり　②自治会・町内会運営支援

目　的	・現在、自治会に関わっている人、これから関わる人が他自治会のノウハウを得る。 ・自治会が地域や社会の課題に向き合い、課題を深堀し、解決のためのアイデアをだすための学びの機会を得る。 ・自治会が、地域づくりに関わっている、あるいは関わりたいと考える多様な人材の受け口となる。
背　景	●調査結果より ・平成 29 年度にＴＳＣで「多賀城市自治会 課題・取り組み事例調査」を実施した。その結果、「役員のなり手がいない」ことで困っている自治会は 83%、「役員の高齢化」で困っている自治会は 71%であった。また、「役員のなり手がいない」ことで困っている自治会の特徴として、「自治会に対しての住民の関心が低い」「他自治会と連携していない」「行事が慣例化している」があがった。 ・これらの結果から、住民の関心を高める、他自治会と連携する、行事が慣例化していないことが「役員のなり手がいない」ことに対する解決の糸口だと言える。 ●区長制度の廃止 ・地方公務員法改正に伴い、令和 2 年度より多賀城市では行政区長制度が廃止となる。これまで行政区長に嘱託していた業務は、自治会と多賀城市の協定によって行っていくこととなり、さらにこれからの社会・地域の変化にあわせて自治会のあり方も見直す必要がある。 今年度は、特に事業として自治会支援を行うわけではないが、住民の自治会への多様な参加の仕方、自治会同士や自治会と他セクターの連携、自治会間のノウハウ・情報交換といった視点で、企画実施や相談対応等を通じて運営支援を行っていく。
対　象	・自治会・町内会長、役員
成果目標	・設定なし。
成　果	・長年、会報を発行してきた自治会の会報の展示と元会長によるトークイベントを実施し、18 名が参加した。自治会役員同士の情報交換であったり、市民の自治会に対する理解の向上につながった。 ・今年度、自治会からの相談に 39 件応じた。課題の整理や情報提供等の対応を行った。
次年度に向けた課題	・次年度から区長制度が廃止され、自治会の役割が増えてくる。現状の自治会の仕事の棚卸が必要となる。 ・「地域の担い手＝役員のなり手」という認識を持つ自治会もあり、役員に限らず、市民が多様な方法で地域や自治会に参加し、地域の担い手となっていけるよう、人材育成と環境整備が必要となる。 ・自治会が自ら地域課題を発見し、解決の取り組みを行っていくことが必要となる。 ・上記のサポートを市と協力してＴＳＣでも行っていく。

実施概況（１）課題解決に向けた連携モデルづくり　②自治会・町内会運営支援

●平成 31 年度の自治会・町内会における主な相談内容

相談件数 39 件

- ・区長制度廃止に伴う不安
- ・地域のサークル活動に呼ぶ講師の検討
- ・敬老会参加者増加に伴う集会所の代替施設の検討
- ・行事を継続するための資金調達
- ・会報発行の方法
- ・地域の男性のつながりづくり
- ・敬老会、夏祭りのメニューや参加団体の検討
- ・若い世代に行事に参加してもらう方法
- ・町内会の事務作業に伴うパソコンを使える人材の育成
- ・住民へのお知らせの方法
- ・地域の魅力を活かした商品開発
- ・災害公営住宅自治会の後継者不足、見守り体制

●「すみだ」からみる多賀城の歴史

平成 7 年から平成 31 年 3 月まで 24 年間、隅田会の会長を務め、会報「すみだ」を 242 号まで発行してきた佐藤司さんをゲストに迎え、展示とトーク企画を実施。

【展示】

開催期間：令和元年 11 月 1 日(金)～30 日(土)

会場：多賀城市市民活動サポートセンター　2 階フリースペース

内容：隅田会で発行していた会報「すみだ」の展示

【町内会・自治会　言いたい放談】

日時：令和元年 11 月 22 日（土）10:00～12:00

会場：多賀城市市民活動サポートセンター　2 階フリースペース

ゲスト：佐藤司（隅田会 元会長）

内容：ゲストの地域や町内会への想いや工夫等のトーク

参加者：15 名

会報「すみだ」の展示の様子

ゲストの佐藤司さん

トークの様子

アンケート集計結果

●「すみだ」からみる多賀城の歴史　町内会・自治会　言いたい放談

アンケート回収：12/15 名

①年代

40 代以下	50 代	60 代	70 代	80 代以上	無回答
0 名	3 名	3 名	5 名	0 名	1 名

②お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
9 名	0 名	0 名	0 名	0 名	2 名	1 名

③この講座をどこで知りましたか（複数回答可）

たがさぽスタッフ	7 名
広報多賀城	1 名
チラシ・ポスター	4 名
情報紙「tag」	0 名
HP・ブログ・ツイッター	0 名
知人・友人	0 名
その他	2 名

その他：新聞

④町内会・自治会運営歴

無し	有り
3 名	9 名

役職：区長、副区長、会計、総務部長、こども会育成会、婦人部長、幹事、環境推進委員、青年部

役を引き受けた理由

・自薦　関わるべきと思ったから

・他薦　持ち回り・前任者からの推薦・なり手がなく他薦された

⑥企画の満足度、理由

満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1	無回答
5 名	2 名	1 名	0 名	0 名	4 名

⑦感想・意見

・24 年の歴史を振り返り、住人として懐かしさと淋しさや関わっていた人々がだんだん亡くなっていってとても悲しさを憶えた。

・個人として、趣味位しかできなくなっている感じがします。

・同町内住民なので、とても良かったと思います。

・行事・活動等を継続する為の具体的な努力について学ばせていただいた。自分たちが楽しんで企画・運営することの大切さも感じました。

・同地区である。24 年間ご苦労さまでした。

・活動（企画）が参考になりました。

・町内会長を 24 年も務め、会報を発行し続けることは誠に稀有なことと思います。

＊添付資料　　□チラシ

（２）人材育成　①雑貨市

目　的	・市民活動団体が販売する商品の購入などを通して市民が「市民活動」に触れることで、社会課題や団体の活動を知ってもらい、購入が「団体への貢献」につながるという気づきを得、市民活動に関わる人材を増やす。 ・気軽に足を運べる雑貨市を開催することで ＴＳＣ への新規来館者を生み、イベント以外でも立ち寄りやすい施設であることを知ってもらう。 ・ボランティア経験をきっかけに市民が次のボランティア活動へ参加するようになる。
背　景	・市内で認知度を高めている当事業はリピーターの参加も多いがＴＳＣへの初来館も多く無関心層が市民活動に関わる機会であるため今年度も開催することとした。 ・小規模の雑貨市をＴＳＣ外部で開催し、さらにさまざまな年代・属性の人にＴＳＣ及び雑貨市の認知度向上をはかり、雑貨市への立ち寄りやすさを感じてもらう。 ・「社会にやさしい買い物」とは何か考える場をつくり、そういった視点の商品購入やワークショップ参加で「団体への貢献」という形で市民活動に関わる人材を増やす。 ・単発で気軽に参加できる雑貨市のボランティアを経験し、団体との交流を深めることで身構えずにボランティア活動へ参加する人材を増やす。
対　象	・雑貨に関心を持つ 20～40 代の女性、子どもと一緒に参加できるイベントに関心がある女性、または家族など。 ・学生、またボランティア活動など何か活動したいが、何をしたらよいか分からない層。
成果目標	1. 市民活動団体や活動、地域・社会課題を初めて知る人を 3 割以上獲得する。 2. 支援につながる雑貨の購入をしたいという人を 7 割以上獲得する。 3. ＴＳＣへの新規来館者（冬開催時に集計）100 名以上獲得する。 4. 目標来場者数：小規模の雑貨市／150 名、冬の雑貨市／800 名
成　果	○雑貨・食品の購入目的という気軽な入口から、市民活動を知る機会を提供できた。 1. 冬開催のアンケート項目「商品購入が団体の支援につながること」を初めて知った。：87 名／207 名（4 割獲得：アンケート集計）。参加者が購入によって団体への貢献につながるという気づきを得、また市民活動を知る機会となった。 2. 支援につながる買い物をしたい：170 名／207 名（8 割獲得：アンケート集計） 3. 新規来館者数：141 名獲得（シール集計）91 名獲得（アンケート集計） 4. 来場者数：小規模雑貨市 1 回目／のべ 346 名、2 回目／35 名（※WS 参加者数） 冬の雑貨市のべ 1,062 名（目標以上獲得：30 分おきにカウント） ○次のボランティア活動へのきっかけをつくる機会を提供できた。 ・ボランティア参加者の 1 名が、関わった団体やそれ以外の団体の次回イベント参加につなげることができた。
次年度に向けた課題	・小規模雑貨市はＴＳＣフリースペースを利用するなど場所や時期など再度検討する。 ・雑貨市出展団体の基準を明確にするとともに、団体が受け身ではなく一緒にイベントをつくっていくという意識を持てるような参加形態を考えることが必要となる。 ・ボランティア導入の目的や役割を再度確認し、担当や人数の調整、さまざまな点で見直しの必要がある。

実施概況（２）人材育成　①雑貨市

●小規模雑貨市（おでかけミニ雑貨市）

【1 回目】ロビーステージ＆サークルフェア 2019

日　時：令和元年 7 月 28 日（日）10:00～15:00

会　場：多賀城市文化センター

主　催：多賀城市文化センター指定管理者

内　容：市民活動団体・福祉施設の雑貨販売、ワークショップ、活動紹介展示、ＴＳＣ紹介展示

出展団体：3 団体

○国際交流・協力

NPO 法人アマニ・ヤ・アフリカ／仙台

○ノーマライゼーション

さをりひろば余暇よか／利府

○障がい者支援

緑ヶ丘病院デイケア／塩釜

【2 回目】たがマルシェ

日　時：令和元年 9 月 15 日（日）11:00～15:30

会　場：JR 仙石線多賀城駅前北口

主　催：多賀城フェスティバル実行委員会

内　容：市民活動団体の食品販売、ワークショップ、パフォーマンス、ＴＳＣ紹介展示

出展団体：3 団体

○文化振興

コトリズム／多賀城

○国際交流・協力

本格遠赤焙煎珈琲まめ福／多賀城

○子育て・子ども支援

家庭文庫ちいさいおうち／多賀城

●市役所１階ロビー　展示

期　間：令和元年 12 月 6 日～12 月 20 日（土）

会　場：多賀城市市役所１階ロビー

内　容：雑貨市の告知、出展団体紹介。市役所を訪れる市民に向け実施。

●公民館１階　展示

期　間：令和元年 12 月 6 日～12 月 24 日（火）

会　場：山王地区公民館１階・大代地区公民館１階

内　容：雑貨市の告知、昨年の様子をパネル展示。公民館を訪れる市民に向け実施。

ロビーステージ＆サークルフェア 2019 出展の様子

スタッフ制作の説明マンガ

たがマルシェ出展の様子

市役所展示の様子

山王地区公民館展示の様子

●たがさぽのクリスマス雑貨市／ボランティア事前説明会

日　時：令和元年 12 月 7 日（土）10:00～12:00

会　場：多賀城市市民活動サポートセンター　301・302 会議室

対　象：学生、ボランティアに興味のある人

内　容：雑貨市概要・趣旨の説明、当日のスケジュール説明、各活動内容説明、役割ごとの打ち合わせ

参加人数：13 名（申込 26 名）

事前説明会の様子

●たがさぽのクリスマス雑貨市／出展団体決起集会・交流会

日　時：令和元年 12 月 7 日（土）13:00～15:00

会　場：多賀城市市民活動サポートセンター　301・302 会議室

対　象：全出展団体

内　容：雑貨市概要・趣旨の説明、スケジュール説明、団体同士の交流

参加団体：9 団体

交流会の様子

●たがさぽのクリスマス雑貨市

日　時：令和元年 12 月 22 日（日）10:30～14:30

会　場：多賀城市市民活動サポートセンター　全館

内　容：市民活動団体の雑貨・食品の販売、ワークショップ、活動紹介展示（展示期間は 12/2～12/24）

参加費：無料、出入自由

参加人数：のべ 1,062 名（30 分おきにカウント）

出展団体：34 団体（販売・ワークショップ 28 団体/展示 6 団体）

展示のみ…期間中 2 階ギャラリーで展示（雑貨市当日はロビーで展示）

1 階フリースペースの様子

2 階フリースペースの様子

○障がい者支援・福祉

コスモスホール（多賀城市地域活動支援センター）／多賀城

デイケアＲｅ－ＣＵＲＥ（こころのクリニックみどりの風）／多賀城

非営利団体虹の橋／多賀城

ＵＤトーク®部／多賀城・仙台ほか

テラグラッサ／名取

パルいずみ／仙台

ポッケの森（（社福）ぽっけコミュニティーネットワーク））／仙台

Ｐｅｔｉｔ　Ｅｃｌａｉｒ（プチエクレア）／仙台

リボンヌ手芸部Ｍｉｙａｇｉ／仙台

ペンギンズアート工房（ＮＰＯ石巻広域クリエイティブアートの会）／石巻

エフブンノイチ／仙台

→コッペ（認定ＮＰＯ法人麦の会）、アトリエ・ソキウス（ＮＰＯ法人ソキウスせんだい）、みどり工房長町（ＮＰＯ法人み

3 階フリースペースの様子

どりの会）、マルベリー工房（ＮＰＯ法人桑の木）

◇ココロのびのび★プラネット／多賀城

◇パープル・アイリス／多賀城

◇ＮＰＯ法人いのちのパン／多賀城

○ノーマライゼーション

さをりひろば余暇よか／利府・多賀城・塩釜ほか

○子育て・子ども支援

家庭文庫ちいさいおうち／多賀城

「サーラ文庫」大代／多賀城

◇多賀城市家庭教育支援チーム「あんだんて」／多賀城

◇市内こども食堂／多賀城

→こども食堂多賀城わーど、高崎子ども食堂らっこ広場、おおしろ子ども食堂、多賀城こども食堂（ＮＰＯ法人アスイク）、みんなで食べよう会

◇ハッピーピース／塩釜・多賀城ほか

◇宮城県学童保育連絡協議会／県内全域

○国際交流・協力

多賀城市国際交流協会・宮城県多賀城高等学校語学部研究部／多賀城

本格遠赤焙煎珈琲まめ福／多賀城

ＮＰＯ法人アマニ・ヤ・アフリカ／仙台

アフリークソレイユ／仙台

○動物愛護

マオメオ・キャットクラブ

○社会教育

多賀城イングリッシュ・サポーターズ／多賀城

生涯学習 100 年構想実践委員会／多賀城

○ジェンダー

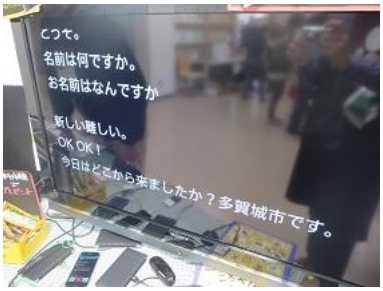
◇てんでん宮城／多賀城

ろうＬＧＢＴ東北／東北全域

○文化振興

多賀城市文化センター／多賀城　※協力団体

※◇は展示出展のみ



1 階フリースペースでのワークショップ（UD トーク実演）の様子

2 階会議室でのワークショップ（缶バッジづくり）の様子

301・302 会議室での販売の様子

大会議室での販売の様子

アンケート集計結果

●小規模雑貨市（おでかけミニ雑貨市）　※出張出展のため、出展団体のアンケートのみ

【1 回目・2 回目／出展団体各回 3 団体】

回収枚数 4 枚（全 6 団体）

○来場者との会話のやりとり

・お客様が重ならなったので、他の販売より説明できた。

・施設の環境について話ができた。

○その他

・知ることがなかった団体と話ができた。来場者にも良いＰＲの場になった。

・ＴＳＣスタッフが作成したイラストの活動分野の解説がすばらしかった。

●たがさぽのクリスマス雑貨市

【来場者】

アンケート回収枚数：207 枚（前年度 110 枚）

○新規来館者数：91 名（44%）　※来場者はのべ 1,062 名

1 階ロビーの出口調査による新規来館者数：／141 名

○年　代

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
53 名	13 名	37 名	36 名	26 名	22 名	14 名	4 名

・ターゲットとした 20 代～40 代の参加が全体の 41.5%と半数を下回ったが、10 代以下の来場者も多く家族での来場が多かったと考えられる。

○来場者居住地

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
117 名	20 名	4 名	9 名	0 名	32 名	8 名

・その他　石巻市（2 名）、栗原市（2 名）、名取市（2 名）、遠田郡美里町（1 名）、町田市（1 名）

○雑貨市の満足度

満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1
86 名	74 名	41 名	2 名	0 名

・4、5 を合わせると 7 割以上の方の満足度が得られた。

○来たいと思った理由　※複数回答可

雑貨に関心あり	クリスマスイベントに関心あり	チラシやポスターのデザインよし	日時の都合よし	出展団体に関心あり	自分の活動に役立てたい	気軽に足を運べそう	その他
105 名	60 名	16 名	41 名	22 名	11 名	50 名	7 名

その他記述：やかもち鍋が食べたくて来た。市内のイベントが少ないので。

○日程について

ちょうどよい	もう少し早い方がよい	気にしていない	その他
125 名	16 名	32 名	0 名

・昨年、近隣イベントと日程が重なったため例年より開催日を遅らせたがよい結果となった。

○出展団体について初めて知ったこと　※複数回答可

商品購入が支援につながること	商品がつくられた経緯	国際協力・フェアトレード	障がい者支援・福祉	文化振興	動物愛護	子ども	ジェンダー・ＬＧＢＴ	その他
82 名	18 名	24 名	55 名	9 名	14 名	20 名	16 名	0 名

その他記述：なし

・上記の集計から購入が団体への貢献となるという気づきの場を提供できたと考えられる。

○今後も支援につながる買い物をしたいか

はい	いいえ	無回答
162 名	1 名	44 名

・団体の想いや活動を知ることで、商品の魅力や来場者の購入の意識が変わったと考えられる。

○感想

・参加している人・サポートスタッフで盛り上げていて今後も皆さんの協力・理解が広がることを願っている。

・団体さん毎に色んな想いがあると思った。

【出展団体】

アンケート回収枚数：27 枚（全 34 団体：出展 25 団体、展示 8 団体、協力 1 団体）

○売上について

よい	いつもと同じくらい	よくなかった
8 団体	11 団体	4 団体

理由

・商品のバリエーションを増やすことが、売り上げアップにつながると来場者との会話で感じた。

・商品が毎年同じなため、新しいことを考えなければいけないと改めて思った。

・ワークショップの内容が完成までに時間を要するものだったため回転率が良くなかった。

○販売商品について

説明できた	できなかった	売上の用途を説明した
25 団体	0 団体	2 団体

○団体の活動について

説明できた	できなかった
18 団体	9 団体

○来場者との会話ややりとり

・お客様も商品に興味を持って質問して下さり、それを糸口に他の商品も紹介できた。

・売上が工賃になることを説明できた。

・忙しい時間が集中するので。活動内容までは話す時間がなかった。

○自由記述

・1 年をしめくくれるので、嬉しい気持ち達成感がある。

・雑貨市が定着してきたと感じ、毎年継続することの大切さがわかった。

・施設スタッフとして勉強になった。

【ボランティア】

アンケート回収枚数：24 枚（参加申し込み 26 名、当日参加 24 名）

○参加年代

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
15 名	7 名	1 名	0 名	1 名	0 名	0 名	0 名

・主な対象である学生に届くよう広報したため、参加者のほとんどが学生だった。（学生 19 名）

○参加者居住地

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
5 名	7 名	4 名	0 名	0 名	4 名	1 名

○参加動機　※複数回答可

雑貨に関心あり	クリスマスイベントに関心あり	団体の活動に関心	ボランティアがしたかった	出展団体に関心	知人に誘われた
6 名	4 名	4 名	13 名	4 名	7 名
学校の先生にすすめられた	自分の活動に役立てる	NPO の手助けがしたかった	たがさぽのイベントだから	その他	
5 名	10 名	4 名	2 名	4 名	

○ボランティア活動の満足度

満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1
10 名	10 名	4 名	0 名	0 名

意見

・もとても楽しくやることができ今後の活動の参考になった。

・多賀城の様々な活動、支援をしている団体があることを知った。

・他のボランティアの方との交流もすごく楽しかった。来年もボランティアに応募したいと思った。

○出展団体について初めて知ったこと　※複数回答可

商品購入が支援につながること	商品がつくられた経緯	国際協力・フェアトレード	障がい者支援・福祉	文化振興	動物愛護	子ども	ジェンダー・ＬＧＢＴ	その他
13 名	8 名	6 名	12 名	1 名	2 名	6 名	4 名	4 名

その他記述

・何かのために動くことができる人がたくさんいることを知った。

・団体さんごとに色んな想いがあって興味をもつことができた。

○感想・気づいたこと

・自分の大学で勉強しているものが（音声認識で文字におこすもの）あったと後から気づいたのでもっとよくみたかった。とても気になった。

・たくさんの人と話して人のあたたかさを感じた日になった。

・取材広報担当で、お客さんや団体の方ともより深く話が出来た。

＊添付資料　□チラシ　□当日配布資料　□発行物

（２）人材育成　②ＮＰＯきっかけ塾

目　的	多様な市民にそれぞれに合った形で市民活動にふれる機会をつくることで、市民活動に対する理解を促進させ、活動に関わるきっかけを創出する。
背　景	・講座後の個別対応が参加者の次のステップにつながることから、参加者に向けてＴＳＣの他の事業や多賀城近辺の団体の紹介、活動を始める・深める為の情報提供を行う。 ・多様な主体に向けて、昨年度関係を構築した高校・大学とは引き続き情報交換を行い、ボランティアを必要とする地域の団体との橋渡しを行っていく。さらに、多くの主体に市民活動のことを知ってもらうため、企業もターゲットにしたいと考える。ＴＳＣで実施した「地元企業のＣＳＲ調査」「ＴＳＲ会議」や各種相談対応を通してできた企業とのつながりを活かして、「出前いちから塾」の活用を促していく。その際、事前にヒアリングを行い、企業側が知りたいことを把握し講座を組み立て、市民活動や地域の団体について理解を深めてもらい講座後のアクションにつなげていきたい。 ・市民に向けては、市内のイベントなど不特定多数の市民が集まる場所で、市民活動やＴＳＣについて知ってもらうための場所を設けて、ＴＳＣへの来館や活用を促すきっかけづくりを行う。
対　象	①地域のために何か始めたい方や、市民活動に関心はあるがこれまで関わりがない方。 ②すでに活動はしているが、市民活動やボランティアについてより深く理解したいと考えている方や、さらに活動を広げていきたいと考えている方。 ③社会や地域貢献したい、地域団体とのつながりを持ちたいと考えている企業や学校。
成果目標	事業への参加を通して５件以上の市民が何らかのアクションを起こす。 （ＮＰＯいちから塾、出前いちから塾、たがさぽカフェ）
成　果	講座を通して７件のアクションがあった。 ・ＮＰＯいちから塾参加者１名が場づくり事業のまちあるきイベントに参加。 ・ＮＰＯいちから塾参加者１ 名がＴＦＬを受講した。また、フードバンクの団体などでボランティア活動を始めた。 ・ＮＰＯいちから塾参加者１名、出前いちから塾受講者２名、１団体が新たな活動を始めるきっかけとなった。 ・たがさぽカフェ（食文化まつり）来場者１名がクリスマス雑貨市のボランティアに申し込んだ（諸事情により当日欠席）。 ・東北文化学園大学での出前いちから塾参加者１名がクリスマス雑貨市に来場した。
次年度に向けた課題	・ＮＰＯ いちから塾は １ 回のみの開催だったため時機を逸すると関心はあっても参加できない人がいた。２回の開催を目指したい。（ＮＰＯの基礎を学べる場がなかなかないこと、一定数のニーズがあることから） ・出前いちから塾の広報の手段、対象を再考する。 ・ＮＰＯ いちから塾のもう少し進んだ内容のプログラムの検討。 ・たがさぽカフェの出展内容の検討（出展先の目的や内容に適したものを加味する）。 ・たがさぽカフェを開催することで、より多くの市民にＴＳＣの機能を知ってもらう機会を作る。

実施概況（２）人材育成　②ＮＰＯきっかけ塾

●ＮＰＯいちから塾（全１回）

・日時：令和元 年 6 月 9 日（日）10：00～12：00

・会場：多賀城市市民活動サポートセンター ３０１ 会議室

・参加人数： 7 名

①開始あいさつ

②ＮＰＯいちから塾

・ＮＰＯの成り立ちやその仕組み

・ＮＰＯとボランティアの違い

③たがさぽガイドツアー

・たがさぽの活用方法を紹介

④ワーク

・あなたの興味関心はどこに？チラシを用いたワーク

⑤交流タイム

・参加者同士の交流を通して想いを共有しよう

⑥質問、まとめ、アンケート

ＮＰＯの基本について学んだ

チラシをもとに想いを共有した

●出前いちから塾（全６回）

○東北学院大学教養学部講義「キャリアデザイン」

・日 時：令和元年 5 月 23 日（木)8：50～10：20

・会 場：東北学院大学泉キャンパス

・参加人数：120 名

・内 容：ＮＰＯについて。これまでのキャリアについて。

・講 師：渡辺

○「Precious one」団体内研修

・日 時：令和元年 7 月 15 日（月）9:00～10:30

・参加人数：5 名

・担 当：櫛田・小林

・内 容：ＮＰＯいちから塾のほか、団体の運営に関する相談に対応した。

○第二中学校 2 学年「総合的な学習の時間」

・日 時：令和元 年 10 月 25 日（金）13:40～15:10

・会 場：第二中学校

・参加人数：2 年生 41 名

・テーマ：社会人講師によるキャリアセミナー「働くみなさんの『思い』を知ろう」

・講 師：渡辺

・内 容：ＴＳＣの紹介とＮＰＯで働くことについて説明を行った。

第二中学校 2 学年「総合的な学習の時間」
仕事をする時に大事にしていることを伝えた

○ＴＦＬ受講生

・日 時：令和元年 11 月 11 日（月）14:00～15：30

・担 当：渡辺・小林

・内 容：ＮＰＯいちから塾のほか、ＮＰＯ法人についてや活動についての相談に対応した。

活動に活かせるヒントが見つかった

○東北文化学園大学講義「ボランティア論」

・日 時：令和元年 12 月 16 日(月)　16:40～18:10

・会 場：東北文化学園大学

・参加人数：1 年生 40 名

・内 容：ＮＰＯとは、市民活動支援施設の役割、地域の資源がつながるよさ等。

・講 師：櫛田

生徒個人が考える、多賀城自慢を探した

○第二中学校 1 学年「総合的な学習の時間」

・日 時：令和 2 年 1 月 15 日（水）14:05～14:50

・会 場：第二中学校

・参加人数：1 年生 152 名

・内 容：「ミライづくりプロジェクト」導入での、まちづくりに関する講話＆ワークショップ

多賀城で活動する団体と、ＴＳＣの紹介を行った。

・講 師：渡辺

小さなお客様も立ち寄ってくれた

●たがさぽカフェ（全 3 回）

○サークルフェアにて出展（お出かけミニ雑貨市と一緒に）

・日 時：令和元 年 7 月 28 日（日）

・会 場：多賀城市文化センター

・主 催：多賀城市文化センター指定管理者

・来場者数：346 名（大人 249 名　子ども 97 名）

・内 容：ＮＰＯの絵本展、トントン相撲など子どもにも楽しめる企画を実施。

ＮＰＯの絵本に触れるきっかけにもなった。

○環境グルーヴフェスにて出展

・日 時：令和元 年 8 月 24 日（土）・25 日（日）

・会 場：多賀城市文化センター

・主 催：多賀城市市民生活部生活環境課

・来場者数：約 90 名

・内 容：通常たがさぽカフェの他、連携モデル事業のデータ集めとして「多賀城で行われている清掃活動」について来場者から情報を集める企画実施。

「多賀城で行われている清掃活動」の情報は 30 事例を集めることができた。

○ 多賀城食文化まつりにて出展

・日 時：令和元 年 11 月 3 日（日）11：00～16：00

・会 場：JR 多賀城駅前広場

・主 催：多賀城市観光協会

・来場者数：約 120 名

・内 容：ＴＳＣの PR（クリスマス雑貨市 PR 含む）、食に関する展示（食品ロスの実態と対応、消費期限と賞味期限、フードバンクについて）

※消費期限・賞味期限に関する調査；61 名が参加

食について考えるきっかけになった

アンケート集計結果

1.ＮＰＯいちから塾 参加者 7 名

①年代

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
1 名	1 名	0 名	2 名	2 名	0 名	1 名	0 名

・さまざまな世代からの参加があり、これからやりたい事を整理することへの意欲を感じた。

②住所（アンケートの他申込書から集計）

多賀城市	塩釜市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
4 名	0 名	0 名	0 名	0 名	2 名	1 名

・多賀城市内からの参加者が多く、多賀城で活動を始めることが期待できる。

③この講座をどこで知ったか（複数回答可）

TSC スタッフ	知人・友人	チラシ	HP、SNS	tag	市 facebook	広報多賀城	新聞	その他
1 名	0 名	2 名	2 名	1 名	0 名	1 名	0 名	3 名

・日頃利用している方への声がけが参加につながった。

・職場でチラシを見た、という方もいた。

④講座理解度

理解度 5	理解度 4	理解度 3	理解度 2	理解度 1	未記入	平均
2 名	3 名	2 名	0 名	0 名	0 名	4.0

・ＮＰＯの基礎については理解できたが、さらに深く学びたいという声があった。

⑤感想など

・「ＮＰＯでは利益はでていいが、株式会社のように分配はしてはならず、目的（ミッション）の達成のために使う」ということが知れてよかったと思います。

・ＮＰＯの組織の作り方など、もう少し深い内容を知りたかったです。

・得た知識は職場で活用していきたい。

2．出前いちから塾

理解度は計っていない。感想のみ。

○第二中学校 2 学年「総合的な学習の時間」

・たがさぽは多賀城市にとって大事だと思った。困っている人を手伝ったりサポートしたりするたがさぽがどれだけすごいかということがわかった。

・仕事をするときにコミュニケーションが大切だということがわかった。

・「1 人で 100 歩」ではなく「100 人で 1 歩ずつ」という言葉がすごく印象に残った。100 人いれば数人欠けても残りの人が頑張れると聞いて本当にそうだなと思った。

・仕事をするときに大切にしている「聞くときは相手の話を全てしっかり聞いてから話す」ということを自分も忘れずにいたい。

・今日聞いたことを職場体験に行くときに活かしたいと思った。

＊添付資料　　□チラシ　　□当日配布資料

（２）人材育成　③TAGAJO Future Labo

目　的	●「何かしたい！」との想いを持つ受講生が、その実現のために道筋やプランを考える。 ・何かしたいが、その何かが分からないという人に“やれること”を追求してもらう。 ・スキルを持つ人がそれを地域や社会で活かせる方法を探る。 ・受講生が相互に刺激し支え合う環境をつくることで、想いの実現性を高める。 ●受講生、ＯＢ及び地域の既活動者のネットワークを構築することを通して、多賀城やその周辺地域の市民活動の一層の活性化を目指し、その想いや活動を多くの市民に知ってもらい、活動を受け入れサポートする環境を生み出す。 ●上記を達成することで自らの想いや考えをかたちにし、市民が主体となった地域づくりに取り組む人材を育んでゆく。
背　景	●過去 4 年の実践から、受講生の「何かしたい！」「自分のスキルを地域で活かしたい！」という想いを引き出し、活動につながった事例が複数生まれ、この事業のプログラムに一定の効果があることが分かった。また、受講生同士、あるいはＯＢ・ゲストとのつながりを活用して合同の企画を開催するケースも出てきている。 ●今年度もこれまでのプログラムを継承した上で、プログラムアドバイザーやＴＳＣスタッフによる個別のアドバイスや細やかなフォローの機会を増やし、より受講生の想いや考えをかたちにし、小さなアクションにつながるサポートを心がける。
対　象	・「何かしたい！」と思っているが、その「何か」がまだ定まっていない方。 ・やりたいことは見えているが、具体的な実現の方法が分からないという方。 ・地域をより良くするため、自分自身が何とかしたいと考えている方。
成果目標	・受講生の半数が発表会で地域の人たちに想いを発信する。 ・受講生の中の 1 割が自分の想いを達成するため、活動を始める。 ・講座後も何らかの形で、受講生同士及びＯＢ、ゲスト・プログラムアドバイザーとのつながりが続いている。
成　果	・受講生 11 名中、10 名がマイアプローチ発表会で想いやプランを発表できた。 内、1 名は欠席だったが、事前に撮影したビデオ映像を流す形で発表した。 ・受講生の内 7 名がすでに何かの形で活動中であり、3 名がこれから活動を始める予定。 ・初回の公開トークイベントの参加者に対して、直接声掛け勧誘して受講につながった。 ・プログラムアドバイザーを始め、多くのゲストや発表会の参加者など、多くの方からアドバイスを受けて受講生のやりたいことが明確になった。 ・発表会前に相談会を実施したことで、発表内容の焦点を絞ることができた。 ・講座終了後も受講生や聴講者のつながりや連携が生まれている。
次年度に向けた課題	・受講生募集の時点でそれぞれの想いを伺い、その内容によって受講生を選考することで、初期段階のうちからやりたいことを絞る。 ・受講生の人数が 8 名程度だと 1 人に対してもっと深く関わることができる。 ・受講生に発表会前のリハーサルの重要性を伝えて、全員に参加してもらう。 ・ＯＢ、ＯＧとの懇親会を開催して、前年度までの受講生の現状把握と受講生とＴＳＣとの継続的な関係構築に努める。

実施概況（２）人材育成　③TAGAJO Future Labo

講座タイトル

TAGAJO Future Labo 5th season

●実施概要

本事業は、今年度で 5 年目となる継続事業である。これまで同様、連続講座（今年度は 6 回）を通して、受講生の「何かしたい」「自分の特技を地域で活かしたい」などの想いをふくらませ、やりたいことを形にしていく。また、受講生同士及びＯＢや既活動者との交流を通して、「何かやりたい・やっている」人たちのつながりを強める。

具体的な内容は以下のとおり

○講座の内容：

下記の要素を、各回の講座に盛り込んでプログラムを組んだ。

・オリジナルのワークシートを用いた。

【想いを整理するワークショップ】

・既活動者の元に足を運び、現場の臨場感を受けながら活動の話を伺う。

【エクスカーション（体験型見学）】

・既活動者から、自らの活動を含めたさまざまな事例・取り組みを伺う。

【ゲストトーク】

・さまざまな意見をもらい、想いを更に整理しながら、受講生同士で共感を得る。

【ディスカッション】

・受講生の想いや考えを広く発信し、人や地域との新たなつながりをつくる。

【マイアプローチ発表会】

○プログラムアドバイザー：

津川登昭さん（一般社団法人チガノウラカゼコミュニティ 代表理事）

全 6 回の講座にて、受講生の想いや考え、プランを外部の目で見てアドバイスをいただくとともに、自らの経験に基づいて想いのふくらませ方、プランの立て方、共感を得るプレゼンづくりなどについてお話をいただいた。

○参加費：無料

○受講生：11 名（定員 10 名）

※その他、申し込みはしたが、日程の関係で参加できず、辞退した方が 4 名いた。

●各回の講座概要

○第１回 想いとアクションを描き出す地域という「キャンバス」

・日　時：令和元年 7 月 7 日（日）14:00～16:00

・会　場：市民活動サポートセンター　大会議室

・ゲスト：谷津智里さん（Bottoms House 管理人）

・参　加：28 名

参加者募集のチラシ

プログラムアドバイザーの津川さん

ゲストの谷津千里さん

参加者の質問に答えるゲスト

・プログラム：

①トークタイム（活動をはじめたきっかけや、現在の取り組みについて）

・ゲスト・谷津智里さんのトーク

・プログラムアドバイザー・津川登昭さんのトーク

・たがさぽスタッフ・渡辺のトーク

グループワークの様子

○第 2 回「想いを整理するワークショップ＆受講生同士のディスカッション」

・日　時：令和元年 8 月 4 日（日）10:00～15:30

・会　場：市民活動サポートセンター　301 会議室

・参　加：受講生 10 名、OB 1 名

・プログラム：

①想いを整理するワークショップ

・「想いを整理するワークシート」への記入。（個人ワーク）

・インタビュー及びディスカッション。（グループワーク）

②全体ディスカッション（自己紹介、想いや考えの発表と質疑）

・記入したワークシートをもとに、現時点の想いを発表した。

・発表を通して、受講生同士およびアドバイザー、ＴＳＣスタッフが受講生を知る機会とした。

③プログラムアドバイザーの話

・受講生のそれぞれの目指すべき方向性について

ゲストの大高利恵子さん

ゲストへの質問タイム

○第 3 回「一歩先行く地域のパイオニアへエクスカーション」

・日　時：令和元年 9 月 1 日（日）13:00～16:00

・会　場：あつまりどころ虹（多賀城市）

・ゲスト：大高利恵子さん（あつまりどころ虹主宰）

沼田清美さん（バレトン塩釜インストラクター）

・参　加：受講生 10 名　OB 2 名

・プログラム：

①ゲストトーク（大高さん、沼田さん）

・活動をはじめたきっかけや、現在の取り組みについて

②グループトークタイム

・ゲストトークの感想の共有、質疑

・受講生それぞれが、最近起こしたアクションについて発表

③次回に向けた課題（想いをカタチにするワークシート）の説明

ゲストの沼田清美さん

○第 4 回「一歩先行く地域のパイオニアへエクスカーション」

・日　時：令和元年 10 月 6 日（日）14:00～17:00

・会　場：さくらビレッジ（多賀城市）

・ゲスト：渡邊晃さん（株式会社 season　代表取締役社長）

・参　加：受講生 7 名

ゲストの渡邊晃さん

・プログラム：

①ゲストトーク（渡邊さん）

・活動をはじめたきっかけや、現在の取り組みについて

②グループトークタイム

・ゲストトークの感想の共有、質疑

・受講生それぞれが、最近起こしたアクションについて発表

③プログラムアドバイザーの話

・発表会に向けての土台作り、プレゼン資料の説明

④次回に向けた課題（発表原稿の仮作成）の説明

受講生それぞれの近況を報告

○第 5 回「自分の想いをまとめて、発表会への準備」

・日　時：令和元年 11 月 4 日（祝月）13:00～16:00

・会　場：市民活動サポートセンター　301 会議室

・ゲスト：永谷由美さん（コミュニティナース温）

・参　加：受講生 6 名

・プログラム：

①ゲストトーク（永谷さん）

活動をはじめたきっかけや、現在の取り組みについて

②プログラムアドバイザーの話「プレゼンテーションについて」

③受講生の発表＆コメントタイム

・前回の課題として作成してきた原稿をもとに、自分の想いや考え、取り組みたいことを 3 分で発表した。

・その後、アドバイザーから内容及び発表の仕方に関するアドバイスをいただいた。

④発表会についての説明

※第 5 回から第 6 回のマイアプローチ発表会までの期間に、発表内容やプレゼン資料の作り方についての個別相談会を実施した。

ゲストの永谷由美さん

コミュニティナースによる血圧測定

○第 6 回「マイアプローチ発表会」

・日　時：令和 2 年 1 月 19 日（日）13:00～16:00

・会　場：市民活動サポートセンター　大会議室

・ゲスト：眞野美加さん（一般社団法人ワカツク、ママとシネマ実行委員会）

・参　加：受講生 9 名、OB 1 名、一般聴講 38 名

・発　表：9 名（その他 1 名は動画発表）

・プログラム：

①ゲストトーク（眞野さん）：

・活動を始めたきっかけ、現在の団体の取り組みについて

②受講生のマイアプローチ発表

・発表時間は一人 5 分。

ゲストの眞野美加さん

今年度のゲストの紹介

・当日欠席の受講生の発表は、事前に撮影した動画の映像を流した。
・受講生それぞれの発表に対し、ゲストからコメントをいただいた。
・一般聴講参加者はコメントシートに感想や励まし、アドバイスなどを記入し受講生に手渡した。

③受講生とのおしゃべりタイム
・受講生一人に対して一般聴講参加者数名でグループを形成し、発表の感想や今後の取り組みについてのアイディア出しなどを行った。

④ゲストとプログラムアドバイザーからの総評

⑤交流会
・発表会に参加した皆さんが、交流や情報交換を行った。
・受講生の阿部知子さん手作りのお菓子を軽食として出した。

●受講生の「マイアプローチ発表内容」（取り組みたいこと）
・タイトルと概要（発表順）

①阿部知子（ともちゃん）　『妄想おやつカフェへいらっしゃい』
……おやつクラブをつくりたい。

②小野寺恵子（けいちゃん）『体にやさしいオーガニックの良さを広めたい!!』……オーガニック製品を幅広い年代に使ってほしい。

③石山直子（なおちゃん）『自分らしさを受け入れてコミュニケーションを楽しもう』……色育で子どもの個性を育み、親子の時間を楽しんでほしい。

④遠藤真輝（マッキ．☆）『マジックで多賀城を盛り上げたい』(ＶＴＲ出演)……マジックで見る人に感動を与え、ドキドキ・ワクワクの時間を提供したい。

⑤檀崎たつみ（たっちゃん）　『私の声を受けとめて』～子どものいのちを守るために私達大人ができること～……子どもアドボカシーを身近なところから広めたい。

⑥木皿かづ子（サーラ）　『絵本のちから』……絵本の魅力を伝え豊かな感性を育てたい。

⑦佐藤杏奈（アンナ）　『好きなものに囲まれて生きる』……子連れで通えるサロンをつくり、キラキラした時間を女性に提供したい。

⑧小高有子（ゆうちゃん）　『より良い子育てや教育を求めて』……すべての子どもに平等に差別のない社会を築くために。

⑨吉田夢（ゆめ）　『うたは夢のゆめ』……合唱を取り入れた放課後児童クラブをつくりたい。

⑩小笠原ルミ（ルミちゃん）　『Precious One ～かけがえのないあなた～』……孤独な子育ての一助となる場所を提供し、一人ひとりが大切な存在ということを伝えたい。

朗読による発表

VTR 出演による発表

発表した受講生へ質問する聴講者

受講生手作りのお菓子

アンケート集計結果

○TAGAJO Future Labo 5th season 受講生（11 名）の傾向

◆性　別

男　性	女　性
1 名	10 名

・例年と変わらず、女性の受講生の割合が高かった。

◆年　代

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
2 名	2 名	4 名	1 名	2 名

・今年度の受講生の特徴として、20 代～60 代までの幅広い年代の方が参加した。

◆住　所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市
5 名	2 名	0 名	0 名	1 名	3 名

・多賀城市在住の受講生の割合が高かったが、近隣の他の市町からも幅広く参加した。

◆講座開始時点での地域での活動状況

活動している	活動したことがない
10 名	1 名

・今年度もすでに何らかの活動に取り組んでいる受講生が多かった。

◆講座への出席状況

第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回
8 名	10 名	9 名	6 名	6 名	9 名（＋1 名）

・今年度は、例年以上に出席率が高かった。すべての回に参加した受講生は 3 名いた。

・第 6 回の「マイアプローチ発表会」では 9 名の受講生が直接発表した。

また、当日欠席の受講生 1 名が、事前に撮影した映像を流す形で発表を行った。

○TAGAJO Future Labo 受講生　アンケート集計（アンケート回収 10 名）

1．マイアプローチ発表会について

①ご自身の発表を、100 点満点で点数をつけると？

100 点	85 点	80 点	70 点	無回答	平均
3 名	1 名	1 名	3 名	2 名	84 点

理由（抜粋）

・津川さんのアドバイスのおかげで、よいプレゼンも作れましたし、緊張しつつもしっかり伝えたいことを伝えられました。ただ資料にはない、伝えておいてもよかったかなと思う部分もありました。

・リハーサルができなくてとてもドキドキ、口がまわりませんでした。

②ゲストや他の受講生の話を聞いて、参考になることはありましたか？

5（あった）	4	3	2	1（なかった）	無回答
7 名	2 名	0 名	0 名	0 名	1 名

③発表を通して、今までの自分にはなかった新しい発見や気づきはありましたか？

5（あった）	4	3	2	1（なかった）	無回答
5 名	3 名	1 名	0 名	0 名	1 名

④マイアプローチ発表会の感想、一番印象に残ったことなどをお書きください。(抜粋)

・みなさんの想いを聞けたこと、いろいろな想いを持っている人がいること、それを支援してくれる人たちが沢山いることを今回の TFL で学びました。発表会は、はじめての大人数でのプレゼンに緊張しましたが、みなさんの温かさに救われました。

・最後の交流でとてもドキドキしましたが直接おはなしのコメントいただけてとてもうれしかったです。

・みんなの真剣な想いやその想いを真剣に聞いてくれる人がたくさんいたということ。受講生の人達の間で何かをやってみたい！という想いを持った仲間意識が芽生えていた。

・今まで私自身このような発表会を見たこともしたこともなかったのですが、同じ時間を皆さんと共有して、ここまでの発表につながって、真剣に自分の想いを伝えている姿に感動しました。皆さんのあたたかなコメントいただいてとてもうれしかったです。これからの活動の励みになります。

２.「TAGAJO Future Labo」全体について

①「TAGAJO Future Labo」全体の満足度を教えてください。

満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1
9 名	1 名	0 名	0 名	0 名

感想(抜粋)

・今回すべて受講できなかったのですが最後までがんばれて、みなさんのサポートのおかげです。

・いろいろな表現の仕方(方法)をみることで、勉強になりました。

・毎回のゲストトークとても勉強になりました！！これからあの時聞いたお言葉が生きるって信じています。

・一人ではここまで具体的に想いをカタチに変えるという「希望」はもてなかったと思います。

・発表できたことで、自分のやりたいことと向き合うことができました。

・自分自身の人生を振り返り、見つめ直す時間が持てたことに感謝です。いったん立ち止まり、これからの人生どんな風に人と関わりながら生きていくか考えさせられました。おかげ様で次のステップに行けそうです。

②「TAGAJO Future Labo」に参加して、「よかった」「役立った」ことを教えてください。(抜粋)

・自分にない視点での考え方をたくさん学びました！

・自分の思いを言葉にすることで進む方向を再確認するきかいになりました。

・何度も自分と向き合わせてくれる。１人じゃできないなあ。と思いました。

・すてきな人とたくさん知り合えたこと、自分の想いをみとめてくれる人に出会ったこと

・みなさん何かやりたい！という気持ちを共有できたことです。それにご意見やアドバイスをいただけてさらにその気持ちを見つめ続けることができました。

・想いを人に伝えることが難しく言葉にしてもあれもこれもまとまらなかったのですが、回を重ねるごとに少しずつ整理ができて良かったです。

・運営側、取り組む側がみんな一所懸命にやっていて、楽しい時間を過ごせたと思えるところ。

③「TAGAJO Future Labo」全体を通して感想や、今後に向けてご意見などありましたらお書きください。(抜粋)

・今後も続けていってほしいと思いました！津川さんはじめ、いろんな方と繋がることが、自分の夢に向けてとても大事だと学びました。

・私自身もこれを機にどんどん進んでゆきます！このような機会をいただいたたがさぽさんには、心から感謝しております。ありがとうございました。

・ぜひ続けてください。１人１人への対応の時間をもっと増やして頂くといいかもしれません。

・たがさぽ「TAGAJO Future Labo」の存在は貴重な体験ができる場だと思います。

・ゲストの方々もいて、本当にいい企画だと思いました。今後も色々な形で継続していって欲しいです。

○TAGAJO Future Labo　公開トークイベント　アンケート集計

■開催日時：2019 年 7 月 7 日（日）14:00～16:00

■申込：24 名　参加者：28 名（アンケート回収件数：25 件　回収率 89%）

■年代

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
3 名	5 名	8 名	4 名	3 名	2 名

■お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
12 名	4 名	2 名	0 名	2 名	4 名	1 名

■講座の満足度

5	4	3	2	1
14 名	8 名	2 名	1 名	0 名

■参加した感想（抜粋）

・実際に活動されている方の話は刺激になります。話を聞きながら、自分だったらこうしたいとか、いろいろ考えがめぐりました。

・地域のために何か活動をと考えている方々がたくさんいること、素晴らしいと思った。想いを共有できる場から次の何かが生まれる、そういう化学反応の連鎖、私もやってみたいと思った。

・質問の仕方が付箋に書くやり方で、自分の聞きたいことを出しやすかった。（出せた。）挙手だと緊張したり時間をうまく使えなかったり、まとまらなかったりするのでこの方法は助かりました。

○TAGAJO Future Labo マイアプローチ発表会

■開催日時：2020 年 1 月 19 日（日）13:00～16:00

■参加者：38 名（アンケート回収件数：23 件　回収率 61%）

■年代

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
1 名	2 名	7 名	8 名	3 名	2 名

■お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
9 名	4 名	1 名	0 名	0 名	6 名	3 名

■講座の満足度

満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1	未記入
14 名	7 名	1 名	0 名	0 名	1 名

■参加した感想（抜粋）

・参加者の方々が TFL 初めの頃に比べてやりたいこと、目標など決まっていて受講者同士の交流により目標に近づけたところも多くあったことが感じられた。

・受講生の方々の熱い想いをうかがい、私自身できることがあれば一緒に取組みたいと思いました。

・これだけ多くの方の想いを聞けたという点で意義のあるように感じます。

・想いをカタチにするプロセスが発表から透けて見えました。こうした体感型はあってもいいように思います。

・多くの人が生きることに前向きに、よくしようと思っていることに、世の中悪くない!!と感じることができた。

＊添付資料　　□チラシ　　□当日配布資料

（３）情報発信強化　①月刊フリーペーパー「tag」発行

目　的	・市民(特に無関心層・潜在層)が市民活動を知る・市民活動に関わるきっかけをつくる。 ・地域の取り組みを発信・蓄積することで、新たな人材・連携先の発掘を目指す。 ・企業、自治会・町内会、学校など市民活動団体以外の地域づくりの取り組み、多様な主体による連携事例を発信することで、多様な主体が地域づくりに関心を寄せ、関わるきっかけをつくる。 ・「tag」や市民活動団体・町内会のチラシ等を配架する場所の開拓を通して、市民が市民活動や地域活動に関する情報を手に入れることができる機会を増やす。
背　景	・平成 25 年 1 月から発行してきた「tag」は、地域づくりに関するフリーペーパーとして定着を図りつつ、状況の変化に応じて多賀城で活躍する人材や市外の活動のノウハウ、データやグラフを用いた課題の可視化、企業のＣＳＲ事例を掲載してきた。 ・地域の魅力を高めたり、課題を解決していくためには、ＮＰＯだけでなく多様な主体（企業・行政・学校など）が連携して取り組むことが必要になる。本年度も継続して、ＮＰＯに限らない地域づくり情報、セクター同士の連携事例の発信にも力を入れる。 ・ここ数年、配架先開拓は積極的に行っておらず、特定の場所での発信となっていた。より多様で多くの市民に地域情報を届けるため、新たな配架先を増やしていくことと市民の出入りが多いと想定される場所に配架できるよう働きかけを行う。
対　象	・無関心層（市民活動に対し興味・関心を持たない市民） ・潜在層（何か活動をはじめたいと考えているが、きっかけがつかめない市民） ・地域づくりに関心のある企業、新たな取り組みをはじめたい自治会・町内会、地域とさらに接点を深めたい学校
成果目標	・「tag」を通して、活動に参加する・自身で活動を起こす・ＴＳＣ事業への参加・ＴＳＣへの市民活動相談といった何らかのアクションを起こす市民（あるいは団体)、または団体同士の連携例を計 12 件生み出す。【随時聞き取りで把握】
成　果	●「何かしたい方」「困りごとのある方」が支援団体とつながる事例が 2 件 ・tag を見て、掲載した子どもの学習スペースの活動を手伝った方が 1 名いた。 ・tag を見て、掲載した子どもの学習スペースに子どもを連れてきた保護者が 1 名いた。 ●多様な地域づくりの事例の発信 ・企業の社会貢献、企業とＮＰＯの連携、自治会の工夫についても掲載し、幅広い地域づくり情報を発信する媒体となった。 ●ノウハウの蓄積と対象にあわせた発信 ・「町内会」「子ども」に関する号をまとめた冊子を作製し、関連する団体に配布した。過去の記事を再編集し、蓄積したノウハウを各対象に提供することが出来た。
次年度に向けた課題	・tag を通したアクションは 2 件に留まった。市民に具体的なアクションを促すツールとして tag は機能しにくい。tag の役割の見直しが必要。 ・蓄積したノウハウを、必要としている対象に届けられるよう発信の仕方を工夫する。 ・tag での情報発信を続けるとともに、市民自らが発信する力をつけていくことで、より多くの市民が地域づくりの情報に触れやすい環境を整えていく。

実施概況　（３）情報発信強化　①月刊フリーペーパー「tag」発行

●発行形態

・様　式　：A4×1 枚　全 2 ページ　両面カラー

・発行頻度：月 1 回（平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月）

・発行部数：2,000 部

・誌面デザイン、印刷は外注。

●内 容（各号の詳細は別項を参照）

・多賀城の人・できごと・ものなどの地域資源を紹介。

・地域づくりや課題解決に取り組む団体を紹介。

・市民活動に携わる人の活動をはじめたきっかけや想いを紹介。

・企業による地域貢献活動を紹介。

・市民活動にＴＳＣスタッフが参加し、その体験を紹介。

・多賀城を中心とした地域のＮＰＯによるイベント・講座を紹介。

・ＴＳＣのブログ記事を簡単に紹介。

・ＴＳＣのサービスやイベント・講座などを紹介。

●配架先（月別部数及び配架箇所数は別項を参照）

・多賀城市内及び周辺市町公共施設

・多賀城市内民間施設（病院、福祉施設等）

・多賀城市内民間店舗（スーパー、コンビニ、銀行、飲食店等）

・マスコミ

・多賀城市内外のイベント出展時に配布

・県内外ＮＰＯ支援センター

●テーマごとの冊子化

今年度はこれまでの発行号の中から「町内会」「子ども」「若者」に関連した号をそれぞれまとめて冊子化し、関連団体に配布した。

・町内会・・・市内行政区長、市内公民館、地域コミュニティ課、市職員研修参加者

・子ども・・・市内保育園、市内幼稚園、市内小中学校、市内高校、各大学、市内児童館、市内放課後児童クラブ
子育て支援課、生涯学習課、学校教育課、子育てサポートセンター、市職員研修参加者

・若　者・・・市内高校、各大学、生涯学習課、市職員研修参加者

●各号の掲載内容

内容（目次）	号数・発行月・表面写真
表面 ○いきいきとした音楽を！市民参加型の歌謡祭！ ○ヒント from“たがさぽ Press” ・データで見る多賀城～もし、多賀城が 100 人の…～ ・地元の民話・伝説を残し語り継ぐ ・Let’s try English conversation!! ○たがさぽからのお知らせ ・「ここから～もうひとつの多賀城ガイドブック～」が完成しました！ 裏面 ○みんなで考える多賀城のこと ・「自分らしく」生きるあなたにそっと寄り添う 非営利団体 虹の橋	76 号／4 月
表面 ○放課後の「おうち」をよりよい場所にするために～宮城県学童保育ネットワーク～ ○ヒント from“たがさぽ Press” ・みんなで子どもを支え合う「NPO 法人こども∞感ぱにー」 ・データで見る多賀城～多賀城の子どもの推移～ ・使わなくなったランドセルをネパールの子供たちに届けよう。 ○たがさぽからのお知らせ ・「たがさぽ文庫」のご案内 裏面 ○企業の地域貢献活動を知る ・困っている人へ届けたいという共通の想い～Curves（カーブス）×NPO 法人いのちのパン～	77 号／5 月
表面 ○自分のできることを地域の場で活かす ○ヒント from“たがさぽ Press” ・英語でできます!日本流のおもてなし ・活動中のリスクに備えて ボランティア活動保険 ・お寺が貧困問題に取り組む おてらおやつクラブ ○たがさぽからのお知らせ ・TAGAJO Future Labo 受講生募集！ 裏面 ○みんなで考える多賀城のこと ・日常の中で平和を考える	78 号／6 月
表面 ○目指せ！「多賀城 夏の風物詩」多賀城ビアサミット 2019 ○ヒント from“たがさぽ Press” ・ふるさとのシンボルにみんなで感謝の気持ちを伝えよう ・がんばる自分を大切に「セルフケア」のポイント ・食べ物を残すのはもったいない ○たがさぽからのお知らせ ・おでかけミニ雑貨市 in ロビーステージ&サークルフェア 2019 裏面 ○みんなで考える多賀城のこと ・もっと楽しむ地域の夏祭り	79 号／7 月

内容（目次）	号数・発行月・表面写真
表面　○楽しい出会い 広がるつながり NPO 法人仙台スラックライン ○ヒント from“たがさぽ Press” ・目標設定を SMART にするフレームワーク ・ここにあります。放課後の安心できる子どもの居場所 ・あなたの団体にとって、ボランティアとは？ ○たがさぽからのお知らせ ・「市民の発信力強化」講座 参加者募集! 裏面　○みんなで考える多賀城のこと ・「学びたい！」人に学びの場を～学び処しおがま～	80 号／8 月
表面　○新たな時代に、新たな道を歩む万葉行列 ○ヒント from“たがさぽ Press” ・大好きな絵本に囲まれた ほっとできる場所 家庭文庫「サーラ文庫」 ・だれもが自由にくつろげる空間とは？まちのサードプレイスについて考えてみよう ・マジックで地域を盛り上げたい ○たがさぽからのお知らせ ・おでかけミニ雑貨市 in たがマルシェ 裏面　○みんなで考える多賀城のこと ・歩いて出会う 地域の魅力	81 号／9 月
表面　○ママたちをゆるっと、やさしくつつみこむ ○ヒント from“たがさぽ Press” ・聴覚障がい×ヒーローショー 新たなショーのカタチ ・「子どもをひとりにしない」広がる！こども食堂 ・助成金の申請をする前に－財源の特徴を確認してみよう ○たがさぽからのお知らせ ・たがさぽのクリスマス雑貨市 ボランティア募集！ 裏面　○みんなで考える多賀城のこと ・助けあえる地域を目指して20年 住民を結びまちの歴史を語る町内会報『すみだ』	82 号／10 月
表面　○多賀城→七ヶ浜 車イスでまちあるき ○ヒント from“たがさぽ Press” ・若い力が、献血を呼びかける ・災害支援 それぞれの場所でできること ・秋の夜長、目で見て、手でさわって、みんなで絵本を楽しもう ○たがさぽからのお知らせ ・NPO の絵本、読めます！ 裏面　○みんなで考える多賀城のこと ・一緒に考えてみよう 本当に住みやすい「ユニバーサルなまち」とは？	83 号／11 月

内容（目次）	号数・発行月・表面写真
表面　○多賀城ではたらく外国人から日々の暮らしを聞いてみよう！ ○ヒント from“たがさぽ Press” ・一緒に走って、体も心もぽっかぽか！ ・「支援金」と「義援金」の違い ・「ボランティアバス」でボランティアに行こう！ ○たがさぽからのお知らせ ・たがさぽのクリスマス雑貨市 裏面　○みんなで考える多賀城のこと ・外国人にも、みんなにも、やさしい地域を目指して	84 号／12 月
表面　○カレンダーで届ける 地域の笑顔 ○ヒント from“たがさぽ Press” ・仕事の優先順位を考える 重要度/緊急度マトリクス ・はるかシベリアから ・団体相談で多かったチラシ・パンフの作り方 伝授します！ ○たがさぽからのお知らせ ・TAGAJO Future Labo 5th season マイアプローチ発表会 参加者募集 裏面　○市民活動はじまりのはじまり ・「かけがえのないあなた」を大事に	85 号／1 月
表面　○絵本でつながる 出会いのひとときを　サーラ文庫 ○ヒント from“たがさぽ Press” ・パソコンやスマホで自治体広報紙を手軽にチェック ・今年もクリスマス雑貨市開催しました! ・ラインダンスの魅力を伝えたい ○たがさぽからのお知らせ ・TSR 会議 Vol.3　多賀城から、持続可能な関係性を探る 裏面　○みんなで考える多賀城のこと ・ミーティングに通うことが心の支え	86 号／2 月
表面　○多賀城から世界を目指すマジシャン! ○ヒント from“たがさぽ Press” ・知ってますか?預かりボランティアのこと ・地域を自分を「ちょっと動かす」コツ!この一冊 ・人が集まるイベント・会議を開く前に ○たがさぽからのお知らせ ・出前 NPO いちから塾 裏面　○みんなで考える多賀城のこと ・地域で遊んで、学んで、食べる 大代地区の子どもたち	87 号／3 月

●配架部数

号数	館内	公共施設	支援センター	マスコミ	学校	行政	民間施設店舗	その他	配架部数合計	発行部数
76 号（4 月号）	200	594	165	40	120	80	259	126	1,584	2,000
77 号（5 月号）	200	594	165	40	120	80	259	126	1,584	2,000
78 号（6 月号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
79 号（7 月号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
80 号（8 月号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
81 号（9 月号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
82 号（10 月号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
83 号（11 月号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
84 号（12 月号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
85 号（1 月号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
86 号（2 月号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
87 号（3 月号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
配架部数計	2,400	7,128	1,980	480	1,440	960	3,208	1,512	19,108	24,000

●配架個所・配架部数　前年度 3 月比

今年度 3 月号										
配架部数	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
配架個所数		65	51	21	20	6	34	18	215	
前年度 3 月号										
配架部数	200	586	166	40	120	80	259	126	1,577	2,000
配架個所数		64	52	21	20	6	32	18	213	
配架部数増減	±0	+8	−1	±0	±0	±0	+10	±0	+17	±0
配架個所数増減	±0	+1	−1	±0	±0	±0	+2	±0	+2	±0

＊添付資料　　□「tag」76 号～87 号　　□テーマ別冊子

（３）情報発信強化　②市民の発信力強化

目　的	地域で活動する団体や個人が、ビジョン・ミッションや強みを整理し可視化・価値を知ることで、他セクターとの連携や市民の共感を呼び起こす情報発信ができる力を身につける。団体、企業、個人、町内会自治会が、自らの取り組みを必要とする対象に情報を届けるためのスキルを身につける。
背　景	ＮＰＯ、企業、自治会・町内会の共通の課題として「情報発信」がある。 ＴＳＣ相談業務のなかで、情報発信に関わる多くの相談が寄せられる。これは、団体自体や活動を効率よく発信できていないことが原因と考えられる。また、せっかく PR の場に参加しても名刺を持っていない、自分をなんて名乗っていいかわからない、活動を相手にうまく伝えられないなどの相談も寄せられていた。 平成 29 年度から、「伝える」ことに主眼をおき、活動者や活動団体を主とした講座を行い、活動者の力づけ、参加者同士がお互いの活動を発信し合い相乗効果が生まれる内容の講座を行ってきた。
対　象	・既活動者・団体、活動をはじめたい個人 （ブース入居団体、きっかけ塾・TFL 受講者、活動相談者等発信力が必要と思われる利用者を中心に声がけを行った）
成果目標	・参加者の情報発信力が強化されており、講座後なんらかのアクションをおこす。
成　果	**〇TSC 利用団体、講座参加者が具体的なスキルを学び、想いを整理する機会となった** ・既活動者や講座参加者、町内会、新しく活動をはじめる準備をしている人などが、総勢 32 名参加した。 ・ブースを利用している団体や長く多賀城で活動している団体や、今年度のほかの事業の参加者も多く、団体のインキュベートや事業間の参加者のサポートにもなった。 ・参加者同士が自らの活動を伝え合い、交流することも想定し学びの場をつくった。 **〇活動者が自分の活動をブラッシュアップする機会となった** ・全講座を通じて、思いや取り組みを伝えたい対象に伝えるということを一貫したテーマとした。それにより、これまで行っていた情報発信を、対象設定を考えてブラッシュアップしたという声があった。具体的には、団体がチラシ・パンフレットを講座後改訂し発行したり、参加者を想定し、ロゴを制作した団体もおり、チラシなども一貫したわかりやすいデザインとなった。 また講座参加者が名刺を作成し、別の事業に参加した。 **〇お互いの活動を伝え合う場をつくったことで、交流が生まれた** ・講座でつながりを持ち、参加者の参加する事業に来てくれた。
次年度に向けた課題	参加を想定していた個人、団体からの参加がなかった。TSC からインキュベートの視点でおすすめしても、団体が必要と感じていない場合もあったので、団体が興味を抱くような多様なアプローチが必要と感じた。 全て関連した講座だったが、参加者が単発の学びの場と捉え、実践まで結び付けられない人もいた。また、対象を想定して情報発信活動していない人が多く、1 回、2 回の講座では難しいと感じた。より体系的に継続的に見守る体制も構築していきたい。

実施概況（３）情報発信強化　②市民の発信力強化

●市民の発信力

（1）第 1 回：伝える名刺づくりのコツ

・日　時：令和元年 8 月 25 日（日）10:00～13:00

・会　場：多賀城市市民活動サポートセンター

・参　加：15 名

・講　師：林田全弘氏

（azuki desigh 代表/ デザインで NPO を応援します）

・内　容：団体やイベントの価値、強みを整理するコツをつかみ、その価値や強みを相手に伝えるワークを行った。また、参加者同士でプレ名刺交換を行った。

（2）第 2 回：伝えたい人に伝えたいことを伝えるプレゼン講座

・日　時：①令和元年 9 月 7 日（土）10:00～11:30

②令和元年 9 月 14 日（土）10:00～11:30

・場　所：多賀城市市民活動サポートセンター

・参　加：13 名

・講　師：スタッフ（櫛田）

・内　容：プレゼンする目的を整理し、伝えたい相手を想定してプレゼンするワークを行った。相手の立場に立ち、話の接点を見つけ出すコツを学んだ。

（3）第 3 回：情報発信団体個別相談会

・目　的：地域で活動する団体や個人が、ビジョン・ミッションや強みを整理し可視化・価値を知ることで、他セクターとの連携や市民の共感を呼び起こす情報発信ができる力を身につけること。

団体が自らの取り組みを必要とする対象に情報を届けるためのスキルを身につけること。

・日　時：2019 年 10 月 27 日（日）14:30～17:30

・場　所：多賀城市市民活動サポートセンター

・参　加：4 団体 6 名

（ハッピーピース、Precious One、多賀城イングリッシュサポーターズ、宮城県学童保育連絡協議会）

・講　師：林田全弘氏

（azuki desigh 代表/ デザインで NPO を応援します）

（1）名刺づくり講座の様子

（1）名刺交換も体験

（2）プレゼン講座の様子

（3）団体の情報発信講座の様子

アンケート集計結果

参加者分析　全 3 回実施（参加者総数：34 名）＊各回単独申し込み

①伝える名刺づくりのコツ

■参加者：15 名

■年代

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
1 名	4 名	5 名	2 名	3 名

■お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市
7 名	1 名	3 名	0 名	2 名	2 名

■この講座をどこで知りましたか（複数回答可）

たがさぽスタッフ	12 名
広報多賀城	0 名
チラシ・ポスター	3 名
情報紙「tag」	0 名
HP・ブログ・ツイッター	0 名
知人・友人	1 名
その他	0 名

■満足度：平均 4.8（5 段階評価）

満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1
13 名	2 名	0 名	0 名	0 名

○意見・感想

・名刺をつくる時に相手のことを考えるという感覚がなかったのでとても勉強になりました。

・名刺という限られた発信媒体で自分の事業を見つめ直す機会となりました。

・参加者との交流でほかの人の発想やアイディアにも触れられて良かった。

・デザインばかり考えていましたが、相手を考えて作るということを知れました。

②伝えたいコトを伝えたい人に伝えるプレゼン講座

■参加者：13 名

■年代

30 代	40 代	50 代	60 代
1 名	5 名	5 名	2 名

■お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	松島町	仙台市	無回答
4 名	1 名	3 名	1 名	3 名	1 名

■この講座をどこで知りましたか（複数回答可）

たがさぽスタッフ	11 名
広報多賀城	0 名
チラシ・ポスター	1 名
情報紙「tag」	0 名
HP・ブログ・ツイッター	1 名
知人・友人	2 名
その他	1 名

■満足度：平均 4.8（5 段階評価）

満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1
11 名	2 名	0 名	0 名	0 名

○意見・感想

・伝えることを体系化して知ることができた。

・伝える「相手」によって伝え方を変える、どこにアプローチするかを考えることが必要と感じた。

・伝えたい事をどうやって整理してピンポイントにその人が知りたい情報を伝えられるかを学んだ。

・自身の行っている活動を今後、どのようにまわりに広め伝えていったらよいかというヒントをたくさんもらった。

③団体の個別相談会

■参加：4 団体 6 名

Precious One、ハッピーピース、宮城県学童保育連絡協議会、多賀城イングリッシュサポーターズ

■満足度：4.8（5 段階評価）

満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1
5 名	1 名	0 名	0 名	0 名

①～③を通じての設問

■情報発信で知りたい内容をおしえてください（複数回答可）

チラシづくり	13 名	プレゼン	6 名
SNS 活用・ブログ等	8 名	ロゴづくり	3 名
文章の書き方講座	4 名	マスコミへのプレスリリース	2 名
パンフレット	7 名	寄付の集め方	0 名
広報の仕方	4 名	名刺	2 名
団体のキャッチコピー	4 名	その他	2 名

○意見・感想

・現在の物を大きく変えるのではなく、より良くするためのポイントを聞けてとても良かった。また、チラシのわかりやすい発信の仕方なども聞けてとても良かった。

・パンフレットやチラシ、ポロシャツ等まで、なかなか情報を精査することができず悩んでいた。今日は目的などのとらえ方も再度確認することができた。

・チラシ、パンフも「誰にむけた！」というのは、深く考えていなかったので、改めて考えたうえで作成しようと思った。相手によって伝え方、内容がかわるのはそうだと思った。

・個別に当団体のための相談会ということでとても具体的でわかりやすくてよかったです。

・団体の広報の活動の仕方などの整理が苦手なので、そのようなことなどの講座もあるとうれしいです。

＊添付資料　　□チラシ　　□当日配布資料

（４）市職員研修

目　的	・地域住民とともに地域や社会の課題及び今後の地域づくりを考え、自治支援を行うことが出来る人材を育成する。 ・協働の視点を持ち職員への助言や仕組みづくりを行うことの出来る人材を育成する。
背　景	多賀城市第五次総合計画の「市民協働実践のための職員育成」の項目において、「市民参画や協働の趣旨を理解している職員割合」は 90.4%である一方で「市民参画や協働を日常業務で実践している職員割合」は 20.2%となっている。 これまで実施した市職員研修のアンケート等を踏まえると、より多くの市職員が協働を実践していくために以下がポイントとなる。 ①現状の把握　②さらなるＮＰＯの本質の理解　③協働実践事例の学び ④市民とのよりよい対話を日常的に行う　⑤協働についての研修の仕組み化 ⑥協働実践の仕組み化 前年度は「公務員の働き方」をテーマに参加者同士が議論し「仕事」について改めて考えた。直接協働を学ぶものではないが、協働の前提として、これまでとは違う働き方が必要になってくるということを確認した。 本年度は、上記①④に重点を置き、区長制度に伴う地域との新たなパートナーシップを形成できるような体制を市として整えるための研修を行う。
対　象	・各課の係長もしくは主査クラスの職員
成果目標	・参加した市職員の内の 90%以上が、地域・社会課題について考え、その解決策としての協働の有用性を見出す。※講座終了時のアンケートにより計る。 ・参加した市職員の内の 30%以上が、協働の実践に向けてアクションを起こす。
成　果	・受講者アンケートによると、21 名の参加者の研修理解度(1～5 の 5 段階)の平均は 4.0 で、理解度 4 または 5 と答えた参加者は 76.2%であった。参加者が、協働の前提として、社会の変化に対応した働き方について理解を深めることができた。 ・講座を通して市や自身の仕事で変えるべきこと、そのためにすぐにアクション出来ることを考えることができた。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためグループワークの時間は設けなかったが、簡単に隣席の参加者と考えを共有したり、紙に記入された他参加者の考えを見て回る時間を設けたりしたため、多様な考えを取り入れる機会となった。
次年度に向けた課題	・今年度は協働の前提となる、考え方の変化についての内容となった。次年度以降、協働の実践に向けて、市として実施する職員研修、TSCで実施する事業を効果的に組み合わせながら研修の体制を整えていく。 ・3月実施だったこともあり、協働実践に向けたアクションを行っているか計ることはできていない。大きなプロジェクトだけではなく、日常業務の中で協働を実践できるような体制を市や各課の中で市職員自らつくっていくよう研修の内容も工夫していく。

実施概況（４）市職員研修

市民参画と協働に関する職員研修

日　時：令和 2 年 3 月 17 日（火）15:00～17:00

会　場：多賀城市役所 3 階　全員協議会室

対　象：各課の係長もしくは主査クラスの職員

参加者：21 名

内　容：講義、個人ワークショップ

○「令和時代の行政と社会の変化・働き方の変化について」

講師：地域経営コーディネーター　菊池 広人さん

・自分が新型コロナウイルスに感染した場合の業務仕分け

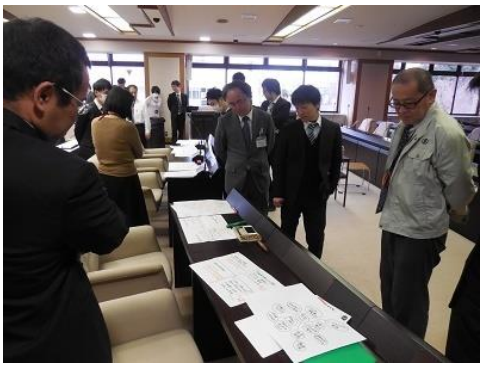
・日本、世界の変化

・区長制度廃止

・新公共ガバナンス、ダイバーシティ、指定管理者制度

・今日の発見、多賀城市役所で変えるべきこと、自分の仕事で変えたいこと

講義・個人ワークによって考えを深めた。



他者の意見も見て多様な考えを取り入れた。

アンケート集計結果

参加者 21 名　アンケート回収 21 枚

①研修の理解度(5 段階評価)

理解度 5	理解度 4	理解度 3	理解度 2	理解度 1
6 名	10 名	5 名	0 名	0 名

②理解度の理由についての記述（抜粋）

【自身で考えを深める】

・ワークを行ったことで、より理解できる研修だったと思います。自分でも「考える」という時間があって良かったと思います。

・身近なコロナウイルスについてキーワートをワークシートに書いたりしたので考えやすかった。

・時代背景や変化などとても分かりやすいものでした。日々仕事に忙殺され、あまり考える時間がなかった中で、紙に書きだすことが考える良い時間となりました。行政、住民、さまざまなものが変わっている中でどう仕事をしていくかもう少し深く考えて、行動に移していきたいと思います。

・自分の仕事と直接結び付けることが、あまり上手にできなかった。人それぞれの違いを認めるということは、頭では理解できるのだが、業務上なかなか難しい部分。

【他参加者と考えを深める】

・グループワークとも違う方法であったが、他の方の考えていることを見ることができた。

・座学により、基本的な理解はできたが、課題設定し、グループワークの機会があれば、より理解が深まったと思う。

・考える時間がとれた。→相手を理解する。少ないものをどう活かしていくかなど「普通」に疑問を持つ必要性を他職員から学べた。

【協働について】

・協働（共同・協同）について、市民と民間の人々を巻き込んで、その中で、”行政にしかできない事は何か”を見極めていくことが重要であると感じた。

・今まで、市民参画と協働に関する研修を何度か受けたが、具体的にどのように自分の業務に結び付ければ良いか分からなかった。しかし、今回の研修では市民参画や協働にも多様性があることを知ることができた。

・日頃の業務で直接的に市民と接することが現在ほとんどない中で、今の業務をどう進めていくか、自分たち以外のプレーヤーの存在をどうとり入れていくか、またはいけるのか、色々な発見があり、理解が容易だった。

・テーマが広く、90 分では吸収できないという実感があった。「市民参画と協働」とのつながりを理解できなかった。

【働き方の変化について】

・今後の変化に対応していかなければならないこと、それを周りの人・会社等で力を合わせて対応していかなければならないとのこと。

・将来日本の人口が半減し、寿命が延びるので、今から備えなければならない等、環境の変化に対応する力をつけなければならないことを教えられたため。

・コロナウイルスで、テレワークになったり、今までやろうとしてなかなかできずにいたこともたくさんあり、今回の件が働き方改革のきっかけになっているので、研修のタイミングがよかった。

③参加者が日々の仕事で困っていること、誰かの力を借りて解決したいことについての記述（複数回答あり）

分類	回答数	主な内容（抜粋）
業務量	5 名	・業務が増えているので減らしていくスタンスも根付かせたい。 ・窓口での対応や相談が多く、その他業務にあたれない。
情報共有・相談・連携	3 名	・情報共有の大切さ。 ・担当だけでの対応が難しく、他部署と相談したいことがある。
引き継ぎ・マニュアル	2 名	・マニュアルが必要。基本業務は誰でもできるようにしたい。 ・業務の明確な取り決めがなく経験に頼ってしまう。
オンライン化・デジタル化	2 名	・デジタル化が進んでいるため専門家や企業のサポートも必要。 ・デジタル化、オンライン化で業務負担を軽減したい。
連絡調整	1 名	・他部署との調整が大変。
他者とのコミュニケーション	1 名	・積極的にコミュニケーション（参加・発言・協調）していく。
協働	1 名	・これまで協働の機会がなかったが、協働の意識を浸透させたい。
市民のマネジメント	1 名	・関わっている市民団体のマネジメント・自立を進めたい。
特になし・分からない	6 名	

④研修を受けてまずはどんなアクションを起こしたいかについての記述（複数回答あり）

分類	回答数	主な内容（抜粋）
業務量・業務の整理	6 名	・必要なもの、必要でないものの仕分け。 ・日々の業務の洗い出しをする。 ・事務の簡略化。
引継ぎ・マニュアル	5 名	・コロナウイルスで自分が不在でも対応できるようにする。 ・業務内容の明確化、誰でも業務ができるようマニュアル作成。
協働	5 名	・民間に委託できる部分は委託する。 ・民間のノウハウや意見を積極的に取り入れる。 ・日頃から協働の意識づけをする。
考え方の変化	3 名	・次の時代に必要なことはなにか考える。 ・「普通」に疑問を持つ。 ・仕事の考え方をポジティブに変える。
多様な視点	2 名	・相手のことを想像し、相手の立場に立ってみる。 ・多数派・少数派　逆の立場で考えてみる。
連絡調整	1 名	・考え方が違うことを前提に他部署と調整する。
職員とのコミュニケーション	1 名	・より職員とコミュニケーションを図り業務について考えたい。
市民との接し方	1 名	・関わる市民との接し方を変える。

＊添付資料　□当日配布資料

（５）その他事業　ＮＰＯの絵本展

目　的	・絵本に関心がある市民（特に子育て世代の方やその子ども）を対象に、地域・社会課題にふれる場を設けることで、課題意識の向上につなげる。 ・絵本に関心がある市民（特に子育て世代の方やその子ども）を対象に、さまざまなＮＰＯが発行した絵本や取り組みを紹介し、ＮＰＯの活動の多様さを知ってもらうきっかけとする。
背　景	平成 27 年度に多賀城市で開催された「世界絵本フェスタ」に合わせ、ＴＳＣでも自主企画として、絵本を通して地域・社会課題あるいはその課題解決に取り組んでいるＮＰＯを知る機会となる「ＮＰＯの絵本展」を実施し、ＮＰＯ、地域・社会課題、ＴＳＣ自体の認知向上を行った。 平成 28 年度からは、ＴＳＣに来館しない方に向けて、ＮＰＯ、地域・社会課題、ＴＳＣを知ってもらうきっかけとして、他団体主催の子どもや絵本に関するイベントに出向き、絵本の展示や読み聞かせを行っている。
対　象	・幼稚園～小学校低学年 ・子育て世代 ・絵本に関心のある市民
成果目標	・設定なし。
成　果	・多賀城市内外のイベントに 5 回出展し、200 名（子ども 101 名、大人 99 名）がＮＰＯの絵本にふれた。普段、ＴＳＣ事業に関わる機会の少ない方、特に子どもたちがＮＰＯや地域・社会の課題を知る機会となった。 ・子どもを支援する立場にある方（学校の先生、支援団体等）が絵本に関心を持つ場合もあり、自身が接している子どもの困りごと解決の手段として絵本やＮＰＯの情報を提供することが出来た。 ・今年度は、絵本の他に手話を学ぶカルタ、視覚障がいのある方でも楽しめるボードゲームも用意し、より多彩なメニューで市民にＮＰＯや地域・社会課題へ関心を持ってもらうことができた。 ・外部イベントに出展することで、ＴＳＣに来館する機会のない方へアプローチできるため、ＴＳＣ自体の周知につながった。
次年度に向けた課題	・現状はＴＳＣが各ＮＰＯを紹介するに留まっているが、今後は発行に携わるＮＰＯ、読み聞かせを行う団体と協力して実施することで、直接ＮＰＯにふれる機会もつくっていく。 ・ＮＰＯの絵本展は、子どもや保護者、絵本に関心のある方を対象にＮＰＯや地域・社会課題を知ってもらうメニューであるが、その他の対象についてのメニューはまだ確立されていない。ＴＳＣとして特にアプローチに力を入れたい対象にあわせ、引き続きメニューを開発し、多様な市民にＮＰＯを知ってもらう機会としていく。

実施概況（５）その他事業　ＮＰＯの絵本展

●ＮＰＯの絵本展の内容

・ＮＰＯが発行、制作に携わる絵本の展示

・読み聞かせ

・発行、制作に携わる団体の紹介

●展示する絵本

・減災絵本「リオン」（ＮＰＯ法人防災士会みやぎ／防災）

・「えほん　障害者権利条約」（ＮＰＯ法人日本障害者協議会／福祉）

・「そのこ」（認定ＮＰＯ法人 ACE／国際協力）

・千代田いまむかし（まちなびや／まちづくり）

・てんてん　他 3 冊（点字絵本）（ＮＰＯ法人ＵＤ絵本センター／福祉）

・森のハロウィン（森林環境ネットワーク／環境）

・ちょこっと・ねっとのおはなし（ＮＰＯ法人アフタースクールぱるけ／福祉）

・ボクのせいかも・・・ーお母さんがうつ病になったのー　他 2 冊（プルスアルハ／子ども・医療）

・ぼくは海になった　東日本大震災で消えた小さな命の物語（震災で消えた小さな命展／動物・震災）

・輝け☆未来のぼうさいっこ（東北福祉大学防災士協議会 Team Bousaisi／防災）

・みえるとか みえないとか（ヨシタケシンスケ／福祉）

鶴ヶ谷児童館 第 45 回こどもまつり

日　時：令和元年 5 月 25 日（土）9:30～11:30

会　場：鶴ヶ谷児童館

人　数：子ども 20 名　大人 20 名

主　催：多賀城市

運　営：特定非営利活動法人 MIYAGI 子どもネットワーク

参加イベントについて：

お話サークル、児童クラブ、老人クラブ、高校生等がボランティアとして参加する児童館のイベント。読み聞かせ、縁日といったメニューが用意されている。

車を使って屋外で展示した。子育て中の方や子どもに携わる団体の方が関心を持っていた。

第 31 回多賀城跡あやめまつり

日　時：令和元年 6 月 29 日（土）10:00～14:00

会　場：多賀城跡あやめ園

人　数：子ども 14 名　大人 15 名

主　催：多賀城跡あやめまつり実行委員会

参加イベントについて：

多賀城の市花である、あやめにちなんだイベント。さまざまなステージ企画の他、物産、飲食、ワークショップのブースが並ぶ。多賀城市民のみならず市外からも来場ある。

自然に立ち寄る方は少ないが、読み聞かせをすることで子どもが集まった。

ロビーステージ＆サークルフェア 2019

日　時：令和元年 7 月 28 日（日）10:00～15:30

会　場：多賀城市文化センター

人　数：集計なし

主　催：多賀城市文化センター指定管理者

参加イベントについて：

多賀城市内外のサークル、お店が集まり、雑貨や食品の販売、音楽やダンスの発表を行う。

サークルの発表の場であるため、大人の参加が多くみられた。

第 5 回シオーモ絵本まつり 日　時：令和元年 8 月 4 日（日）10:00～15:00 会　場：ふれあいエスプ塩竈 人　数：子ども 27 名　大人 20 名 主　催：シオーモ絵本のなかまたち 参加イベントについて： 絵本についての企画が集まったイベント。読み聞かせ、展示、ワークショップ等のさまざまな企画が用意されている。	 絵本に特化したイベントであるため、子どもや絵本に関心のある大人が多く来場した。
第 31 回山王地区公民館まつり 日　時：令和元年 10 月 6 日（日）9:00～15:00 会　場：山王地区公民館 人　数：子ども 40 名　大人 44 名 主　催：多賀城市 参加イベントについて： 公民館を利用している団体の発表の場。昨年度より、幅広い年代の来場を促すため、縁日等の子ども向けの企画も用意されている。	 絵本の他、手話を学ぶかるたや視覚障がい者も楽しめるボードゲームも用意した。

＊添付資料　　□チラシ

Ⅱ

令和 2～4 年度施設運営方針

１．令和2～4年度施設運営方針

多賀城市の状況・課題

○令和 2 年 4 月の区長制度廃止に伴い、地域の課題解決の担い手は、区長個人から自治会・町内会という組織へと役割を移行する方向にある。一方で、平成 29 年度実施の調査では、自治会・町内会の現担い手のうち、83%が困っていることとして「役員のなり手がいない」との回答しており、担い手不足という課題が出ている。

○平成 30 年度まちづくりアンケートにおいて、市民活動、ＮＰＯ活動、ボランティア活動などに「現在参加している」との回答が 9.5%、「今後参加してみたい」との回答が 36.1%だった。「今後参加してみたい」と思っている層が活動に一歩踏み出すよう働きかけることが第一に優先すべきことである。また、45.8%の「興味や関心が無いので参加する気はない」層に興味や関心をもってもらう働きかけも必要になってくる。

○第六次総合計画（令和 3 年度～12 年度）は策定の基本的姿勢の中に「市民協働を推進する」ための計画であることが明記されており、市民協働を推進する方向性である。

TSC が目指すまちの姿

・共通する課題や手段ごとに、自治会・町内会、ＮＰＯ、企業、学校、行政等のさまざまな主体が連携している。

・さまざまな年代の方が、多様な方法で地域に関わっている。

→それによって、防災、高齢者、障がい者、子育てなど、地域のさまざまな課題が自治の力によって解決されている。

3 年後（令和 4 年度末）の姿

5 つ程度の現状の枠を超えた動きが出ている。複数の動きでは、成果が見え始めていることにより、新たな連携が生まれたり、成果が出ている動きに他の主体も参加し始めたりしている。

TSC の役割

地域の自治力を高めること

取り組み

（１）地域の担い手の育成

○市民

・社会課題・地域課題や市民活動・地域活動に関心を持つ市民を増やす。

・想いを持つ人が活動に踏み出せるようにする。

→【事業案】

・市内で取り組まれているさまざまなプロジェクトの見本市を開催し、地域へのさまざまな関わり方を示すとともに、想いやスキルを持った方の参加のきっかけの場をつくる。

・地域の課題を見える化し発見する力を育成し、担い手となる人たちを掘り起こす。

・雑貨市

・ＮＰＯいちから塾

○ＮＰＯ

・自団体の強みを知る

・取り組んでいる課題のことを企業等に伝えられる

・課題設定、課題解決のプロセスが描ける

→【事業案】

・情報発信力強化

・ＮＰＯ自らが、課題を見える化し、共感を得て、多様な参加を得られるような力づけを行う。

○自治会・町内会

・運営課題解決のためのサポート

・住民の関わり開発のサポート

→【事業案】

・各自治会・町内会が持つ課題やノウハウを共有する場をつくる。

・自治会・町内会自らが、課題を見える化し、共感を得て、多様な参加を得られるような力づけを行う。

・事例ポイント集の作成

・地区の話し合いのサポート

○企業

・地域を知る

・ＮＰＯを知る

・地域貢献活動に取り組む

→【事業案】

・ＮＰＯいちから塾

・市内で取り組まれているさまざまなプロジェクトの見本市を開催し、地域へのさ　まざまな関わり方を示すとともに、想いやスキルを持った方の参加のきっかけの場をつくる。

○支える人材（行政等）

・行政、地区公民館、地域包括支援センターなど、市民の活動に関わるスタッフの支援力を高め、支援の環境を強化する。

→【事業案】

・自治力を高めるために必要なスキルを学んだり、お互いに協力できるような関係づくり

・ＮＰＯいちから塾

（２）連携による課題解決を進める

○自治会・町内会だけでなく、地域を構成する一員である企業（事業者）やテーマごとに専門性を持って活動するＮＰＯをつなぎ、連携を生み出す。

→【事業案】

・連携を促す場づくり

・伴走型支援

（３）情報発信

・上記内容を発信する。

→【事業案】

・月刊フリーペーパー「tag」発行

（４）運営主体をひろげる

・他主体との連携を進める。

２．令和2～4年度ロードマップ

2020年3月

大項目	対象	現状（〇）と課題（●）	令和2年度（2020）	令和3年度（2021）	令和4年度（2022）	令和4年度末に目指す姿
地域の担い手の育成	市民	〇市民活動やボランティアを体験する場をつくることができた 〇事業参加をきっかけに、課題解決につながるアクションを起こした人が増加し、またコミュニティも生まれた 〇市内外のイベントに出展し、市民活動への理解を広めることができた ●TSCの認知度が低く、また市民活動に興味関心のない人の割合が高い	・地域課題を考える場に参加する ・現在活動している方の事例から学び、活動の入り口を見つける	→	→	・社会課題・地域課題や市民活動・地域活動に関心を持つ人が増えている ・多くの市民が、何らかの形で地域での活動に関わっている
	NPO	〇情報発信の支援に重点を置き、講座などの成果を活かした団体が多かった 〇団体運営に関する相談が高い割合を占めるようになっている ●担い手不足、資金調達などの課題を持つ団体が多い	・自団体の強み、弱みを分析する力を高め、実際に分析を行う	・力を借りたい人や団体に自団体のことを発信する ・団体運営力のアップを図る	→	◎団体の強み、弱みを自己分析し、発信できている ◎連携の対象として、信頼感が増している
	自治会・町内会	〇課題を把握するとともに取り組み事例の収集ができた ●自治会・町内会活動の担い手が不足している	・自分の自治会、町内会の現状を知る ・地域の現状や未来について、地域の多くの人が参加できる体制を整える ※TSCとして制度改正後の地域の現状を把握している、関わり方が見えてきている	・勉強会を通して、地域の課題、今後ありたい姿やそのためのアクションを考える ・アクションのために必要なスキルや知識を学び、実践につなげる	・これまで考えたこと、学んだことを実践に移し、課題の解決につなげる ・他の主体と連携してのアクションやプロジェクトを実施する	◎多様な関わり方による事業が生まれている ◎いろいろな人の小さな力を集めて課題に向かえている ◎運営課題を解決できている
	企業	〇課題を把握するとともに取り組み事例の収集ができた 〇調査をベースにTSCとの接点が増えた	・知る機会、連携に加わる機会をつくる	→	→	◎地域の課題解決の場面に参加している
	支える人材 ※包括支援C、公民館、行政など		・自治会、町内会支援の方向性を共有する ・自治とは？を見つめ直す ・地域の取り組みに伴走する	・伴走を行うにあたって足りないスキルや知識に気づく	・伴走に必要なスキルや知識を学び、実践の場で活かす	◎自治支援の方向性が共有され、連携ができている ◎支援者が、地域や市民からの相談に応じることができている
連携による課題解決を進める		〇さまざまな主体が設定したテーマについて一緒に考え、課題解決に向けた基盤づくりができた 〇企業とNPOとのマッチング事例が生まれた 〇第六次総合計画の基本的姿勢の中に、「市民協働を推進する」ための計画であると明記されている	・地域の今（特に自治体・町内会から出るテーマ）を多様な主体で共有し考える ※可能であれば、「TSR Vol.3」の実施も視野に入れる	・地域の今（特にNPOの取り組み）を多様な主体で共有し考える	・連携事例の報告および今後の取り組みを多様な主体で考え、発信する ・取り組みのまとめ冊子作成など共有し広める機会を設ける	◎多様な主体による連携が進んでいる ◎各主体が、連携のよさを感じている
情報発信		〇「tag」紙面をリニューアルした 〇ウェブサイト、ブログの月平均訪問者数が増えている	・各プロジェクトや連携に関する発信を行う	→ ※「tag」100号（4月）	→	◎地域づくりについて知る機会が設けられている
備考			・区長制度廃止、新たな自治会・町内会運営へ ・小学校新学習指導要領実施 ・国勢調査 ・東日本大震災から10年	・第六次総合計画の始まり（～令和12＝2030年度） ・中学校新学習指導要領実施 ・市制施行50周年	・高等学校新学習指導要領実施（2024＝令和6年度まで、年次進行で実施）	・東北学院大学工学部が移転（2023＝令和5年） ・多賀城創建1300年（2024＝令和6年）

Ⅲ

添付資料